

自己点検・評価報告書
(2021年度)

2022年5月12日

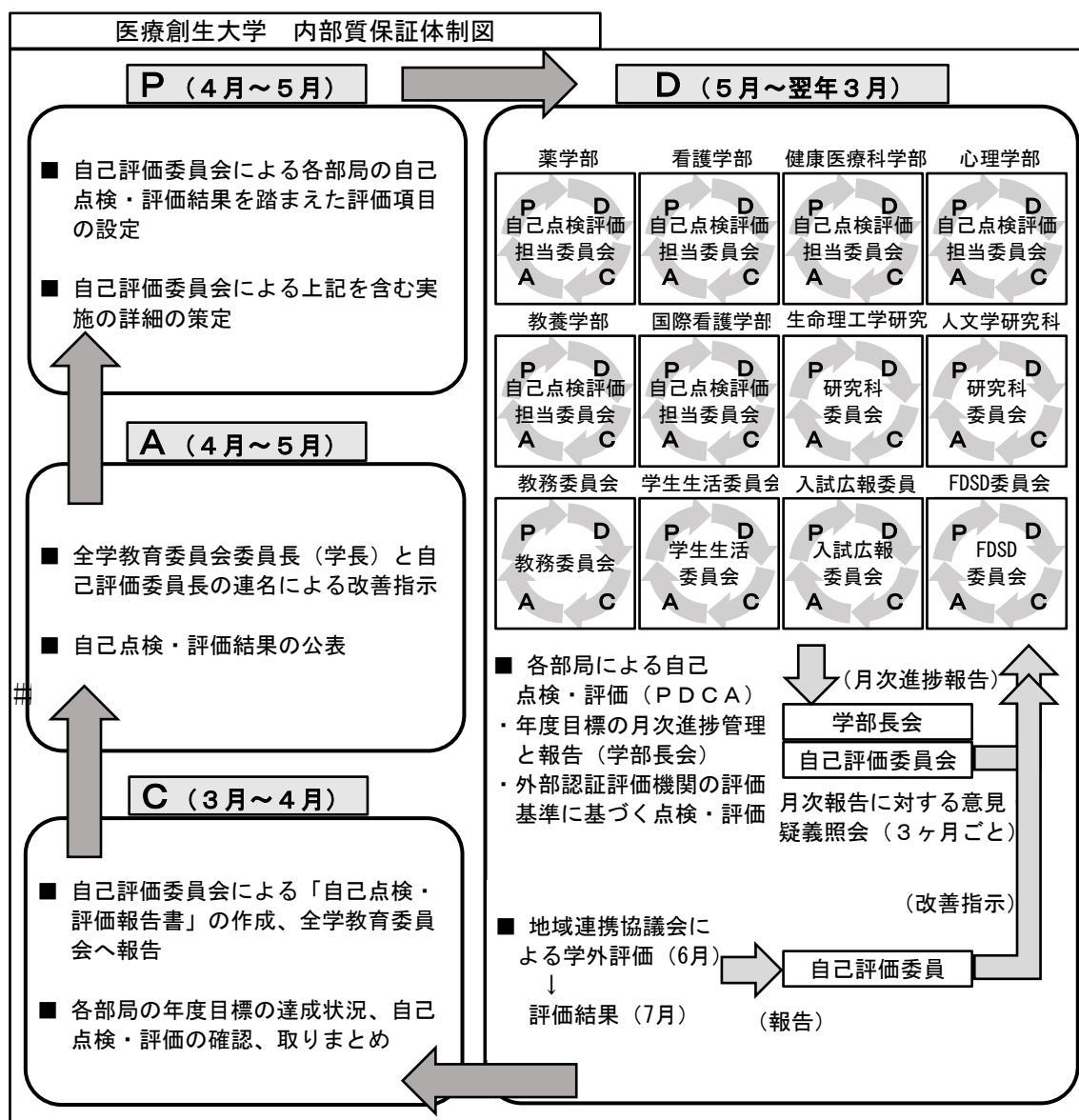
医療創生大学 自己評価委員会

本学では、「自己点検・評価に関する規程」を定め、毎年、自己点検・評価を実施することとしています。全学教育委員会を責任主体、本委員会を実施主体として、内部質保証体制に基づき、2021年度の自己点検・評価を行いましたので、以下のとおり報告します。

1. 医療創生大学内部質保証体制図	P. 1
2. 各部局の自己点検・評価	
・薬学部	P. 2
・看護学部	P. 8
・健康医療科学部	P. 14
・心理学部	P. 20
・教養学部	P. 26
・国際看護学部	P. 31
・生命理工学研究科	P. 36
・人文学研究科	P. 41
・事務局企画課	P. 47
・事務局教務学生課	P. 52
・事務局総務課	P. 56
3. 大学基準協会の定める「大学基準（教育課程・学習成果）」による自己点検・評価	
・薬学部	P. 61
・看護学部	P. 68
・健康医療科学部	P. 75
・心理学部	P. 82
・教養学部	P. 89
・国際看護学部	P. 96
・生命理工学研究科	P. 103
・人文学研究科	P. 110
4. 大学基準協会の定める「大学基準（学生の受け入れ）」による自己点検・評価	
・薬学部	P. 117
・看護学部	P. 121
・健康医療科学部	P. 125
・心理学部	P. 129
・国際看護学部	P. 133
・生命理工学研究科	P. 137
・人文学研究科	P. 141
5. 改善課題	P. 145

1. 医療創生大学内部質保証体制図

P	自己点検・評価項目及び実施の詳細の策定 (規程第2条、3条)
D	各部局の教育活動 (PDCA) の確認・把握、学外評価に基づく各部局への改善指示
C	各部局の自己点検・評価結果の確認、検証、及び自己点検・評価報告書の作成 (規程第5条、6条)
A	検証結果に基づく全学教育委員長と自己評価委員長の連名による各部局への改善指示、及び自己点検・評価結果の公表 (規程第8条)



令和3年度 自己点検評価結果

教育理念・目的		科学的根拠(サイエンス)に基づいた術(アート)を備えた慈愛(ハート)のある医療人の創生		
学部・研究科		薬学部	学部長・研究科長	松本司
指標	数値目標	前年度数値	達成のための具体的対策	
国家試験対策	100.0% (新卒)	100.0% (新卒) (43/43)	・低学年次における基礎力向上 ・教員による国試対策夏期ならびに春期講習会 ・予備校講師による物理系科目の重点補講 ・頻回の国試対策模擬試験により弱点科目の再認識を促す ・国試対策委員会による頻繁の国試対策会議 ・卒業留年生ならびに国試浪人の対策を検討する	
■目標(数値目標)の達成度、取組みの状況(取組みの有効性・適切性も含めて評価してください。)				
[取組み状況] ・2022年3月24日に国試合格者の発表があった。新卒の合格率100%を目標としていたが、92.2%と数値目標に到達しなかった。 ・既卒を含めての本学の合格率は90.6%であり(全体の合格率 68.0%)、国公立大学を含む薬系大学全国73校中5位(私立薬科大学56校中3位)であった。ある程度効果的な国試対策が実施できたものと考えている。				
■課題・改善点(課題・改善点と判断した根拠も含めて評価してください。)				
課題として卒業留年生が少なからず生じていることが挙げられる。留年生を如何に減らすかが令和4年度の課題である。				
■改善計画(時期(〇〇までに)を明確に、具体的な内容の改善計画を立ててください。)				
・卒業留年生ならびに国試浪人の指導を重点的に実施する。卒業留年生は、基礎科目を不得意とする者が多い。そこで、8月までには物理・化学・生物学の基礎科目の総復習を終えるように指導する。				

令和3年度 自己点検評価結果

教育理念・目的	科学的根拠(サイエンス)に基づいた術(アート)を備えた慈愛(ハート)のある医療人の創生		
学部・研究科	薬学部	学部長・研究科長	松本司

指標	数値目標	前年度数値	達成のための具体的対策
就職対策	100.0% (国試浪人除く)	100.0% (国試浪人除く) (43/43)	・薬学就職委員会による履歴書や小論文の添削、個別の面接練習 ・就職のミスマッチの有無についての調査 ・薬会関連施設への斡旋
■目標(数値目標)の達成度、取組みの状況(取組みの有効性・適切性も含めて評価してください。) ・就職希望者は就職率100%を達成することができた(国試不合格者を除く)。			
■課題・改善点(課題・改善点と判断した根拠も含めて評価してください。) ・いわき市内での就職を希望する者が多く、将来的には市内および近隣地域の薬剤師の飽和が予想される。			
■改善計画(時期(〇〇までに)を明確に、具体的な内容の改善計画を立ててください。) ・就職エリアを拡大させるため近隣の求人募集情報の紹介に加えて、遠隔地の病院・薬局への就職を斡旋する。また、公務員(県警察署、県職員)や製薬企業からの求人情報を積極的に周知する。			

令和3年度 自己点検評価結果

教育理念・目的		科学的根拠(サイエンス)に基づいた術(アート)を備えた慈愛(ハート)のある医療人の創生		
学部・研究科		薬学部	学部長・研究科長	松本司
指標	数値目標	前年度数値	達成のための具体的対策	
留年対策	修業年限進級率 31.6% (25/79) (編入生除く) 留年率 6.6% (1～5年) (20/303)	修業年限進級率 21.6% (21/97) (編入生除く) 留年率 9.6% (1～5年) (30/312)	・基礎学力の低い入学生に2・3・4年生10名がマンツーマンで授業内容を指導(クラムスクール) ・在籍状況(留年・休学など)の分析 ・留年者ガイダンスならびに6年生定期的面談 ・留年生への指導を徹底するよう教授会において学部長からの指示 ・チューター面談、学年主任面談の頻度を増やし、きめ細やかな指導を行う。	
■ 目標(数値目標)の達成度、取り組みの状況(取り組みの有効性・適切性も含めて評価してください。)				
・修業年限進級率(ストレート合格、編入生除く)は、31/79＝39.2%であり、目標を上回ることができた。 ・留年率(1～5年生)は、目標を下回り9.9%(30/303)であった。この数値は、昨年とほぼ同様の数値であった。				
■ 課題・改善点(課題・改善点と判断した根拠を含めて評価してください。)				
・低学年次における基礎学力増強対策が不十分であったと考えられる。低学年での基礎学力の増強が喫緊の課題である。 ・中学校レベルの数学や理科、国語力しか有していない基礎学力の低い学生に対する指導方法の確立が課題である。				
■ 改善計画(時期(〇〇までに)を明確に、具体的な内容の改善計画を立ててください。)				
・低学年の学生に対して、基礎学力向上に向けたチューター面談、学年主任面談の頻度を増やし、きめ細やかな指導を行う。特に、成績不振の学生を対象に補講を実施し、学力の向上を図る。 ・教員のマンパワーにも限界があるため教員相互に助け合えるように情報交換を密に行い、基礎学力を向上させるべく学生の指導を行う。 ・将来的には、基礎学力の高い受験生のみを対象に入学を許可することが出来るように募集活動に力を入れたい。基礎学力の高い学生が入学すれば留年率の大幅な低下が期待される。				

令和3年度 自己点検評価結果

教育理念・目的	科学的根拠(サイエンス)に基づいた術(アート)を備えた慈愛(ハート)のある医療人の創生		
学部・研究科	薬学部	学部長・研究科長	松本司
指標	数値目標	前年度数値	達成のための具体的対策
離籍対策	2.6% (1～6年) (10/380)	4.6% (1～6年) (18/388)	・在籍状況(留年・休学・退学など)の分析 ・ミスマッチ学生に対して、薬剤師の職業としての魅力ならびに社会的意義を伝える (主に体調不良、経済的理由、他大学へ進学、学業不振) ・新型コロナ感染拡大により経済的に困窮する学生への給付型奨学金の積極的紹介
■目標(数値目標)の達成度、取り組みの状況(取り組みの有効性・適切性も含めて評価してください。)			
・チューターや学年主任が積極的に指導を行い離籍防止に努めた。この取り組みは適切であったと考えているが、残念ながら、離籍率(1～6年生)は、23/380＝6.1％であり、目標を下回った。			
■課題・改善点(課題・改善点と判断した根拠を含めて評価してください。)			
・主に体調不良、経済的理由、ミスマッチ入学による他大学へ進学、学業不振が退学理由であった。 ・学業不振の学生の多くは、入学時点で基礎学力が極めて低い学生である。基礎学力の極めて低い学生の指導を如何に行うかが課題である。			
■改善計画(時期(〇〇までに)を明確に、具体的な内容の改善計画を立ててください。)			
・経済的に困窮する学生に給付型奨学金を積極的に紹介する。 ・ミスマッチ学生に対して、薬剤師の魅力を伝え、進路変更を思い留まらせる指導を行う。 ・成績不振による離籍防止のために、留年対策と同様に成績不振の学生を対象に補講を実施し、学力の向上を図る。 ・将来的には、基礎学力の高い受験生のみを対象に入学を許可することが出来るように募集活動に力を入れたい。			

令和3年度 自己点検評価結果

教育理念・目的	科学的根拠(サイエンス)に基づいた術(アート)を備えた慈愛(ハート)のある医療人の創生		
学部・研究科	薬学部	学部長・研究科長	松本司

指標	数値目標	前年度数値	達成のための具体的対策
学生募集 対策	100.0% (60/60)	67.8% (61/90)	・高大連携事業(一日総合大学)、高校出前講座における広報 ・薬学部受験生増に向けて、今年度からいわき市内の中学生を対象にした広報のため講習会を事務局と連携し開催する。 ・市内病院・薬局への薬学ブレチンの配布などによる広報活動の強化
■目標(数値目標)の達成度、取組みの状況(取組みの有効性・適切性も含めて評価してください。) ・定員充足率は、$41/60=68.3\%$であり、昨年とほぼ同じ数値であった。			
■課題・改善点(課題・改善点と判断した根拠を含めて評価してください。) ・定員充足率は昨年同様の数値であるが、定員削減後の数値であり、目標数値から大きく乖離している。			
■改善計画(時期(〇〇までに)を明確に、具体的な内容の改善計画を立ててください。) ・事務局スタッフの協力の下に積極的な高校訪問を行うなど募集活動に力を入れたい。			

令和3年度 自己点検評価結果

教育理念・目的	科学的根拠(サイエンス)に基づいた術(アート)を備えた慈愛(ハート)のある医療人の創生		
学部・研究科	薬学部	学部長・研究科長	松本司

2020年度自己点検・評価報告書に基づく改善課題への取り組み状況			
■改善課題及び改善指示 留年率が一昨年の10.0%から9.6%へ改善しているものの、年度目標には達していないため、目標数値を過去の状況を分析したうえで適切に設定し、具体的な改善の取り組みを行い、月次の進捗報告を行ってください。			
■取り組みの状況(取り組みの有効性・適切性も含めて評価してください。) ・留年対策・離籍対策の項に記した通り。			
■課題・改善点(課題・改善点と判断した根拠も含めて評価してください。) ・留年対策・離籍対策の項に記した通り。			
■改善計画(時期(〇〇までに)を明確に、具体的な内容の改善計画を立ててください。) ・留年対策・離籍対策の項に記した通り。			

令和3年度 自己点検評価結果

教育理念・目的		科学的根拠(サイエンス)に基づいた術(アート)を備えた慈愛(ハート)のある医療人の創生		
学部・研究科		看護学部	学部長・研究科長	大堀昇
指標	数値目標	前年度数値	達成のための具体的対策	
国家試験対策 (国試・就職委員長)	100.0%	88.8%	①1年生は年1回、2年生・3年生は年2回、4年生は年6回程度の国家試験業者模擬試験を実施する。その結果を教員で共有し学生指導に役立てる。また、3・4年生は教員および業者による補習を行う。 ②模擬試験の結果を成績とあわせて郵送する。また、模擬試験の結果を考慮し、必要時学生とその父兄との3者面談を実施し、現状を理解してもらい協力を得る。 ③不合格者に対して模擬試験、補習などについて情報提供を行う。 ④チューターとの連携を強化する。	
■目標(数値目標)の達成度、取り組みの状況(取り組みの有効性・適切性も含めて評価してください。)				
(達成度)第111回看護師国家試験の合格率は91.8%(現役生67名合格)、第108回保健師国家試験合格率は95.0%(現役生19名合格)であった。数値目標には届かなかったが前年度の合格率と比較すると、合格率は上昇した。 ①(4年生対策)5月から1月末にかけて、業者模試を9回実施し(計画時より4回追加)、都度模試問題の振り返りをし理解を深めていった。また、業者による強化補講を8月から6回、正答率の低い問題を中心として教員による補講を随時実施した。さらに、12月には成績低迷者に対して学部長面談、国家試験対策委員による面談を行い、学習状況の確認、今後の学習計画等について助言した。各チューターとの情報共有も図り支援した。これらの対策を行ったことが知識の定着につながり、合格率の微増があったと思われる。(1-3年生対策)3年生は、業者模試2回、強化補講1回を実施した。強化補習前には、解剖ノートを事前に配布し自己学習を促したり、4年生との情報交換会を開催した。1、2年生は、業者模試、強化補講を各1回実施した。2、3年生の満足度が高かったことから(3年生:74.1%、2年生:87.8%)、概ね国家試験対策として有効であったと考えられる。 ②各回の模試結果を保護者に郵送し、共有を図った。また、12月からは、成績低迷者と保護者、チューターによる三者面談を実施し、協力、支援を求めた。当該学生にとって刺激になったようである。 ③昨年度の国試不合格者8名のうち5名が研究生となり、現役生同様の業者模試、強化補講を実施し、6名が合格した(合格率75%)。不合格者の傾向として、本格的に取り組む時期が遅いと感じた。 ④業者模試の結果をチューターと共有し、適宜学習支援を依頼した。具体的には学習計画の立案、学習の進捗管理を依頼し、一学生に対して、複数教員がかかわりを持った。				
■課題・改善点(課題・改善点と判断した根拠を含めて評価してください。)				
(4年生および研究生) ・改善点としては、年度はじめに、現役生および研究生のチューターを中心に学習計画を立案、定期的に学習状況を把握する。また、次年度は出題基準が変わる可能性が高いため、出題基準を確認した上で、必修問題、一般状況設定の自己学習用課題を作成し配布することにより学習の習慣化を図る。 ・業者を活用し、年間を通した対策計画を立案していく。 ・成績低迷者に対する、空きゴマ、土曜日を活用した強化補講を検討する。 ・定期的な内部模試の導入を検討する。 (1-3年生) 低学年から学習の習慣化を図る必要がある。改善点としては、1年生夏期強化補講、2年生夏期・3月強化補講、3年生夏期・3月強化補講を行うとともに、チューターと連携して学習の習慣化を図り、安定した知識の定着を目指す。				
■改善計画(時期(〇〇までに)を明確に、具体的な内容の改善計画を立ててください。)				
すでに委員で改善点を共有し、切れ目なく学習の習慣化を図ること、知識の定着を促すことを目指し、次年度の計画を立案した。 <現役生および研究生> 4月:チューターによる学習支援 5月:模擬試験実施、結果分析、結果保護者へ送付 6-7月:必修問題・一般状況設定問題自己学習用課題配布 8月:強化補講 9月:模擬試験実施(目標必修問題40点以上)、結果分析、クラスにわけ分野別問題配布 10-11月:分野別問題配布、教員による補習、模擬試験(一般状況設定170点以上) 12月:業者による強化補講 1月:模擬試験(必修問題40点以上、一般状況設定問題170点以上) 2月:国家試験受験、自己採点 <1-3年生> 1年生:夏期強化補講、模擬試験実施・振り返り 2年生:夏期・3月強化補講、模擬試験実施・振り返り 3年生:夏期・3月強化補講、模擬試験実施・振り返り、解剖ノート補講前事前配布、4年生との情報交換会				

令和3年度 自己点検評価結果

教育理念・目的		科学的根拠(サイエンス)に基づいた術(アート)を備えた慈愛(ハート)のある医療人の創生		
学部・研究科		看護学部	学部長・研究科長	大堀昇
指標	数値目標	前年度数値	達成のための具体的対策	
就職対策 (国試・就職委員長)	100.0%	91.4%	①2年生は年1回、3年生には年2回、円滑な就職活動が行えるよう就職関連講座を行う。また、就職先の選択に役立てるため、学内における就職説明会を年1回行う。3・4年生には面接や小論文の指導などを行う。 ②4年生担当の新任教員に対し、円滑な指導が行えるよう就職支援マニュアルを見直し、改訂する。 ③就職・進学支援を行う上で教員が活用可能なデータベースを作成する。 ④就職・進学の状況を教務学生課担当者と情報を共有する。 ⑤キャリア支援室を整備し、1-4年生の利用を促す。	
■目標(数値目標)の達成度、取り組みの状況(取り組みの有効性・適切性も含めて評価してください。)				
(達成度)就職者数は対象者64名中64名(100%)であり達成した(進学者3名、不合格者6名除く)。 ①(4年生)国家試験合格者64名全員が就職できた。学生が主体的に就職・進学活動できるように支援ができた。 (1-3年生)福島県開催のWEB就職説明会へ申込みを行った。また、就活関連講座(履歴書、小論文)を実施、希望調査を実施した(次年度のチューターへ情報提供できるように準備した)。2年生は就活関連講座(実習マナー講座、就職活動開始に必要な知識)を実施した。講座の評価アンケートから、実習に対する姿勢や態度に対する考え方の変化について変わったと回答があった2年生は51名(87.2%)であった。 ②改訂版の新任教員用の就職支援マニュアルを見直し、次年度の新任教員オリエンテーションに向け準備を進めたが、未完成となった。 ③教員が活用可能なデータベースについては、就職活動情報報告書、進路決定(兼内定)届を作成し、教員、学生に周知した。未定の学生については継続的に就職活動、進学に向けた支援をチューターにも協力を得て継続的に支援した。 ④学生の就職進学の状況を教務学生課担当者と情報を共有した。 ⑤キャリア支援室に求人情報や就職活動に関連する書籍等を設置し、学生自ら情報収集し活用できるよう環境を整備した。1-4年生および研究生も利用し情報収集した。以上のことから、就職・進学100%ではなかったが、全学年に対して就職・進学の支援を行えた。				
■課題・改善点(課題・改善点と判断した根拠を含めて評価してください。)				
(4年生) 学生が主体的に早期から就職・進学ができるよう支援する必要がある。改善策としては、国家試験合格に向けた学習状況に応じ、支援する。 (1-3年生) 低学年から主体的に就職・進学活動ができるように支援する必要がある。改善策としては、1年生から就職講座を実施することにより、主体的かつ円滑に就職・進学活動ができるように支援する。また、各学年でニーズに応じた講座等を開催することにより、就職・進学活動の意識づけを図る。3年生を対象とした学内就職説明会は感染対策を十分に行い、学生の学ぶ場を可能な限り提供できるように準備する。				
■改善計画(時期(〇〇までに)を明確に、具体的な内容の改善計画を立ててください。)				
低学年から主体的に就職・進学活動ができるように支援する必要を踏まえ計画した。 <1年生> 8-9月就職関連講座(実習マナー) <2年生> 8-9月就職関連講座(就職活動開始に必要な知識) 通年:チューターによる就職・進学支援 <3年生> 9月:就職関連講座(就職活動のはじめ方) 9月:学内就職説明会の開催 1月:進学・就職希望調査、就職関連講座(小論文・履歴書の作成) 通年:チューターによる就職・進学支援 <4年生> 8月:卒業生による講話 通年:チューターによる就職・進学支援				

令和3年度 自己点検評価結果

教育理念・目的		科学的根拠(サイエンス)に基づいた術(アート)を備えた慈愛(ハート)のある医療人の創生		
学部・研究科		看護学部	学部長・研究科長	大堀昇
指標	数値目標	前年度数値	達成のための具体的対策	
留年対策 (教務委員長)	2.0%	2.2%	1. 留年リスク学生の早期発見・早期対応 1) 科目担当者は欠席がちな学生を欠席授業数が3分の1に達する前に把握し、チューター・学年主任に報告する。チューターは、当該科目以外の出席状況も確認し、学習面・生活面の指導を行う。 2) 前年の成績不良者(GPA2未満)、再履修科目がある学生には、GPA面談をチューターに各期で行ってもらよう依頼する。 2. 授業方法の改善 1) 毎回の授業で、学習目標と内容の提示をすることを推進していく。 2) ICT委員会と連携し今年度から本格導入されたLMS(C-learning)活用を促進する。 3. 遠隔授業実施への支援	
■目標(数値目標)の達成度、取り組みの状況(取り組みの有効性・適切性も含めて評価してください。)				
(達成度)4月在籍者(1～4年次)324名中、留年者8名で、2.5%の留年率となり、目標達成はできなかった。しかし、この留年者数には前年度からの継続休学者2名を含むことから、これを除く留年者は6名となり今年度発生留年率は1.9%と目標を達成してる。学年内訳は、3年生5名(うち継続休学者1名)、2年生2名(うち継続休学者1名)、1年生1名であった。留年となった理由としては、3年生では実習単位が修得できなかったケースが2名、1,2年生ではほとんどが体調不良や友人関係の悩みなどによる精神的不調であった。 1.留年リスク学生の早期発見・早期対応 チューターと連携して欠席がちな学生に対して面談や指導を行っていたが、時間割上の問題もあり、結果として早期対応が十分ではなかった。GPA2未満者については、チューターの面談、各科目担当者による補習や再々試験などを行うことで、留年者はいなかった。しかし、低成績状態は変わらず、今後も手厚い指導が必要である。 2.授業方法の改善 毎回の授業で学習目標と内容の提示を推進していくという目標を掲げ、年度当初の教授会で呼びかけは行ったが、すべての科目で実施できていたかは検証はできなかった。 3.遠隔授業実施への支援 非常勤講師や柏キャンパスにいる教員が担当する11科目で遠隔授業方式となった。本学が採用しているTeamsに慣れていなかったため、事前のオリエンテーションや通信テストだけでなく、毎回、教務委員や当該領域の教員が遠隔授業のサポートに入ることによってこれら科目の授業及び試験を無事に終了することができた。しかし、遠隔授業の実施手順書の作成には至らなかった。				
■課題・改善点(課題・改善点と判断した根拠を含めて評価してください。)				
1.留年リスク学生の早期発見・早期対応 欠席がちな学生に対してはチューターと連携して相談や指導は行っていたが、2コマ続きで短期間で科目が終了するなど時間割上の問題もあり、対応を始めた段階ですでに失格となってしまった学生もいたことから、学生への働きかけを迅速にしていける必要があると思われる。また、3年次では実習で欠席学生がいたことから、各実習を担当する教員同士での連携を強化していく必要がある。 2.授業方法の改善 現行のC-learningは科目担当者以外は閲覧することが不可能なため、各科目で授業回毎に学習目標と内容を提示できているかを委員会でチェックすることは難しい。自己申告方式などの方法を検討していく必要がある。 3.遠隔授業実施への支援 年度当初の活動方針で、非常勤講師等対応マニュアル作成を目指していたが、非常勤講師の数が多かったことや、年度途中の科目担当者変更、学外講師の遠隔授業のサポート対応に追われてしまったことなどから、マニュアル作成に着手できなかった。遠隔授業については、出席管理・試験の実施方法なども含め課題も見えてきている。今年度明らかになった課題を踏まえ、次年度以降、遠隔授業サポートの内容も盛り込んだ非常勤講師対応マニュアルを整備していく必要がある。				
■改善計画(時期(〇〇までに)を明確に、具体的な内容の改善計画を立ててください。)				
1.留年リスク学生の早期発見・早期対応 学期当初当初だけでなく、毎月の教授会で、欠席がちな学生の早期把握を、各教員に呼びかけていく。実習科目間で学生の実習・学修状況の情報共有を行う方策を実習委員会と検討する。 2.授業方法の改善 学習目標と内容を提示することに関して、教授会等を通じて呼びかけを頻回に行っていく。 上記が実施されているかを確認する方法を検討していく。 3.遠隔授業実施への支援 次年度中にマニュアルを完成させる。				

令和3年度 自己点検評価結果

教育理念・目的		科学的根拠(サイエンス)に基づいた術(アート)を備えた慈愛(ハート)のある医療人の創生		
学部・研究科		看護学部	学部長・研究科長	大堀昇
指標	数値目標	前年度数値	達成のための具体的対策	
離籍対策 (生活・行事委員長)	1.0%	2.2%	1. 離籍危機のある学生の早期発見・早期対応 ①欠席状況に合わせた面談 授業回数が1/6程度進行した頃には出席状況を把握し、欠席回数の多い学生にはチューター面談をしてもらえるよう科目責任者に依頼する。 ②学生面談の実施 学修、学生生活に関する個別相談、アドバイスを定期的に行う。 ③面談後の学生カルテの記録を徹底する。 フレッシュヤーズセミナー等で学生の出席状況を把握し、学生行事委員会において学生の学業、生活面についての対策検討	
■目標(数値目標)の達成度、取り組みの状況(取り組みの有効性・適切性も含めて評価してください。)				
(達成度)4月在籍者(1～4年次)324名中、離籍者6名で、1.9%の離籍率となり、目標達成はできなかった。しかし、昨年度に比べ好転してきてる。学年内訳は、3年生5名(うち継続休学者1名)、2年生2名(うち継続休学者1名)、1年生1名であった。離籍となった理由としては、3年生では進路変更1名、学納金未納入による除籍1名、1,2年生では学納金納入困難1名の他3名が友人関係の悩みなどによる精神的不調であった。学業不振による離籍はいなかった。 1. 離籍危機のある学生の早期発見・早期対応 前期、後期の定期的チューター面談以外に、学生の希望に応じて随時チューター面談を実施し、学生の学業、人間関係への悩みに対する相談、指導を行った。また、チューターによる勉強会の実施など学業支援も実施し、学生とのコンタクト機会を増やすようにしていた。科目担当教員とは欠席が続く学生や成績不振学生の情報を共有し、早期情報収集、面談に努めた。学業不振による離籍者はおらず、有効であったと考える。これら以外にも、学修やキャリア相談、看護師国家試験への協力要請や、保護者からの相談対応を実施した。また、感染対策に関する注意喚起、啓発活動、感染対策実践、健康教育などの役割を担い、COVID-19のクラスター発生はなく、対面授業を継続できる学修環境の確保に一躍を担った。				
■課題・改善点(課題・改善点と判断した根拠を含めて評価してください。)				
・学業不振による離籍がいなかったことから、継続して今年度同様の活動をしていく。 ・学納金納入困難や友人関係の悩みなどによる離籍理由が多いことから、教務学生課や学年主任等の関係者とも情報共有し、早期対応にあたる。 ・COVID-19の猛威が収まらず、今後の状況を鑑みながら柔軟に対応していく必要がある。さらに、COVID-19に伴う経済的な支援など、学生生活に関する問題も複雑でかつ多様な問題を抱える学生が多くなりつつあるため、引き続き手厚い支援を行っていく必要がある。				
■改善計画(時期(〇〇までに)を明確に、具体的な内容の改善計画を立ててください。)				
委員会で離籍対策の目標と改善方法を共有して、次年度の計画を立案した。				
4月～5月:チューターによる面談 4月～7月:欠席状況調査 8月:教員間による学生の情報共有 9月～10月:チューターによる面談 9月～1月:欠席状況調査 1月:教員間による学生の情報共有 随時:学生支援への対応・教授会での情報共有				

令和3年度 自己点検評価結果

教育理念・目的		科学的根拠(サイエンス)に基づいた術(アート)を備えた慈愛(ハート)のある医療人の創生		
学部・研究科		看護学部	学部長・研究科長	大堀昇
指標	数値目標	前年度数値	達成のための具体的対策	
学生募集 対策 (生活・行事委員 長)	100.0%	95.0%	①オープンキャンパスやホームページ等に掲載する看護学部をPRするデジタルコンテンツを作成する。 ②上記デジタルコンテンツを出前講座等でも紹介する。 ③オープンキャンパス参加リピーターを増やすために、各回、異なる内容で実施する。	
■目標(数値目標)の達成度、取り組みの状況(取り組みの有効性・適切性も含めて評価してください。)				
(達成度)令和4年度新入生51名(定員充足率63.7%)と激減した。 看護学部PR用のデジタルコンテンツの作成は、企画段階どまりとなり作成までには至らなかったが、年間6回のWebまたは来場型オープンキャンパスでは、スケジュールに合わせて準備、実施することができた。来場型オープンキャンパスでは、6号館エントランスホールに展示物を準備したり、学生スタッフを活用したり工夫をし、毎回異なる内容を展開できた。出張講義においては、高校からの依頼内容・スケジュールに合わせて実施できた。また、1日総合大学・大学見学会においては、実習中でもあり業務調整や依頼がスムーズにいかない時期もあったことから、同じ教員が複数担当することが多く、講義や実習に重複があった。				
■課題・改善点(課題・改善点と判断した根拠を含めて評価してください。)				
・オープンキャンパス、出前講座では、担当教員、内容の重複を防ぐための調整をした計画が必要である。また、専門学校との差別化を図る目的で、アカデミックな内容を盛り込む工夫をしていく。 ・デジタルコンテンツの作成も含め、ICTを活用したオープンキャンパスや出前講座などを検討していく。				
■改善計画(時期(〇〇までに)を明確に、具体的な内容の改善計画を立ててください。)				
1)オープンキャンパス(OC)内容の充実 ・次年度は対面型7回、web型3回が予定されている。コロナ対策のため、模擬講義が一昨年から中止されているが、大学教育を体感できるよう模擬講義を復活させる。 ・対面型OCでは、リピーターを増やす観点から、毎回異なる体験・模擬講義プログラムを企画する。 ・学生オープンキャンパス委員会を立ち上げ、学生が企画からOCに参画できるよう組織づくりをしていく。 2)出前講座協力の強化と内容の充実 ・出前講座は学部PRの良い機会となる。出前講座の際に使用する学部PR動画、チラシ等を作成していく。 ・高校の出前講座だけでなく、研修会・研究会など様々な場で、学部PRをするよう各教員に周知する。				

令和3年度 自己点検評価結果

教育理念・目的	科学的根拠(サイエンス)に基づいた術(アート)を備えた慈愛(ハート)のある医療人の創生		
学部・研究科	看護学部	学部長・研究科長	大堀昇

2020年度自己点検・評価報告書に基づく改善課題への取り組み状況			
■改善課題及び改善指示 看護師国家試験合格率は、新卒では例年95%前後で推移している中、本学では年度目標100%に対し、88.8%の結果となっています。合格に至らなかった学生の要因を分析し、目標合格率達成のための具体的な改善の取り組みを行い、月次の進捗報告を行ってください。			
■取り組みの状況(取り組みの有効性・適切性も含めて評価してください。) (達成度)全国平均合格率(新卒看護師96.5%、新卒保健師93.0%)と比較すると、保健師(本学95.0%)は平均以上であったが看護師(本学91.8%)は平均よりかなり低い結果であった。 取り組み内容は、左記国家試験対策委員会の活動に準ずる。今年度は、各模試後に振り返りを行ない問題と解答の内容理解を深めることを重点課題として、教員だけでなく業者を活用し強化補講などの対策を講じてきた。本取り組み自体は有効であったと考えるが、成績の優劣にかかわらず、一律的全体的に概ね行ってきた。学生を層別化し、各成績状況に合わせた強化対策を講じる必要がある。			
■課題・改善点(課題・改善点と判断した根拠も含めて評価してください。) ・成績低迷者に対する、空きコマ、土曜日を活用した強化補講を検討する。 ・業者を活用し、年間を通した対策計画を立案していく。 ・定期的な内部模試の導入を検討する。			
■改善計画(時期(〇〇までに)を明確に、具体的な内容の改善計画を立ててください。) 左記、国家試験対策に準ずる。			

令和3年度 自己点検評価結果

教育理念・目的	科学的根拠(サイエンス)に基づいた術(アート)を備えた慈愛(ハート)のある医療人の創生		
学部・研究科	健康医療科学部	学部長・研究科長	GOH AH CHENG
指標	数値目標	前年度数値	達成のための具体的対策
国家試験対策	—	—	両学科主任が中心となり、期末試験の成績不振者、専門基礎3科目模試の成績不審者を学習支援の対象とし、学生の学習支援水準を5段階で設定し、留年対策および離籍対策を併せて実施する。また、国家試験の出題率が高い解剖学、生理学、運動学について特別な年間学習計画を立案し、支援(勉強会)を実施することで学力向上を目指す。
■目標(数値目標)の達成度、取り組みの状況(取り組みの有効性・適切性も含めて評価してください。) 令和3年度は、最終学年生が3年生であり目標数値を設定できなかった。ただし、成績不振となる学生又は、成績不振になる可能性がある学生を対象に、合計60回の支援(勉強会)を計画通り、実施することができた。一部の学生は、プログラムを通して、成績の向上を得ることができたが、進路変更(就職)を検討している学生においては、効果を得ることができなかった。			
■課題・改善点(課題・改善点と判断した根拠を含めて評価してください。) [健康医療科学部共通 1年生から3年生] 解剖学、生理学、運動学の期末試験成績が不振となった学生を対象に支援(勉強会)を実行して、効果を試験で確認したが、成績が伸びなかった学生もあり、改善が必要と考える。そのため、令和4年度からは、授業科目の担当教員が積極的に支援(勉強会)に関わることで、成績の向上を図りたい。 [健康医療科学部共通 4年生] 次年度計画のため、改善計画に記載			
■改善計画(時期(〇〇までに)を明確に、具体的な内容の改善計画を立ててください。) 令和4年3月から4月にかけて、以下の内容を実施する。 1、国家試験対策に向けた会議を、学部長、学科主任、担当教員で実施して、年間の国家試験対策を立案して、事務局に情報共有する。 2、解剖学、生理学、運動学の担当教員は、継続的な学習支援が必要な学生に対して、個別面談を実施して、学生カルテに記入する。 3、学年主任及び学科主任は、継続的な学習支援が必要な学生に対する、面談の計画を確認する。 4、4年生の国家試験対策で使用するゼミ室を確保して、授業時間以外のプログラムも開始できるようにする。 令和4年度4月から2月までを5つのフェーズに分けて実施する。 フェーズ1(4月):国家試験対策についてのオリエンテーション、国家試験合格に向けた意欲向上、ミニ講義、学習効果判定試験、グループ学習の方法について紹介(チームティーチングを含む) フェーズ2(7～8月):グループ学習①、チームビルディング(クイズ、運動)、ミニ講義、リハドリル フェーズ3(9月):中間テスト、ミニ講義(オンデマンド)、ミニ講義(ZOOM)、業者模試、リハドリル フェーズ4(10～12月):グループ学習②、チームビルディング(クイズ、運動)、ミニ講義、業者模試 フェーズ5(1～2月):グループ学習③、リハドリル、個別サポート			

令和3年度 自己点検評価結果

教育理念・目的	科学的根拠(サイエンス)に基づいた術(アート)を備えた慈愛(ハート)のある医療人の創生		
学部・研究科	健康医療科学部	学部長・研究科長	GOH AH CHENG
指標	数値目標	前年度数値	達成のための具体的対策
就職対策	—	—	葵会グループの施設紹介や実習施設の紹介を適宜行い、就職意識の醸成を図る。
■目標(数値目標)の達成度、取り組みの状況(取り組みの有効性・適切性も含めて評価してください。) 令和3年度は、最終学年生が3年生であり目標数値を設定できなかった。ただし、年間計画の途中で学部長指示があり、作業療法学科と理学療法学科の合同就職説明会を実施した。また、就職担当の教員を両学科から1名選出し、それを両学科主任がサポート可能な体制を整えたことや、郵送で届いた求人票を学生が閲覧できるようにした。			
■課題・改善点(課題・改善点と判断した根拠を含めて評価してください。) 令和3年度に取り組んだ合同就職説明会は、開催形式をどのようにするか意見が分かれ、準備が滞ることがあった。最終的に、学部長からの指示があり、オンラインと対面のハイブリッド形式で実施したが、開始時の司会進行などで円滑さが欠けた。また、合同就職説明会後のアンケート協力依頼では、就職担当教員が依頼文が無い状態で参加した病院・施設にメール送信し、その後、苦情が各教員に寄せられた。具体的には、就職担当教員からの連絡(本文なしのメール送信、リハーサル不足など)があった。そのため、就職担当教員に対して学部長が直接サポートを行い、就職説明会に参加した施設に対して、フォローアップの連絡が行われた。			
■改善計画(時期(〇〇までに)を明確に、具体的な内容の改善計画を立ててください。) 令和4年度の就職対策活動の年間計画を作成し、年間を通して、計画的に進めると共に、学生一人一人の希望に応じた就職活動の情報供給を実現するために、学生の希望(需要)を聴取して実施する。 [就職に関する情報の供給について] 情報の供給は、学生の希望(勤務地、専門分野)に応じた情報の提供をCラーニングを使用して毎日、更新することで、学生の希望に沿う求人票が実習期間中も閲覧ができる様にする(PULL)。また、学生が希望に近い条件(勤務地、専門分野)の締切日が近づいた場合には、就職担当教員から積極的にコミュニケーションを取る(PUSH)。 [就職に関する学生の希望(需要)について] 需要は、Cラーニングを使用して勤務地域と専門分野について、実施する。 4年生はGW前、3年生と2年生は後期に実施する予定である。 [その他:学生支援] 見学、応募書類の準備、面談の練習、就職試験の準備等 [実習施設との連携] 病院や介護老人保健施設などの実習施設に勤務する実習指導者との勉強会を実施することで、地域の生涯学習に貢献する。 実習施設スタッフとの共同研究や大学院進学への支援を実施する。 実習施設数の増加を図り、市内、県内、県外、葵会グループの連携を増やす。 実習指導者養成講習会を継続して開催する。			

令和3年度 自己点検評価結果

教育理念・目的	科学的根拠(サイエンス)に基づいた術(アート)を備えた慈愛(ハート)のある医療人の創生		
学部・研究科	健康医療科学部	学部長・研究科長	GOH AH CHENG
指標	数値目標	前年度数値	達成のための具体的対策
留年対策	作業療法学科: 0% 理学療法学科: 0%	作業療法学科: 0.02% 理学療法学科: 0.02%	・学科主任が中心となり、各学生の生活状況を把握するとともに、ピア・ティーチングによる学習支援、保護者を交えた学習支援のための面談を行い、家族からの支援を受け生活状況と時間の管理をできるようにする。 ・学生の学習意欲が向上するよう、専任教員の臨床経験を授業で紹介する。
■目標(数値目標)の達成度、取り組みの状況(取り組みの有効性・適切性も含めて評価してください。) 数値目標0%を作業療法学科、理学療法学科ともに、達成できなかった。達成に向けた取り組みは、学習支援、チューター面談、学部長面談などを中心に実行した。 [理学療法学科] ・学習サポートを年間60回開催したことによって、退学率の全国平均16.6%より低い1.5%に抑止できた。			
■課題・改善点(課題・改善点と判断した根拠を含めて評価してください。) 全国の大学作業療法学科や理学療法学科を対象にした全国調査(第1回理学療法士・作業療法士学校養成施設カリキュラム等改善検討会資料5(平成29年6月26日))によれば、作業療法学科の留年率17.7%、理学療法学科の留年率16.6%と報告されている。本学の作業療法学科6.6%、理学療法学科1.5%であり、全国の大学平均に比べると10%以上、留年率が低い状態である。ただし、設定した数値目標を達成できなかったため、次年度はそれが達成できるよう、更に努力したい。			
■改善計画(時期(〇〇までに)を明確に、具体的な内容の改善計画を立ててください。) 以下の4項目について、改善を検討する予定である。 ①アセスメントの基準:継続的な学習評価方法の採用(ミニテスト、中間テスト、レポート) ②成績評価の妥当性担保:各試験の平均値と標準偏差を使用した、高い妥当性または低い妥当性の確認(これは、1つの授業科目成績による、判断ミスを防止するために総合的に議論される) ③再試験スケジュールの調整:本試験の結果から再試験までの学習時間の確保と、担当教員による再試験前のフィードバックを実施する ④成績評価基準:現在は、専門科目1科目が単位未修得となった場合、留年となるために、今後調整を進める。			

令和3年度 自己点検評価結果

教育理念・目的	科学的根拠(サイエンス)に基づいた術(アート)を備えた慈愛(ハート)のある医療人の創生		
学部・研究科	健康医療科学部	学部長・研究科長	GOH AH CHENG

指標	数値目標	前年度数値	達成のための具体的対策
離籍対策	作業療法学科: 0% 理学療法学科: 0%	作業療法学科: 0.05% 理学療法学科: 0.02%	- 成績不振による離籍を防止するため、上述した学習支援を実施する。 - 進路変更による離籍を防止するため、専任教員が作業療法士や理学療法士のロールモデルとなるよう授業で自身の臨床経験を紹介することや、学生の修学意欲を向上するためにチューター面談や学年主任面談を実施する。 - 上記の対策にも関わらず進路変更を希望する学生に対しては、学科主任面談を迅速に実施する。

■目標(数値目標)の達成度、取り組みの状況(取り組みの有効性・適切性も含めて評価してください。)

数値目標0%を作業療法学科、理学療法学科ともに、達成できなかった。

- ・全国平均以下の離籍となった。
- ・学生の満足度が向上している。
- ・経済的問題の学生(新型コロナウイルス感染症の流行による)については、早期に学生対応を実施して、学部長、事務局と相談を行い奨学金の確認を実施したことが予防につながった。

■課題・改善点(課題・改善点と判断した根拠を含めて評価してください。)

全国の大学作業療法学科や理学療法学科を対象にした全国調査(第1回理学療法士・作業療法士学校養成施設カリキュラム等改善検討会資料5(平成29年6月26日))によれば、作業療法学科の離籍率12.5%、理学療法学科の離籍率12.3%と報告されている。本学の作業療法学科2.6%、理学療法学科4.0%であり、全国の大学平均に比べると約10%、離籍率が低い状態である。ただし、我々が設定した数値目標を達成できなかったことから、次年度はより意欲的に取り組みたい。

■改善計画(時期(〇〇までに)を明確に、具体的な内容の改善計画を立ててください。)

- ①新入生に対して、大学の生活と学習を支援するために、学科の上級生からのメンタリングとサポートが実施できるよう、4月から取り組みを実施する(第1回は4月16日実施予定、第2回は7月23日実施予定)。
- ②病院スタッフを講師として招聘し、現場で活動する作業療法士や理学療法士のリアルボイスを届ける。
- ③進路変更を希望する学生に対して、面談を実施して、転部転科(PTからOT、OTから心理学部)の情報提供も実施している。完成年度以降には、健康医療科学部と心理学部の合同3学科授業科目を設置したいと考え、学部長より相談を進めたい。
- ④経済的問題を抱える学生に対して:チューターシステムを利用した早期の面談と、経済的問題の抽出及び、事務局と連動した情報共有を実施する。

令和3年度 自己点検評価結果

教育理念・目的		科学的根拠(サイエンス)に基づいた術(アート)を備えた慈愛(ハート)のある医療人の創生		
学部・研究科		健康医療科学部	学部長・研究科長	GOH AH CHENG
指標	数値目標	前年度数値	達成のための具体的対策	
学生募集対策	作業療法学科: 100% 理学療法学科: 100%	作業療法学科: 55% 理学療法学科: 126%	・作業療法学科では、入学者数100%(40名)以上の達成に向け、医療創生大学の作業療法学科がなぜ良いのか、教員組織の特徴には何があるのか、作業療法学科学生の授業満足度を精査して、作業療法学科から発信する情報の質を向上させる。例えば、篠田峯子特任教授は、作業療法士養成教育の全国的なパイオニアである。 ・これまで理系の高校生を対象に作業療法学科の情報を発信してきたが、作業療法の特徴として文系の高校生と高校教員をターゲットに情報発信する。 ・理学療法学科では、新入生が医療創生大学を受験した理由を収集、分析し、学科SNS及びオープンキャンパスの計画を立案するとともに、専任教員の教育・研究について質の向上に挑戦する。	
■目標(数値目標)の達成度、取り組みの状況(取り組みの有効性・適切性も含めて評価してください。)				
数値目標を理学療法学科で達成、作業療法学科は未達成となった。				
[作業療法学科] メッセージング(なぜ、医療創生大学の作業療法学科が良いか)を作るため、作業療法士免許を有する教員間で意見交換を重ねることができ、また作業療法学科主任と学部長間でも意見交換ができる様な状況に変化し、各学生の卒業校への情報共有資料作成を追加実施することができた。				
[理学療法学科] 学科独自の広報SNS(Facebook, twitter, Instagram, YouTube)の支持率が30%増となり、YouTubeにおいては、再生回数が2倍の7568回に増加した。学生が医療創生大学で学ぶ姿を中心に年間20回以上を編集して公開したことが、学生募集に貢献したと考える。				
■課題・改善点(課題・改善点と判断した根拠を含めて評価してください。)				
[作業療法学科] ・メッセージングを確定する。 ・オープンキャンパスでは、当日の準備不足によって急遽のプログラム変更を行わなくても良いように、計画的に準備を進める必要がある。 ・学科SNS活動では、学生募集の時期に応じた再生回数の伸びが乏しい状況であった。 ・理学療法学科の指定校見直しに伴い、指定校枠を増やしたことの影響と理学療法学科からの2次合格による影響がどの程度あるか、未検討である。これらの活動によって、前年度55%から75%に改善が見られたが目標の100%を到達できなかった。次年度は、100%を到達できるよう、より意欲的に取り組みたい。				
[理学療法学科] ・メッセージング(なぜ、医療創生大学の理学療法学科が良いか)は、コンセプトを崩さず、改良を重ねることができている。もう少し、保護者向けのメッセージングと高校生向けのメッセージングを改良したい。 ・計画的に実行できている学科SNS活動では、県内と県外を意識した内容に改良したい。 ・指定校数を減らし、評定平均を再考したが、その効果判定指標について未検討であった。 これらの取り組みを実施し、今年度も100%を達成することができた。				
■改善計画(時期(〇〇までに)を明確に、具体的な内容の改善計画を立ててください。)				
令和4年度のオープンキャンパスに向けて、メッセージングを改良するとともに、学科別に活動を実施する。				
[作業療法学科]:学生募集の向上を目指す戦略 ①メッセージング:テクノロジーを導入することがADL向上につながることを伝える。VRテクノロジーを使用した運転技術の向上、スマートホームテクノロジーを使用した、各障害者に対する快適なADLの実現、心理学部との共同による精神作業療法学のイメージ向上) ②ターゲット:文系の高校生や理学療法学科の2次合格、薬学部からの転部転科				
[理学療法学科] ①開設から100%以上を達成している。そのため、学生の質向上に向けて、徐々に推薦入試から一般入試への移行を図りたい。 ②これから国際的なイメージを向上させるため、世界理学療法の教育認証を新カリキュラムで取得できるように、挑戦する。				
[健康医療科学部共通] 作業療法学科の学生や理学療法学科の学生が、より高度かつ専門的な作業療法学や理学療法学を学ぶことができるようになるため、作業療法学、理学療法学の大学院設置を実行する。それを実現することで、ISUの作業療法学科、理学療法学科ではリカレント教育にも対応できることを1つのブランドにしたい。また、大学近隣の施設と連携を図り「敬老の日」などに合わせて交流を深める機会を設けることや、市民公開講座などを通して学生がコミュニティーサービスを学ぶことができるようにしたい。				

令和3年度 自己点検評価結果

教育理念・目的	科学的根拠(サイエンス)に基づいた術(アート)を備えた慈愛(ハート)のある医療人の創生		
学部・研究科	健康医療科学部	学部長・研究科長	GOH AH CHENG
2020年度自己点検・評価報告書に基づく改善課題への取り組み状況			
■改善課題及び改善指示			
OTの入学定員充足率が55.0%と低いため、要因の分析や、他大学の好事例の参照など、定員充足のための方策を検討・実施し、月次の進捗報告を行ってください。またPTは定員超過となっているため、適切な定員管理を行ってください。			
■取り組みの状況(取り組みの有効性・適切性も含めて評価してください。)			
[作業療法学科] ・学生募集に記載した活動を実践したことで、令和2年度の55%から75%に改善傾向が見られたものの、目標とする100%に到達しなかった。次年こそ、100%が達成できるよう意欲的に取り組みたい。 [理学療法学科] ・指定校数と評定の見直しを実施したが、適切な定員管理が実施できない状態であった。そのため、将来的には、定員増も視野に入れて次年度移行検討したい。			
■課題・改善点(課題・改善点と判断した根拠を含めて評価してください。)			
[作業療法学科] ・メッセージングを確定する。 ・オープンキャンパスでは、当日の準備不足によって急遽のプログラム変更を行わなくても良いように、計画的に準備を進める必要がある。 ・学科SNS活動では、学生募集の時期に応じた再生回数の伸びが乏しい状況であった。 ・理学療法学科の指定校見直しに伴い、指定校枠を増やしたことの影響と理学療法学科からの2次合格による影響がどの程度あるか、未検討である。 これらの活動によって、前年度55%から75%に改善が見られたが目標の100%に到達できなかった。次年度は、100%を到達できるよう、より意欲的に取り組みたい。 [理学療法学科] ・一般入試の受験者数増を達成することができれば、より適切な定員管理に向けて指定校の見直しを図ることができるが、現状、人気はない。 ・前年度より受験者数が減少している状況があり、これが指定校枠の見直しによる影響であるか、受験生人口の減少による影響であるかの特定ができない状況であり、分析に課題がある。			
■改善計画(時期(〇〇までに)を明確に、具体的な内容の改善計画を立ててください。)			
[作業療法学科] 学生募集が向上するための戦略 ①メッセージング:テクノロジーを導入することがADL向上につながることを伝える。VRテクノロジーを使用した運転技術の向上、スマートホームテクノロジーを使用した、各障害者に対する快適なADLの実現、心理学部との共同による精神作業療法学のイメージ向上) ②ターゲット:文系の高校生や理学療法学科の2次合格、薬学部からの転部転科 [理学療法学科] ①解説から100%以上を達成している。そのため、学生の質向上に向けて、徐々に推薦入試から一般入試への移行を図りたい。 ②これから国際的なイメージを向上させるため、世界理学療法の教育認証を新カリキュラムで取得できるように、挑戦する。 さらに、医療創生大学作業療法学科の学生や理学療法学科の学生が、より高度かつ専門的な作業療法学や理学療法学を学ぶことができるようにするため、作業療法学、理学療法学の大学院設置を実行する。それを実現することで、ISUの作業療法学科、理学療法学科ではリカレント教育にも対応できることを1つのブランドにしたい。			

令和3年度 自己点検評価結果

教育理念・目的		科学的根拠(サイエンス)に基づいた術(アート)を備えた慈愛(ハート)のある医療人の創生		
学部・研究科		心理学部	学部長・研究科長	窪田文子
指標	数値目標	前年度数値	達成のための具体的対策	
進学・資格対策	—	—	(1)大学院進学希望者・資格取得希望者等を対象にした勉強会(心理学専門と英語)を継続して実施する。現在は2年生が中心だが、様子をみて1年生の参加も促す。 (2)2年生を対象に、8月に開催される心理学検定の受験を促し、勉強をする意識と大学院進学や資格取得に対する動機づけを高める。	
■目標(数値目標)の達成度、取り組みの状況(取り組みの有効性・適切性も含めて評価してください。)				
2021年度は、大学院進学希望者を対象に勉強会を実施し、学生の進捗を把握するために8月に開催された心理学検定に受験をするように求めた。まず、継続的な勉強会への参加者は2年生6名と1年生5名程度であった。2021年4月時点での進学希望者は2年生18名、1年生24名であったことを考えると参加者は少ないが、自習室を開放したことにより個人での勉強をする学生もいることから、学生の学習を促す枠組みは提供できていると考えられる。ただし、勉強会の参加人数の増加が目下の課題であると考えられる。 次に、心理学検定の受験結果は、15名が受験し、5科目合格者が1名、4科目合格者が1名、3科目合格者が2名、2科目合格者が7名、1科目合格者が3名という結果だった。合格の目標としては2年次から1年ごとに3科目ずつ合格すれば、4年次で9科目合格が可能であるために、2年次の目標を達成した学生はおよそ3割であった。勉強会に参加していた学生では5科目合格者と3科目合格者がいるために、勉強会での参加が検定の合格を促したと考えられる。 以上のことから、勉強会への参加ならびに心理学検定の受験の目標は概ね達成されたと評価される。				
■課題・改善点(課題・改善点と判断した根拠を含めて評価してください。)				
課題は、1. 学生の自学自習環境の改善、2. 勉強会の参加者の促進、3. 勉強会の方法の改善の3点が挙げられる。 まず、学生の自学自習環境の改善では、自習室の環境の充実が必要となる。現在、心理学検定の受験ならびに資格取得を目指す学生が大学内で勉強することができるように、3号館5階に設置されている勉強室を開放している。学生への周知はしているものの、利用者は多くはないため、まず学生への周知徹底が求められる。また、勉強室での自習環境を充実させるために、パソコンならびにプリンタを設置し、無線LANの設置も検討している。自習室の環境を充実させることで、学生が自習室に来室することが望め、自習もはかどると考えられる。 次に、勉強会の参加者の促進では、担当者の増加を検討している。現在、勉強会は1名の教員のみが対応しており、十分に学生指導が行き届いているとはいえない。そのため、大学院生にも参加を促し、学部生の教示指導を求めることで、学生への丁寧な指導が可能になるだけでなく、大学院生の公認心理師資格取得の勉強にも繋がると考えられる。そうすることで様々な学生のニーズに対応することができ、勉強会への参加者も増えてくると考えられる。 最後に、勉強会の方法の改善では、講義形式による指導と個別指導の2種類の方法による改善を目指す。現在は、心理学検定の受験に向けた講義のみを実施しているが、先述のように、学生の進捗は千差万別であるために、得意な領域と苦手の領域などがあると考えられる。そのため、大学院生への協力を求めるとともに、学生への個別指導も含めて検討する。				
■改善計画(時期(〇〇までに)を明確に、具体的な内容の改善計画を立ててください。)				
上記の改善計画として、まず自習室の改善については2022年5月までに実施する予定である。現在、心理学部が保有する使用していないパソコンとプリンタがあるために、それらを自習室に完備するとともに、無線LANを購入設置する。 勉強会の参加者の増加については、現在、2022年4月より大学院生には参加して貰っている。ただし、勉強会の方法が変更されたことは十分に学生に伝わっていないために、勉強会の方法の改善も含めて、学生に周知する。 勉強会の方法の改善については、2022年4月に教員に勉強会の方法論についての助言等をもらい、随時変更していく予定である。				

令和3年度 自己点検評価結果

教育理念・目的	科学的根拠(サイエンス)に基づいた術(アート)を備えた慈愛(ハート)のある医療人の創生		
学部・研究科	心理学部	学部長・研究科長	窪田文子

指標	数値目標	前年度数値	達成のための具体的対策
就職対策	—	—	(1)フレッシュャーズセミナーを通しての自律した学生の育成 フレッシュャーズセミナーの導入期には、集団における適応に重点を置いたプログラムを設定し、大学が安心できる環境として認識されることを目指す。安心感の中でグループによる課題解決に取り組むことで、自ら考え、動く姿勢を身につける。 (2)フレッシュャーズセミナーと基礎演習との連結によるキャリア意識の醸成と社会で活かす基本的スキルの習得 1年次のフレッシュャーズセミナー、2年次の基礎演習において、キャリアプランを考える機会を設け、キャリア意識の醸成を目指す。また、社会で生きる基本的なスキルを身につけられるようプログラムを編成する。継続的な調査を実施し、習得状況をチェックし、必要に応じて、プログラムを修正する。

■目標(数値目標)の達成度、取組みの状況(取組みの有効性・適切性も含めて評価してください。)

本年度の心理学部は、1、2年生しか在籍していないため、就職についての数値目標は立てていなかった。よって、到達度を示すことができない。2年後に向けて、1、2年生を対象とした「キャリア意識の醸成」のための取組みは、計画通り行っている。次年度、3年生から就職活動に向けて、より具体的な対策を「キャリアデザイン」および関連科目にて扱う。

■課題・改善点(課題・改善点と判断した根拠を含めて評価してください。)

現時点での改善点や課題はなし。

■改善計画(時期(〇〇までに)を明確に、具体的な内容の改善計画を立ててください。)

改善計画の予定は特になし。

令和3年度 自己点検評価結果

教育理念・目的		科学的根拠(サイエンス)に基づいた術(アート)を備えた慈愛(ハート)のある医療人の創生		
学部・研究科		心理学部	学部長・研究科長	窪田文子
指標	数値目標	前年度数値	達成のための具体的対策	
留年対策	0.0%	0.0%	(1) 要注意学生の把握と支援 必修科目「フレッシュャーズセミナー」・「心理学基礎演習」に関わるチューターから、欠席・課題未提出が顕著な学生や、留年・離籍のリスクのある学生の情報を、学年主任連絡会で集約し、その後、学科教員全体で共有する。さらに、定期的なチューター面談とは別に、必要に応じて適宜、学生面談を実施すること で、柔軟・迅速な学生支援を行う。 (2) 留年・離籍リスクの高い学生の早期把握と計画的支援 入学時の学生個々の情報から、留年や離籍に結び付く課題を抱えたハイリスク学生の早期発見、支援も行う。具体的には、学生の入試形態や出身校、入学後の出席率、GPAなどのデータを集積し、学科内で共有するとともに、計画的支援を行う。	
■目標(数値目標)の達成度、取り組みの状況(取り組みの有効性・適切性も含めて評価してください。)				
当期間留年者:2年生1名(2021年度3月末) (1) 要注意学生の把握と支援 各学年主任が、1年生の「フレッシュャーズセミナー1・2」や「英語A1・A2、B1・B2」、2年生の「心理学基礎演習1、2」や「英語C1・C2」などの必修科目の出席状況や課題提出状況を集約し、さらに留年・離籍のリスクのある要注意学生の情報収集を行った。これらの情報については、月に1度(第2火曜日)行われる学年主任連絡会において、学科主任や学年主任の間で共有した。その後、月に1度(第3水曜日)行われる学科会議において、学科教員全体で共有した。 また、チューター面談を5月と9月に行い、その面談結果はすべて学生カルテ上に入力した。それ以外にも、休学・退学を希望している学生を対象に、5月に1件、6月に1件、8月に1件、9月に1件、10月に1件、12月に1件、学年主任やチューターが面談(メールによる対応も含む)を行った。学生の現状を確認した上で、今後について相談を行った結果、いずれの学生も退学の決断は保留し、休学することとなった。さらに、成績や出席状況に問題のある学生を対象に、7月に2件、12月に2件、チューターが面談を行い、改善するよう指導を行った。 (2) 留年・離籍リスクの高い学生の早期把握と計画的支援 ハイリスク学生の早期発見・支援をするため、入学時の学生情報(入試形態や出身校など)を事務局より提供してもらい、入学後の出席状況やGPA、さらに学生の心的特性に関する尺度の回答結果などのデータと連結し、分析を進めている。				
■課題・改善点(課題・改善点と判断した根拠を含めて評価してください。)				
留年者の行動特性を省みると、(1) 学力不足に加えて、(2) 人間関係の問題などの要因による欠席増加が認められる。 (1) については、適宜学生の理解度評価などを行い、不足部分を補うよう個別指導を行っていく必要がある。 (2) については、授業でのグループワークや日常生活の人間関係などに注意を向けて、適宜、対応・調整をしていく必要がある。また、学生相談などとの連携が必要である。 さらに、入学時の学生情報(入試形態や出身校など)や、入学後の出席状況やGPAなどのデータ分析を通して、要注意学生を早期発見し、対応していく必要がある。				
■改善計画(時期(〇〇までに)を明確に、具体的な内容の改善計画を立ててください。)				
(1) 要注意学生の把握と支援 各学年主任が、留年・離籍のリスクのある要注意学生情報などの収集を行う。これらの学生情報は、月に1度行われる学年主任連絡会において、学科主任や学年主任の間で共有し、さらに月に1度行われる学科会議(教授会)において、学科教員全体で共有する。 また、チューターが各学生に対して個別面談(チューター面談)を5月と9月に行う。さらに、休学・退学を希望している学生を対象に、適宜、学年主任やチューターが面談を実施することで、学生サポートを図る。また、これらの面談結果を学生カルテ上に入力することで、学部内で情報共有する。 なお心理面での学生支援においては、学科だけでは対応困難な事例も起こりうる。その場合には、学生相談などと連携し、柔軟に対応支援を行う。 (2) 留年・離籍リスクの高い学生の早期把握と計画的支援 ハイリスク学生の早期発見・支援をするため、入学時の学生情報(入試形態や出身校など)を事務局より提供してもらい、入学後の出席状況やGPA、さらに学生の心的特性に関する尺度の回答結果などのデータと連結し、分析を進めている。				

令和3年度 自己点検評価結果

教育理念・目的		科学的根拠(サイエンス)に基づいた術(アート)を備えた慈愛(ハート)のある医療人の創生		
学部・研究科		心理学部	学部長・研究科長	窪田文子
指標	数値目標	前年度数値	達成のための具体的対策	
離籍対策	0.0%	5.8%	(1) 要注意学生の把握と支援 必修科目「フレッシュヤーズセミナー」・「心理学基礎演習」に関わるチューターから、欠席・課題未提出が顕著な学生や、留年・離籍のリスクのある学生の情報を、学年主任連絡会で集約し、その後、学科教員全体で共有する。さらに、定期的なチューター面談とは別に、必要に応じて適宜、学生面談を実施することで、柔軟・迅速な学生支援を行う。 (2) 留年・離籍リスクの高い学生の早期把握と計画的支援 入学時の学生個々の情報から、留年や離籍に結び付く課題を抱えたハイリスク学生の早期発見、支援も行う。具体的には、学生の入試形態や出身校、入学後の出席率、GPAなどのデータを集積し、学科内で共有するとともに、計画的支援を行う。	
■ 目標(数値目標)の達成度、取り組みの状況(取り組みの有効性・適切性も含めて評価してください。)				
当期間退学者:2名(2021年度3月末)、現在の休学者:2名(全員来年度復学予定) 在籍者:1年生34名、2年生33名 (1) 要注意学生の把握と支援 各学年主任が、1年生の「フレッシュヤーズセミナー1・2」や「英語A1・A2、B1・B2」、2年生の「心理学基礎演習1, 2」や「英語C1・C2」などの必修科目の出席状況や課題提出状況を集約し、さらに留年・離籍のリスクのある要注意学生の情報収集を行った。これらの情報については、月に1度(第2火曜日)行われる学年主任連絡会において、学科主任や学年主任の間で共有した。その後、月に1度(第3水曜日)行われる学科会議において、学科教員全体で共有した。 また、チューター面談を5月と9月に行い、その面談結果はすべて学生カルテ上に入力した。それ以外にも、休学・退学を希望している学生を対象に、5月に1件、6月に1件、8月に1件、9月に1件、10月に1件、12月に1件、学年主任やチューターが面談(メールによる対応も含む)を行った。学生の現状を確認した上で、今後について相談を行った結果、いずれの学生も退学の決断は保留し、休学することとなった。さらに、成績や出席状況に問題のある学生を対象に、7月に2件、12月に2件、チューターが面談を行い、改善するよう指導を行った。 (2) 留年・離籍リスクの高い学生の早期把握と計画的支援 ハイリスク学生の早期発見・支援をするため、入学時の学生情報(入試形態や出身校など)を事務局より提供してもらい、入学後の出席状況やGPA、さらに学生の心的特性に関する尺度の回答結果などのデータと連結し、分析を進めている。				
■ 課題・改善点(課題・改善点と判断した根拠を含めて評価してください。)				
これまで退学者、ならびに(退学予備軍としての)休学者の行動特性を省みると、(1) 家庭の経済的問題や、(2) 人間関係の問題、(3) 目標喪失・学習意欲低下などによる欠席増加の後に、休学、退学へと進んでいる場合が多い。 (1) については、家庭の問題のため介入が難しい部分も多いが、奨学金制度の紹介などの対応をしていく必要がある。また、学生相談などとの連携が必要である。 (2) については、授業でのグループワークや日常生活の人間関係などに注意を向けて、適宜、対応・調整をしていく必要がある。 (3) については、入学時の学生情報(入試形態や出身校など)や、入学後の出席状況やGPAなどのデータ分析を通して、要注意学生を早期発見し、対応していく必要がある。				
■ 改善計画(時期(〇〇までに)を明確に、具体的な内容の改善計画を立ててください。)				
(1) 要注意学生の把握と支援 各学年主任が、留年・離籍のリスクのある要注意学生情報などの収集を行う。これらの学生情報は、月に1度行われる学年主任連絡会において、学科主任や学年主任の間で共有し、さらに月に1度行われる学科会議において、学科教員全体で共有する。 また、チューターが各学生に対して個別面談(チューター面談)を5月と9月に行う。さらに、休学・退学を希望している学生を対象に、適宜、学年主任やチューターが面談を実施することで、学生サポートを図る。また、これらの面談結果を学生カルテ上に入力することで、学部内で情報共有する。 なお心理面での学生支援においては、学科だけでは対応困難な事例も起こりうる。その場合には、学生相談などと連携し、柔軟に対応支援を行う。 (2) 留年・離籍リスクの高い学生の早期把握と計画的支援 ハイリスク学生の早期発見・支援をするため、入学時の学生情報(入試形態や出身校など)を事務局より提供してもらい、入学後の出席状況やGPA、さらに学生の心的特性に関する尺度の回答結果などのデータと連結し、分析を進めている。 また入学後に本人の志望とのミスマッチが生じないように、入学時の選抜が適切に行われるよう整える必要があり。そのためには、多くの受験生が集まる状況を作り出す必要もあろう。「学生募集対策」が十分に取られることが、結果として、「離籍対策」になる。				

令和3年度 自己点検評価結果

教育理念・目的		科学的根拠(サイエンス)に基づいた術(アート)を備えた慈愛(ハート)のある医療人の創生		
学部・研究科		心理学部	学部長・研究科長	窪田文子
指標	数値目標	前年度数値	達成のための具体的対策	
学生募集対策	100.0%	58.3%	(1)高校生が直接みることのあるSNSを使った広報 twitterやinstagramなどで積極的に地元高校の公式アカウント(部活系も含む)をフォローし、高校生に見てもらえる機会を増やす。昨年度はtwitterに比べてinstagramの活用率が低かったが、現役高校生はtwitterよりもinstagramの利用者の方が多いというので、instagramの活用を検討する。 (2)紙媒体を使った広報 今年度も学部教員が直接高校訪問することは難しい可能性がある。事務職員が高校訪問に行く際に、心理学部をアピールできるような紙媒体を増やす。例えば、現状でも錯視図形をモチーフにした名刺を作成し、事務職員が高校を訪問する際に利用してもらっている。名刺のほか、各高校や教室などで掲示可能なミニポスターなどの作成を検討する。	
■目標(数値目標)の達成度、取り組みの状況(取り組みの有効性・適切性も含めて評価してください。)				
学生募集は目標には達せず、65.5%にとどまった(2020年度56.7%、昨年度58.3%)。受験者の総数は初年度よりは増加傾向にある(2020年度53名、昨年度60名、今年度58名)。また、合格実数の歩留率は昨年度61.4%、今年度は66.7%と上昇傾向にある。 (1)SNSの活用:Twitterでは、主に1年生の授業「フレッシュャーズセミナー」の内容や、錯視図形を兼ねたオープンキャンパスなどの案内を、1年間に95回ツイートした。1年間で獲得したフォロワーは23人であったが、入学が決まる以前の高校生からのフォローは確認できていない。在校生の活動や心理学の面白さをアピールすることはできているが、多くの高校生はフォローしたり反応したりするのではなく、見てだけの者が多いと推測される。Instagramでは、32件の投稿を行った。その多くは大学構内の風景である。こちらも、受験生からのフォロワーが増えたことは確認できてはいない。 (2)紙媒体のツール:オープンキャンパスや高校訪問等で配布したほか、ミニポスターも作成した。しかしながら、郵送したミニポスターなどは実際には掲示されていなかったようである。事務職員が高校訪問等で利用できるように、名刺を作成した。大学見学会では、来場者の氏名を用いた名刺を配布し、個々人とのつながりを持つことを試みた。この試みは、高校生と直接的なつながりを持つことが可能であるため、今後も続ける予定である。 (3)動画の発信について:大学の企画とは別に、本学部独自の動画として、学科紹介(2022年度版)、模擬講義(3本)を大学のYouTubeチャンネルにアップした。最大で400回以上の視聴があった。これらの動画は、特に高校訪問で高校の教員に紹介する際に利用しており、高校の教員からはこのような動画の配信に評価が得られた。そのため、来年度も模擬講義など新たな動画の作成を計画する。これらの動画の紹介を、SNSの活用と合わせて実施する。				
■課題・改善点(課題・改善点と判断した根拠を含めて評価してください。)				
課題・改善点は以下の2点である。 ①知名度を上げること 近隣大学の心理学部ではある程度学生募集に成功している(根拠資料:福島学院大学福祉心理学科、常磐大学心理学科、各HPより)。大学の校名変更や学部改編のため、本学に心理学部があることが遠方の高校に知られていない可能性がある。そのため、SNSや動画の配信など遠方の高校生や高校の教員に知ってもらう機会を増やすこと、近隣の高校生やその保護者に存在を知ってもらう機会を増やすことが必要と判断し、来年度以降は中高生の保護者を対象とした講演会の企画や、出前講座の実施などに力を入れることとした。 ②高校生と直接触れ合う機会を増やすこと オープンキャンパスに参加した高校生からは好評を得ており、実際にオープンキャンパスに足を運んでもらえれば、ある程度満足してもらえることがうかがえる(根拠:オープンキャンパス来場者アンケート)。そのため、実際に高校生と触れ合うチャンスを増やすことが改善につながると考えらえる。学校ガイダンスや出前講座などで教員が積極的に外に出ていくことで、高校生と教員と増え合う機会を増やすことを、目標とする。				
■改善計画(時期(〇〇までに)を明確に、具体的な内容の改善計画を立ててください。)				
①講演会の実施(長期的な学生募集の戦略) 来年度は、中高生の保護者を対象とした講演会を実施する。4月までにスケジュールを確定し、7月・9月・11月にわたる計3回の講演会とする。遠隔による同時配信を行い、できるだけ多くの参加者を募る。さらに参加者にアンケートを実施して次年度の講演会を検討する材料とする。 ②出前講座・出張講座の実施(中期的・長期的な学生募集の戦略) 高校生向けの出前講座と、学校関係者および保護者を対象とした出張講座の企画を提案する。すでに実施のためのチラシを作成済みで、4月以降に教育委員会・教育事務所等に配布し、積極的に学外に出て本学部の存在をアピールすることを目指す。 ③事務局との連携(短期的な学生募集の戦略) 定期的に事務の企画課と打ち合わせを行い、学生募集につながるような対策を検討、臨機応変に対応できる体制を整える。昨年度と同様に、前期のうちに紙媒体のツール(名刺やミニポスター)を作成し、事務の広報活動に活用してもらうことで、心理学部のアピールにつなげる。また、これまで事務職員のみが対応していた大学ガイダンスなどに同行し、高校生と直接触れ合う機会を増やす。 ④新たな動画の作成とSNSの活用(短期的な学生募集の戦略) 模擬講義や学生が出演する動画作成を検討する。夏のオープンキャンパスまでに公開できるように、遅くとも夏休み中に作成する。効果は大きくはないものの、実施の容易性が高く、即時性もあるため、TwitterとInstagramは今後も活用を続ける。来年度は1年生から3年生までの学生がそろうため、これらのSNSでは3年生のゼミの活動などの紹介も行う				

令和3年度 自己点検評価結果

教育理念・目的	科学的根拠(サイエンス)に基づいた術(アート)を備えた慈愛(ハート)のある医療人の創生		
学部・研究科	心理学部	学部長・研究科長	窪田文子

2020年度自己点検・評価報告書に基づく改善課題への取り組み状況

■改善課題及び改善指示

入学定員充足率が58.3%と低いため、要因の分析や、他大学の好事例の参照など、定員充足のための方策を検討・実施し、月次の進捗報告を行ってください。

■取り組みの状況(取り組みの有効性・適切性も含めて評価してください。)

定員充足のための方策として、学科で検討した学生募集につながる高校への広報活動や、オープンキャンパスのさらなる充実などに注力した。オープンキャンパスでは、開催内容や対応等が好評であった。学部内の入試広報委員会を中心に、SNSの利用(Twitter、Instagramによる情報発信、YouTubeチャンネルにおける学部の動画配信)、個別相談会、卒業生インタビューを盛り込んだ広報活動、出前講座等で、学科の魅力を多面的にアピールし受験者増につなげる活動を行なった。現在、中高生の保護者を対象とした講演会の企画も立てられ、保護者向けの講演と高校生向け出前講座・出張講座の実施に向けて準備中である。

■課題・改善点(課題・改善点と判断した根拠も含めて評価してください。)

入学定員充足率は前年度より微増の約63%であった。入学定員充足率改善のためには、まず心理学部の知名度を上げることが喫緊の課題である。SNSや動画の配信などにより県外の高校生や高校関係者へのアピールを強化するとともに、近隣の高校生および保護者向けの講演会や出前講座・出張講座を通して、学部の存在および学びの特色を明確に認識してもらう必要がある。

好評を得ているオープンキャンパスは高校生と直接コミュニケーションをとる重要な機会であることから、企画内容や個別対応を一層充実させていく。

■改善計画(時期(〇〇までに)を明確に、具体的な内容の改善計画を立ててください。)

「学生募集対策」で示されているように、長期的、中長期的、短期的な学生募集の戦略のもとに入学定員充足率改善を行う。長期的戦略である講演会は、中高生の保護者を対象に、すでにスケジュール・講演内容が計画され、実施に向けた準備が進んでいる。中長期的戦略の「出前講座・出張講座」は広報用チラシが作成され、今後各講座の概要とともに教育委員会や教育事務所を通して周知を行う予定である。短期的戦略では、事務局企画課と連携し、学生募集につながる有効な対策を検討、随時実施していく。またSNSによる情報発信や学部紹介等の動画配信も継続して行い、さらに内容を充実させることとする。

令和3年度 自己点検評価結果

教育理念・目的	科学的根拠(サイエンス)に基づいた術(アート)を備えた慈愛(ハート)のある医療人の創生		
学部・研究科	教養学部	学部長・研究科長	久呉高之

指標	数値目標	前年度数値	達成のための具体的対策
教員/公務員の採用(各4名)	100.0%	100.0%	・年間を通じ、毎週水曜日4時限、全学年の教員志望学生全員を集め、教科教養および教職教養の試験対策を実施 ・教員採用試験直前の4年生を対象とした集中対策講座を別枠において実施 ・公務員志望者に対して、志望動機等の書き方に関する個別指導を実施 ・公務員試験の一次試験合格者に対して模擬面接を実施 ・C-Learning のドリル機能を用いての過去問対策を実施

■ 目標(数値目標)の達成度、取組みの状況(取組みの有効性・適切性も含めて評価してください。)

【教員採用 目標の達成度】 教職課程8名中6名(臨時的講師1名を含む)が教員として採用内定し、数値目標は達成された。
 ・8名中7名が公立学校教員採用選考試験を受験した。内訳は下記のとおり。
 福島県(中学校〈英語〉3名、小学校4名) 合格者数:中学校〈英語〉1名、小学校4名
 栃木県(中学校〈英語〉1名)／千葉県(小学校1名) 合格者数:0名
 ・公立学校教員採用選考試験を受験しなかった1名の進路状況
 臨時的任用教員(いわき市内小学校講師)として採用内定

【教員採用 取組みの状況】
 ・上記の「達成のための具体的対策」をすべて計画的に実施したことが功を奏したと考える。
 ・中学校(英語科)教員採用選考試験を受験する学生を対象に、本学の英語専門教官による Listening-Writing Practice 並びに資格英語(英語検定)でのサポートが、特に難関である中学校教員合格者を出す結果になったとみられる。

【公務員採用 目標の達成度】 卒業生から1名合格者が出たものの、現役生からは出ず、数値目標は達成されなかった。
 ・10月に北茨城市役所の行政職を2名が受験したが、2名とも一次試験不合格という結果におわった。
 ・いわき市近隣の自治体の採用試験については、最終合格者は1名(2020年度卒業生・いわき市行政職)であった。

【公務員採用 取組みの状況】
 上記の「達成のための具体的対策」をすべて計画的に実施したものの良い結果は出なかったが、取組み自体は、担当者1名という人手不足のなかでベストを尽くしたものであり、適切であったと考える。

■ 課題・改善点(課題・改善点と判断した根拠を含めて評価してください。)

募集最終年度の入学生が卒業年度となったため、記載なし

■ 改善計画(時期(〇〇までに)を明確に、具体的な内容の改善計画を立ててください。)

募集最終年度の入学生が卒業年度となったため、記載なし

令和3年度 自己点検評価結果

教育理念・目的		科学的根拠(サイエンス)に基づいた術(アート)を備えた慈愛(ハート)のある医療人の創生		
学部・研究科		教養学部	学部長・研究科長	久呉高之
指標	数値目標	前年度数値	達成のための具体的対策	
就職対策	100.0%	93.8%	・全教員による、学生生活の(人にアピールできるような)充実に向けた指導 ・ゼミ教員による、エントリーシートの作成に関する指導(文章の点検) ・基礎学力や、ゼミ・卒研内容の適切な言語化に関する指導 ・キャリア教育科目における授業の質の維持(教員不足、オンラインに際しての) ・就職指導・相談の遠隔対応、大学Web、C-Learningを通じたアクセス向上 ・「SPI総合検査」対策の意義についての説明と、模擬試験受験の勧奨	
■ 目標(数値目標)の達成度、取り組みの状況(取り組みの有効性・適切性も含めて評価してください。)				
【目標の達成度】 ・3月15日現在、就職率88.2%(就職希望者68名中、内定者60名) ※就職率＝就職内定者数／就職希望者数(教員採用を含む) ・4月30日現在、就職率93.8%(就職希望者64名中、内定者60名) 【取り組みの状況】 ・残る8名(3月15日現在)については、引き続き教務学生課から個別に連絡を取り、就職活動を支援した。 ・数名在籍する3年生には、キャリアデザイン授業の中でオンラインによる就活について十分指導を行った。 ・4年生には例年同様、事務局就職担当者による指導のほか、主に卒研ゼミで個々の学生のエントリーシートや面接の指導を行った。 ・学部内では、4年生全学生の就活状況のデータを共有し、卒研ゼミでの指導の便宜を図った。 ・学生の進路希望・就活状況を8種(①内定・終了、②内定・継続、③未内定(就活中)、④未内定(就活消極的)、⑤公務員・教員再受験、⑥進学、⑦卒業目標、⑧その他)に分類し、どの学生がどういう状況かを「見える化」してきた。 ・就職担当職員は情報提供と面接指導、ゼミ教員は③学生のエントリーシート作成等を指導、④学生と⑦⑧学生にはきめ細かな相談を実施した。 ・上記の「達成のための具体的対策」をすべて組織的に実施したものの数値目標は達成されなかったが、前年度数値を下回ることはなく、取り組み自体は、コロナ禍のなかでベストを尽くしたものであり、有効かつ適切であったと考える。				
■ 課題・改善点(課題・改善点と判断した根拠を含めて評価してください。)				
募集最終年度の入学生が卒業年度となったため、記載なし				

令和3年度 自己点検評価結果

教育理念・目的	科学的根拠(サイエンス)に基づいた術(アート)を備えた慈愛(ハート)のある医療人の創生		
学部・研究科	教養学部	学部長・研究科長	久呉高之

指標	数値目標	前年度数値	達成のための具体的対策
留年対策	2.3%	2.36%	・前期・後期ガイダンス、その後の第1回ゼミにおける、丁寧な履修指導の実施 ・ゼミ生個々人の履修計画表の作成、および、当の計画の実現状況の確認・指導 ・チューターによる、授業の出席状況の把握、および、ゼミ生全員への定期的な面談(年2回)の実施の徹底、出席状況の芳しくないゼミ生に対する面談(適時)の実施 ・課題未提出等、履修状況に問題のある学生に対する、科目担当者とチューターとの連携した対応

■ 目標(数値目標)の達成度、取組みの状況(取り組みの有効性・適切性も含めて評価してください。)

【目標の達成度】
 ・2021年度は3, 4年生とも留年する学生はいなかったため、数値目標は達成された。

【取組みの状況】
 ・留年率0%に抑えられたのは、上記「達成のための具体的対策」(ゼミを中心とした履修指導の実施やゼミ個々人の履修計画表の作成、履修計画の実現状況確認、チューターによる授業出席状況の確認、定期的な面談・個別面談など)が功を奏したものである。
 ・履修指導の実施については、各教員がゼミ学生の成績表を確認し、単位不足が予想される学生に積極的な履修指導を行ったことは有効であった。
 ・ゼミ生個々人の履修計画表の作成、実施状況の確認については、順調に単位を取得していると思われた学生のうち、数名の学生が自分が必要な単位を把握していなかったケースがみられたことから、より詳細な履修指導が必要だったと考えられる。
 ・定期的なチューター面談に関しては、ゼミ担当教員全員が学生カルテに記入しており、これがゼミ学生の状況把握に有効的に作用した。
 ・履修状況に問題のある学生への対応については、実際に履修上の問題を抱えた学生のゼミ教員が学部長、学科主任、学年主任等と情報共有を行い、対策を検討し対応したケースがあり、具体的対策としては有効的に作用したと考えられる。

■ 課題・改善点(課題・改善点と判断した根拠を含めて評価してください。)

募集最終年度の入学生が卒業年度となったため、記載なし

■ 改善計画(時期(〇〇までに)を明確に、具体的な内容の改善計画を立ててください。)

募集最終年度の入学生が卒業年度となったため、記載なし

令和3年度 自己点検評価結果

教育理念・目的	科学的根拠(サイエンス)に基づいた術(アート)を備えた慈愛(ハート)のある医療人の創生		
学部・研究科	教養学部	学部長・研究科長	久呉高之

指標	数値目標	前年度数値	達成のための具体的対策
離籍対策	1.5%	1.77%	・出席状況の芳しくない学生へのメールや電話等による声かけや、臨時面談の実施 ・チューター、学年主任、学科主任、学部長による段階的な面談の実施 ・家庭の事情をも踏まえた、保護者との(主任連絡会の認識のもとでの)連携強化 ・心理相談センター、保健管理センターとの(主任連絡会の認識のもとでの)連携 ・事務局教務学生課との(主任連絡会の認識のもとでの)連携強化 ・主任連絡会における(学部長の認識のもとでの)情報共有・対策検討

■目標(数値目標)の達成度、取組みの状況(取り組みの有効性・適切性も含めて評価してください。)

【目標の達成度】

- ・退学者は、本人・保護者・学部・事務局ともども「予定」していた1名(1年生)にとどまったため、離籍率は $1/85=1.25\%$ となり、数値目標は達成された。
- ・4月30日現在の在籍者は、4年生4名のみである。

【取組みの状況】

- ・上記「達成のための具体的対策」を、「心理相談センターとの連携」を除き、すべて実施したことが功を奏したといえる。
- ・「留年対策」で記したと重なる取り組みのほかに、卒業論文提出1カ月前から、主任連絡会が中心となり、チューターと連携して、問題のある4年生をケアしてきたことが、離籍者や離籍予備軍の発生防止のために有効かつ適切であったと考える。

■課題・改善点(課題・改善点と判断した根拠を含めて評価してください。)

募集最終年度の入学生が卒業年度となったため、記載なし

■改善計画(時期(〇〇までに)を明確に、具体的な内容の改善計画を立ててください。)

募集最終年度の入学生が卒業年度となったため、記載なし

令和3年度 自己点検評価結果

教育理念・目的	科学的根拠(サイエンス)に基づいた術(アート)を備えた慈愛(ハート)のある医療人の創生		
学部・研究科	教養学部	学部長・研究科長	久呉高之

2020年度自己点検・評価報告書に基づく改善課題への取り組み状況			
■改善課題及び改善指示 募集停止後、2021年度の4年生で最終年度となるため、留年生を含め、留年率の減少、就職率100%を目標に、学生支援の充実に務めてください。			
■取り組みの状況(取り組みの有効性・適切性も含めて評価してください。) 【取り組みの状況】 ・就職率に関しては目標達成に及ばなかったが、教養学部所属の教員が、主たる所属先の如何にかかわらず、一丸となって留年率の減少と就職率100%を目標とする学生支援を行ってきたことは有効かつ適切であったと考える。 ・「留年対策」と「就職対策」で述べたことのほかに、学部長からの様々な要請や学生向けの発信によって学生支援が行われたことも、適切な取り組みであったといえる。 ・教養学部自習室の設定は、メンタルな不調を抱える学生のみならず、「自分だけの居場所」を望む学生に対して、大学を多少なりとも居心地の良いものとする役割をはたし、留年率ゼロを目指す適切かつ有効な取り組みの一翼を担ったのではないかと考える。			
■課題・改善点(課題・改善点と判断した根拠も含めて評価してください。) 募集最終年度の入学生が卒業年度となったため、記載なし			
■改善計画(時期(〇〇までに)を明確に、具体的な内容の改善計画を立ててください。) 募集最終年度の入学生が卒業年度となったため、記載なし			

令和3年度 自己点検評価結果

教育理念・目的		科学的根拠(サイエンス)に基づいた術(アート)を備えた慈愛(ハート)のある医療人の創生		
学部・研究科		国際看護学部	学部長・研究科長	川口孝泰
指標	数値目標	前年度数値	達成のための具体的対策	
国家試験対策	ガイダンス出席率100% 模擬試験正答率80%		<国家試験対策委員会> 1) 国家試験に関する1年次ガイダンスを行う。 2) 模擬試験を年2回実施する。 3) 模擬試験結果の返却を速やかに行い、模擬試験を受けるだけで終わることがないように、試験問題の解説日を設ける。 4) Cラーニングを整備し、模擬試験問題を復習できるようにする。 5) 1回目の模擬試験結果より、既習科目のどの部分の理解が不足しているのか、学習のどこで躓いているのかを分析し、他の委員会と連携の上、学習効率が上がるような対策を講じる。 6) 学生が受験勉強が十分に行えるように、書籍や部屋の整備を行う。	
■目標(数値目標)の達成度、取り組みの状況(取り組みの有効性・適切性も含めて評価してください。)				
■数値目標1 ガイダンス出席率 100% 6/25、8/6と2回実施し、出席率は6/25は89%、8/6は95%であり目標値は未達成である。6/25は、学研より講師を迎え、看護師国家試験の概要、普段の授業・演習・実習への取り組みがどう国試に活きるか、ノートの取り方、模試の活用方法、低学年からの対策方法、心構えについてガイダンスを行った。また、新人看護師を講師に迎え、使った参考書や資料を紹介しながら体験をもとに1年次からの取り組みの必要性について講演を実施した。新人看護師の体験談は終了後も質問に行く人が途切れず好評であった。8/6は「国試予備校:さむ研究所」より講師を迎え、ノートの取り方を中心に実施した。本学部は1学年のみのだが、国家試験対策は1年次の科目も試験範囲であるため、早期からの取り組みは適切であると考えている。				
■数値目標2 模擬試験正答率 80% 模擬試験は1回目8/6、2回目2/21に実施した。1回目の模擬試験の平均正答率は55%、2回目は業者模試37%(偏差値47.7%)、学内模試57%であり、目標値は未達成であった。模擬試験はWEB模試を利用し計画通り年2回実施した。模擬試験結果は学生には翌日から閲覧可能とし、保護者にも郵送し家庭でも教育に関心を持ってもらえるよう取り組んだ。C-learningとTeams内に「国家試験対策」のページを作成し、模擬試験終了後から模擬試験問題を復習できるよう準備し、模擬試験後の長期休み中の学習方法を口頭と書面で説明した。模擬試験結果は教授会にて口頭で結果を報告すると共に、年2回の学習支援会議を実施し情報の共有を図った。 国試関連科目を教授した教員の授業改善が求められ、該当教員には補習などを含めた授業のあり方の再検討が求められた。				
■課題・改善点(課題・改善点と判断した根拠を含めて評価してください。)				
□数値目標1 ガイダンス出席率 100% について 受験が終了したばかりの段階であり、ガイダンス実施後アンケートの結果によると「まだ実感がない」という意見も多く1年次のガイダンスの必要性についての理解が不足していると思われる。1年次の履修科目も国家試験の出題範囲であることはガイダンスを聞くことで知ることとなるため、ガイダンス日程の発表の際に必要性を十分に説明する必要がある。				
□数値目標2 模擬試験正答率 80%について 平均値は数値目標を達成していないが、外部模擬試験で偏差値70以上をとれるようになった学生もあり、全体としての学力は上昇傾向にあると考える。一方で15名程度の学生の正答率は低く偏差値が30程度の学生も存在するため、平均値が80%となることが出来ない。低学力層の学力向上が課題である。				
■改善計画(時期(〇〇までに)を明確に、具体的な内容の改善計画を立ててください。)				
□数値目標1 ガイダンス出席率 100% について ガイダンス日程は、必修科目の講義がある日とし、遅刻や欠席を避けるために1限目やガイダンス後に講義がないという時間を避けるなど欠席しにくい日時を選択する。				
□数値目標2 模擬試験正答率 80%について 3年次が終了するまでに模擬試験の正答率が80%となる。4月から企画している「スキマ時間活動」という習慣化プログラムに低学力層の参加を促し、まずは自分が決めたことを実行するという力を身に付けさせる。チューターと連携をとり低学力層への声かけを密にする。				

令和3年度 自己点検評価結果

教育理念・目的	科学的根拠(サイエンス)に基づいた術(アート)を備えた慈愛(ハート)のある医療人の創生		
学部・研究科	国際看護学部	学部長・研究科長	川口孝泰

指標	数値目標	前年度数値	達成のための具体的対策
就職対策	就職キャリア教育ガイダンス出席率100%		<学生生活・就職支援委員会> 1年生の段階で、就職を見据えて以下のことを行う。 1) 1年次就職キャリア教育ガイダンスを1回実施する。 2) 学生の就職相談に対応する。
■目標(数値目標)の達成度、取組みの状況(取組みの有効性・適切性も含めて評価してください。) ■目標 出席率100% 1) 2022年1月21日に1年次就職支援ガイダンスを開催した。			
■課題・改善点(課題・改善点と判断した根拠を含めて評価してください。) 1) 1年次学生のみ在籍のため、未だ就職に直結する困難さは生じていない。柏たなか病院も含めて、首都圏の医療機関の就職募集状況の詳細な情報は十分でない。就職に関わるダイレクトメールが届くようになっているので、関連した就職情報は整理して学生に情報提供するように計画している。			
■改善計画(時期(〇〇までに)を明確に、具体的な内容の改善計画を立ててください。) 1) 事務局の支援体制を含め、2022年度、2023年度の就職支援体制、進学支援体制を検討していく。具体的には、系列病院の病院説明会、実習病院の病院説明会の計画を立てていく。			

令和3年度 自己点検評価結果

教育理念・目的		科学的根拠(サイエンス)に基づいた術(アート)を備えた慈愛(ハート)のある医療人の創生		
学部・研究科		国際看護学部	学部長・研究科長	川口孝泰
指標	数値目標	前年度数値	達成のための具体的対策	
留年対策	進級率 98%		<教務委員会および学生生活・就職支援委員会> 1)進級判定基準を満たせるように、最低2回／年の個別指導をチューター制度を活用して行い、学習状況の把握と改善につなげる。 2)教育目標に対する学習の到達状況やプロセスについて学生および教員が相互に継続的な評価やフィードバックができるツールとしてポートフォリオを作成する。 3)履修ガイダンスの際に学習への動機づけとなるよう、学生生活ガイダンスの際に、大学生としての自律した生活への動機づけとなるような説明を行う。 4)特別のニーズがある学生への合理的配慮申請システムを構築する。 5)専任の保健師を配置し、学生たちの心身の健康をサポートする。 6)カウンセラーを配置して相談窓口を設置する。 7)学生の単位履修等に関する会議を開催する(半期ごと)。 8)保護者会もしくは保護者との面談を実施する(希望者)。	
■目標(数値目標)の達成度、取組みの状況(取り組みの有効性・適切性も含めて評価してください。)				
■目標の達成度:進級率98.9%(学生88名中、1名除籍)であり、目標達成である。 □取組みの状況 1)年2回のチューター面談の実施率は100%。支援が必要な学生は定期的に面談を行い、状況を把握し改善に努めた。 2)6月下旬よりポートフォリオワーキンググループを結成し、12月の完成を目標に運用レベルまでの検討を重ねてきたが、全学Dx推進委員会にて全学的e-ポートフォリオシステム導入に関する検討が開始されたことから、学部内でのポートフォリオWGの活動を一時中止していたが、2022年4月に学部独自で実施することが決定され、運用に向けた活動を開始した。 3)前期および後期ガイダンスを開催し、大学での履修の理解や学修への動機づけを図ることができた。また、定期試験やレポート作成時の注意点についてもガイダンスにて指導し、大きな問題が生じることなく実施することができた。 4)10月に合理的配慮申請システム・マニュアルの作成。その後1名の学生から申請があり、現在会議開催中である。 5)専任の学校保健師の配置が難しいため、今年度は、急病者対応フローを作成して保健活動を行った。 6)非常勤のカウンセラーが水曜日と金曜日に来校し各3時間対応している。 7)2021年9月9日、2022年3月3日にそれぞれ学生支援会議を開催し、学生情報の共有をはかることができた。 8)2021年7月4日のオンライン保護者会を、2021年10月に保護者面談(希望者)を実施し、コロナ化においても保護者との連携をはかることができた。				
■課題・改善点(課題・改善点と判断した根拠を含めて評価してください。)				
1)学生支援会議時のみでなく、平時から学生情報を共有できることが求められる。 2)2022年4月に国際看護学部ポートフォリオの運用が開始されるよう、準備を進めていく。 3)ガイダンスにて、学生の理解度に応じてより丁寧に詳細で具体的な説明をする必要がある(試験のルール「授業の1/3以上欠席した者は、その授業科目の受験資格を失う」について、誤解して解釈していた学生が数名いたことが後から判明した)。 5)専任保健師の配置が困難であるため、看護実習に向けての抗体価の取り扱いや急病時の対応が一時的なフロー作成により対応した。 8)今年度よりも早めに保護者会を開催し、連携構築をはかる必要がある。				
■改善計画(時期(〇〇までに)を明確に、具体的な内容の改善計画を立ててください。)				
1)2022年度からは学年主任を中心に5名の教員で1学年を担当、1名のチューターで17名前後の学生を担当し、1回/月の学年チューター会議を開催、学年学生の情報共有をし、学年主任から学科主任、学部長へ要注意・要支援学生を定期的に報告できるシステムを導入する。 3)2022年度4月上旬、9月上旬に学年別履修ガイダンスを実施するため、実施内容や実施方法の検討を進める。 2)2022年4月に国際看護学部ポートフォリオ運用を開始するため、2022年3月中にポートフォリオのシステムおよび学生へのガイダンス準備を行う。学生へのガイダンスは、1年生についてはフレッシュャーズセミナーの授業内で、2年生については前期ガイダンス内にて実施する予定である。運用開始後は継続的・定期的に評価していく。 5)引き続き専任保健師の配置要望を行っていく。 8)入学式に保護者参加の有無により、来年度の保護者対応が異なってくるが、来校ができない場合はゴールデンウィーク明けにはオンライン保護者会を実施できるように検討していく。				

令和3年度 自己点検評価結果

教育理念・目的		科学的根拠(サイエンス)に基づいた術(アート)を備えた慈愛(ハート)のある医療人の創生		
学部・研究科		国際看護学部	学部長・研究科長	川口孝泰
指標	数値目標	前年度数値	達成のための具体的対策	
離籍対策	離籍率 2%未満		<教務委員会および学生生活・就職支援委員会> 1)進級判定基準を満たせるよう、最低2回/年の個別指導をチューター制度を活用して行い、学習状況の把握と改善につなげる。 2)教育目標に対する学習の到達状況やプロセスについて学生および教員が相互に、継続的な評価やフィードバックができるツールとしてポートフォリオを作成する。 3)履修ガイダンスの際に学習への動機づけとなるよう、また、学生生活ガイダンスの際に、大学生としての自律した生活への動機づけとなるような説明を行う。 4)専任の保健師を配置し、学生たちの心身の健康をサポートする。 5)カウンセラーを配置して相談窓口を設置する。 6)学生の単位履修等に関する会議を開催する(半期ごと)。 7)保護者会もしくは保護者との面談を実施する(希望者)。	
■目標(数値目標)の達成度、取り組みの状況(取り組みの有効性・適切性も含めて評価してください。)				
■目標の達成度:離籍率1.1%(学生88名中、1名除籍)であり、目標達成である。 ■取り組みの状況: 1)年2回のチューター面談の実施率は100%。必要な学生については定期的に面談を行い、状況を把握し改善に努めることができた。 3)前期および後期ガイダンスを開催し、大学での履修の理解や学修への動機づけを図ることができた。また、定期試験やレポート作成時の注意点についてもガイダンスにて指導し、大きな問題が生じることなく実施することができた。 2)6月下旬よりポートフォリオワーキンググループを結成し、12月の完成を目標に運用レベルまでの検討を重ねてきたが、全学Dx推進委員会にて全学的e-ポートフォリオシステム導入に関する検討が開始されたことから、国際看護学部内でのポートフォリオワーキンググループの活動を一時中止していたが、2022年4月に国際看護学部独自で実施することが決定され、運用に向けて活動中である。 4)要望を提出したが、却下されており、今後の課題となった。 5)非常勤のカウンセラーが水曜日と金曜日、各3時間対応中 6)2021年9月9日、2022年3月3日にそれぞれ学生支援会議を開催し、学生情報の共有をはかることができた。 7)2021年7月4日のオンライン保護者会を、2021年10月に保護者面談(希望者)を実施し、コロナ化においても保護者との連携をはかることが出来た。				
■課題・改善点(課題・改善点と判断した根拠を含めて評価してください。)				
1)学生支援会議時のみでなく、平時から学生情報を共有できることが求められる。 3)ガイダンスにて、学生の理解度に応じてより丁寧に詳細で具体的な説明をする必要がある(試験のルール「授業の1/3以上欠席した者は、その授業科目の受験資格を失う」について、誤解して解釈していた学生が数名いたことが後から判明した)。 2)2022年4月に国際看護学部ポートフォリオの運用が開始されるよう、準備を進めていく。 5)専任保健師の配置がないまま1年が経過してしまい、実習に向けての抗体価の取り扱いや急病時の対応が一時的なフロー作成により対応するにとどまった。 8)今年度よりも早めに保護者会を開催し、連携構築をはかる必要がある。				
■改善計画(時期(〇〇までに)を明確に、具体的な内容の改善計画を立ててください。)				
1)2022年度からは学年主任を中心に5名の教員で1学年を担当、1名のチューターで17名前後の学生を担当し、1回/月の学年チューター会議を開催、学年学生の情報共有をし、学年主任から学科主任、学部長へ要注意・要支援学生の情報を定期的に報告できるシステムを導入する。 3)2022年度4月上旬、9月上旬に学年別履修ガイダンスを実施するため、実施内容や実施方法の検討を進める。 2)2022年4月に国際看護学部ポートフォリオ運用を開始するため、2022年3月中にポートフォリオのシステムおよび学生へのガイダンス準備を行う。学生へのガイダンスは、1年生についてはフレッシュャーズセミナーの授業内で、2年生については前期ガイダンス内にて実施する予定である。運用開始後は継続的・定期的に評価していく。 5)引き続き専任保健師の配置要望を行っていく。 7)入学式に保護者参加の有無により、来年度の保護者対応が異なってくるが、来校ができない場合はゴールデンウィーク明けにはオンライン保護者会を実施できるように検討していく。				

令和3年度 自己点検評価結果

教育理念・目的		科学的根拠(サイエンス)に基づいた術(アート)を備えた慈愛(ハート)のある医療人の創生		
学部・研究科		国際看護学部	学部長・研究科長	川口孝泰
指標	数値目標	前年度数値	達成のための具体的対策	
学生募集対策	定員充足率100%		<入試委員会および広報・情報委員会> 1) オープンキャンパスを毎月(2021年度は10回)実施する。 2) HPまたSNSで、大学の情報を週2〜3回の頻度で発信する。 3) 大学説明会は、業者からの案内に対して、メインエリア(千葉・茨城・埼玉・東京)の7割以上に参加する。 4) 高校訪問を訪問対象高校数500件に年2回から3回実施する。 5) 模擬授業の実施(高校からの要請。オープンキャンパスでの企画)する。 6) 入試対策講座を総合型入試で2回、推薦型入試で1回実施する。 7) ホームページでの発信と広報用パンフレットを企画する。	
■目標(数値目標)の達成度、取り組みの状況(取り組みの有効性・適切性も含めて評価してください。)				
■目標の達成度:2022年度入試合格者(定員充足率)は、78名(97%)であった(2022年3月8日現在) ■学生募集対策における取り組み状況を以下に示す。 1)オープンキャンパスは厳重な感染予防対策のもと予定通り10回開催した(うち1回は入試説明会とした)。来場者は各回約30人、東京、千葉、茨城、埼玉の通学圏内在住で本学部希望および検討中の者が多数を占めていた。オープンキャンパスlightには39名の応募があり、学部説明および入試パンフレット説明、大学案内を実施した。 2)HPまたはSNSにて国際看護学部に関する情報を週2〜3回発信し、受けた質問に対してすべて回答した。 3)大学説明会(学外)はメインエリア(千葉・茨城・埼玉・東京)において、全開催149件のうち調整可能であった日程のすべて103件参加した。 4)高校訪問についてコロナ拡大の影響により目標達成が難しかったため、高校訪問は可能な限り行い(200件)、それに加えて高校宛てダイレクトメールを12月に800件(千葉・埼玉・東京・茨城・栃木・静岡)送付した。 5)模擬授業は業者より関東圏内で9件の依頼がありすべて実施した。別途、オープンキャンパスでは2回企画し実施した。 6)入試対策講座は、9月25日、10月23日、1月22日の3回予定通り行い、来場した53名(保護者数除く)のうちほとんどの者が本学部を受験した。 7)HPでの大学紹介や学内ニュース等の内容の適宜アップロード、大手進学サイト掲載により入試情報を発信した。				
■課題・改善点(課題・改善点と判断した根拠を含めて評価してください。)				
1)オープンキャンパスの来場者のほとんどが本学を希望または検討中の者であったため、次年度において回数は現状維持とし、内容の改良・充実が望まれる。また、来場者は事前にHPにて情報を得て来ており、本学部HPに辿り着くことができれば実際の来場につながる事が可能となる。そのため、県内のみならず全国から本学部HPに辿り着く経路や手段の明確化が必要である。さらに、県内だけでなく全国の受験者数獲得も見据えた広報活動の企画・運営が必要である。 2)HPやSNSでの情報発信は、受験者の年齢層に馴染みのある方法であり、かつアクセスツールの扱いとして適切であることも確認している。そのため、今後も引き続き実施する。 3)現在の大学説明会(学外)は業者主催が主流であるため大学での回数設定が困難であるが、次年度も積極的に参加する。 4)高校訪問は現在在校生の出身校や通学圏内に焦点を当てて実施したが、次年度は県内の競合校の数を考慮し、県外も視野に入れて検討する必要がある。 5)模擬授業は主に高校や業者からの依頼となるために回数設定が難しいが、可能な限り参加していく。さらに、国際看護学部の特徴を広く高校生に知ってもらうために、オープンキャンパスでの模擬授業も増やすことを検討する。 6)入試対策講座については、本年度と同様に引き続き実施していく。 7)HPの入試情報は適宜アップロードして発信し、入試広報用パンフレット作成についても本年度に引き続き実施していく。 ■数値目標に関する課題・改善点 2022年度入試については、3月8日以降に2回の入試を予定しており学生充足率100%を目指す。2023年度入試に向けて上記の課題を解決し、引き続き学生充足率100%を目指す。				
■改善計画(時期(〇〇までに)を明確に、具体的な内容の改善計画を立ててください。)				
1)オープンキャンパスの企画・内容検討(2022年4月末まで)、県外の受験者数獲得も踏まえた広報活動の企画・運営(2022年9月まで)、全国各地から本学部HPへのアクセス数や経緯等を明確にし、イージーアクセスを可能にする(2023年3月まで)。 2)HPやSNSでの情報発信:大学の情報を週2〜3回の頻度で発信し、HP訪問者数のカウントを検討する(2023年3月まで継続して実施) 3)大学説明会(学外):業者からのメインエリア(千葉・茨城・埼玉・東京)の案内に対し、日程調整が可能な限りすべて参加する(2023年3月まで継続) 4)高校訪問:本学学生出身校や通学圏内のみならず全国の高校も視野に入れ、約500校実施(2023年3月まで継続) 5)模擬授業:高校や業者からの依頼は可能な限りすべて参加し、オープンキャンパスでの模擬講義を企画・実施する(2023年3月まで継続) 6)入試対策講座:総合型入試で1回、推薦型入試で1回実施、一般入試で1回を各入試前に実施 7)HPの入試情報の発信およびアクセス数のカウント(2023年3月まで継続)、入試広報用パンフレット作成(2022年5月まで) ■数値目標に関する改善計画 学生充足率を満たすためには学部全体で総力を挙げて行う必要があり、広報・情報委員会は全教職員に情報を発信して、委員以外からも実現可能で具体的な改善に向けた意見を継続して求め、学生募集対策を実施する(2023年3月末まで)。				

令和3年度 自己点検評価結果

教育理念・目的	科学的根拠(サイエンス)に基づいた術(アート)を備えた慈愛(ハート)のある医療人の創生		
学部・研究科	生命理工学研究科	学部長・研究科長	奈良武司

指標	数値目標	前年度数値	達成のための具体的対策
就職対策	100.0%	100.0%	大学院生はほとんどが社会人ないし国家資格有資格者であるため、具体的な就職対策は行っていない。

■目標(数値目標)の達成度、取組みの状況(取組みの有効性・適切性も含めて評価してください。)

本年度は、博士課程1名、修士課程2名が大学院修了、学位を取得した。博士課程の1名は薬剤師であるが、研究を継続したいとの希望があり学術振興会特別研究員(PD)へ応募中である。修士課程の2名はどちらも社会人大学院生であり、職場に戻った。

■課題・改善点(課題・改善点と判断した根拠も含めて評価してください。)

順調に達成された。

■改善計画(時期(〇〇までに)を明確に、具体的な内容の改善計画を立ててください。)

特になし。

令和3年度 自己点検評価結果

教育理念・目的	科学的根拠(サイエンス)に基づいた術(アート)を備えた慈愛(ハート)のある医療人の創生		
学部・研究科	生命理工学研究科	学部長・研究科長	奈良武司

指標	数値目標	前年度数値	達成のための具体的対策
留年対策	100.0%	100.0%	社会人大学院生は業務や出産・育児等と研究とのバランスを取ることが難しいため、指導教員と相談の上留年もしくは休学の対応をとっている。

■目標(数値目標)の達成度、取り組みの状況(取り組みの有効性・適切性も含めて評価してください。)

博士課程の最終年度(3年)を迎えた大学院生2名は、どちらも社会人大学院生(薬局勤務および本学教員)だが学位申請をできなかった。また、修士課程最終年度(2年)の2名のうち、1名は休学を継続、1名は退学した。COVID-19流行の影響は大きく、抜本的な対応が必要である。

■課題・改善点(課題・改善点と判断した根拠を含めて評価してください。)

学位取得候補生(オーバードクター)に対するケアを徹底し、また社会人大学院生への財政面での支援体制の強化を研究科で決定した。具体的には、学位申請基準として査読制度のある専門誌への筆頭著者としての掲載が必須であり、その費用についての補助制度を制定した。

■改善計画(時期(〇〇までに)を明確に、具体的な内容の改善計画を立ててください。)

抜本的な改善案としては、修士および博士課程に「長期履修制度」を導入することである。長期履修制度では、学費の納付額を固定し、申請した修学年限で均等割して納付する。この制度の導入によって、無理のない教育を受けられるようになると期待できる。早期導入が望ましく、可能であれば完成年度を終えたR5年度から実施したい。

令和3年度 自己点検評価結果

教育理念・目的	科学的根拠(サイエンス)に基づいた術(アート)を備えた慈愛(ハート)のある医療人の創生		
学部・研究科	生命理工学研究科	学部長・研究科長	奈良武司

指標	数値目標	前年度数値	達成のための具体的対策
離籍対策	100.0%	93.0%	社会人大学院生が業務とのバランスを取りにくいのは事実であり、社会情勢の変化や業務の多忙化等によって研究を断念せざるを得ないケースがある。休学等の選択を踏まえて対話による離籍対策を強化する。

■目標(数値目標)の達成度、取組みの状況(取組みの有効性・適切性も含めて評価してください。)

修士課程最終年度(2年)の2名のうち、1名が退学した。COVID-19流行の影響は大きく、抜本的な対応が必要である。

■課題・改善点(課題・改善点と判断した根拠を含めて評価してください。)

社会人大学院生の場合、勤務状況の変化は入学時には把握できない。特に医療系従事者が多い本研究科では、業務の多忙化によって研究に割く時間が大幅に削られてしまうことがある。抜本的な対策は困難だが、「留年対策」に記した「長期履修制度」によって改善する余地が残されていると考える。

■改善計画(時期(〇〇までに)を明確に、具体的な内容の改善計画を立ててください。)

「長期履修制度」を導入することによって、無理のない教育を受けられるようになると期待できる。

令和3年度 自己点検評価結果

教育理念・目的	科学的根拠(サイエンス)に基づいた術(アート)を備えた慈愛(ハート)のある医療人の創生		
学部・研究科	生命理工学研究科	学部長・研究科長	奈良武司

指標	数値目標	前年度数値	達成のための具体的対策
学生募集 対策	90.0%	75.0%	薬学や健康医療科学をバックグラウンドとする、生命理工学研究科への進学を希望する者のほとんどは医療系社会人であり、勤務期間を研究期間に置き換えることができる。そのため、修士課程をスキップして博士課程への進学を希望する者が多く、修士課程希望者が集まらない傾向がある。ホームページ等で入試広報を広く周知するとともに、卒業と同時に大学院へ進学する選択肢をより強くアピールし、募集活動を強化する。

■目標(数値目標)の達成度、取組みの状況(取組みの有効性・適切性も含めて評価してください。)

定員7名(修士5名、博士2名)のうち、2021年度の入学者は3名であった。定員充足が十分に行われておらず、対策の強化が必要である。

■課題・改善点(課題・改善点と判断した根拠を含めて評価してください。)

現在特に必要な対策は2つあり、ひとつは魅力ある研究科の発信、もうひとつは入試広報の周知である。前者の対応としては、大学院HPの教員紹介欄の改定を進めている。具体的には、研究テーマ、研究業績、外部資金獲得実績などの情報を詳細に記載し、入学希望者が選択しやすいよう工夫している。後者については、近隣の薬局・医療施設に入試要項および入学資格審査試験要項を配布し、大学院を考慮してもらえようとする。

■改善計画(時期(〇〇までに)を明確に、具体的な内容の改善計画を立ててください。)

R5年度の入試から、入試要項の近隣施設への配布を行いたい。そのための予算についても計上する必要がある。

令和3年度 自己点検評価結果

教育理念・目的	科学的根拠(サイエンス)に基づいた術(アート)を備えた慈愛(ハート)のある医療人の創生		
学部・研究科	生命理工学研究科	学部長・研究科長	奈良武司

2020年度自己点検・評価報告書に基づく改善課題への取組み状況			
■改善課題及び改善指示 大学基準協会から示されている改善課題「学習成果の把握及び評価が行われていないため、効果的に測定するとともに結果を教育内容・方法に生かすこと」を着実に実施し、チェックリストの指標に加え、月次の進捗報告を行ってください。			
■取組みの状況(取り組みの有効性・適切性も含めて評価してください。) 年度開始時には「研究計画書」と、年度末には「研究報告書」を大学院生に提出させ、学習の進捗を常に意識させている。また、本年度より博士課程2年終了時に「中間発表会」を実施し、学習成果に対する評価を行い、学生にフィードバックするシステムを構築した。			
■課題・改善点(課題・改善点と判断した根拠も含めて評価してください。) 学習効果の把握および評価に向けて、月次の進捗報告が求められているので、学生にプログレスレポートの提出を求め、指導教員の評価とともにフィードバックする。			
■改善計画(時期(〇〇までに)を明確に、具体的な内容の改善計画を立ててください。) R4年度より、学生にプログレスレポートの提出を求め、指導教員の評価とともにフィードバックする。			

令和3年度 自己点検評価結果

教育理念・目的	科学的根拠(サイエンス)に基づいた術(アート)を備えた慈愛(ハート)のある医療人の創生		
学部・研究科	人文学研究科	学部長・研究科長	窪田文子
指標	数値目標	前年度数値	達成のための具体的対策
国家試験対策	100.0%	50.0%	1. 模擬試験を実施し、回答に関する解説を行う資格試験対策講座を開催する。資格を取得した修了生の協力も得て、知識の獲得だけではなく、修了生から、試験勉強の方法や受験の体験を聞きアドバイスを受けることで、モチベーションを高め、より意欲的な学習態度の維持向上につなげる。 2. 定期的な自主勉強会に場所を提供するなどのサポートをする。 3. 心理学検定を受験させる。臨床心理学を含めて5科目の合格を目標とし、資格試験への意識づけを働きかける。
■目標(数値目標)の達成度、取り組みの状況(取り組みの有効性・適切性も含めて評価してください。)			
9月19日に実施された第4回公認心理師試験の受験者は5名で(現役受験者1名、既卒者4名)、合格が確認できたのは現役受験者1名と既卒者のうち1名の2名であった。現役者(2021年3月の修了者)の合格率は100%であった。日本臨床心理士資格認定協会が認定する臨床心理士試験の受験者は3名で(現役受験者1名、既卒者2名)、合格は1名であり、合格率は33%であった。 資格試験の受験を予定している修了生を対象に、7月24日に試験対策講座を実施した。参加者は2名で、2名とも資格試験に合格しており、対策講座の効果はあったと考えている。 在籍学生の自主勉強会は、2021年度は修了予定者がいなかったこと、大学院在籍者が3名で、そのうち1名は後期から休学したこと、上級生が下級生を導いて自主的に勉強する機会を計画する状況になりにくかった。また、コロナ禍で病院勤務の修了生の行動も制限されていた時期もあり、自主勉強会が実施されにくかった。 心理学検定は1年次生1名が受験し、5科目すべての合格した。			
■課題・改善点(課題・改善点と判断した根拠を含めて評価してください。)			
公認心理師、臨床心理士ともに資格試験は、修了した年の9月から11月にかけて実施され、修了後の受験となるため、結果については修了生からの報告によって把握する以外に方法がない。修了生には、終了時に結果の報告を依頼しているが、報告をしてこない修了生もあり、正確な結果の把握が課題である。しかし、公認心理師資格試験については、段階的に受験時期が前倒しされており、第7回試験(2024年実施)は、修了前の3月に実施される予定になっている。そのため、公認心理師試験の結果については、在籍中に把握できると思われる。 在学時から資格試験を意識させ、心理学検定の受験を促すなど、学習意欲の維持と学習習慣の形成が必要と考える。			
■改善計画(時期(〇〇までに)を明確に、具体的な内容の改善計画を立ててください。)			
第7回公認心理師試験は、2024年3月に実施される予定であるため、2年後には在学中の受験となる。したがって、在学中に試験準備をする必要がある。そのため、カリキュラムを改定して2年次に「心理実践演習1」「心理実践演習2」の科目を設け、在学時から試験準備を講じていく。 心理学部で大学院への進学を希望する学生の勉強会で学習のサポートをする機会を提供し、教えることを通して、知識量を増やし、理解の定着を図る。 心理学検定の受験について学期の開始と同時にアナウンスし、資格試験の練習のため、全員に受験を促す。			

令和3年度 自己点検評価結果

教育理念・目的	科学的根拠(サイエンス)に基づいた術(アート)を備えた慈愛(ハート)のある医療人の創生		
学部・研究科	人文学研究科	学部長・研究科長	窪田文子

指標	数値目標	前年度数値	達成のための具体的対策
就職対策	100.0%	100.0%	1. 普段から、実習先や地域の施設・企業との交流を持ち、就職関連の情報を得やすくし、求人情報などを該当大学院生に提供する。 2. 1年次より、個々の学生に関心のある臨床実践分野を明確にできるように働きかけ、適宜、見学やアルバイトを通して、現場に触れる機会を提供する。
■目標(数値目標)の達成度、取組みの状況(取組みの有効性・適切性も含めて評価してください。) 2年次在籍者は1名であり、その1名は1年次に体調を崩したため単位の取得が芳しくなく、修了を1年遅らせた。そのため、就職該当者は0名であった。 在学生は、授業で行う外部機関での実習の他に、家庭裁判所を見学し、非行少年の更生をサポートするボランティアに登録をしたり、児童相談所の夜間指導員のアルバイトを通して、心理実践の現場に触れる機会を得られた。			
■課題・改善点(課題・改善点と判断した根拠も含めて評価してください。) 外部実習先が就職につながる可能性もあるため、実習指導において学生の関心を確認し、教員間で情報を共有し、個々の学生の希望と適性を考えた指導を行うとともに、就職に関する情報提供を行う必要性がある。			
■改善計画(時期(〇〇までに)を明確に、具体的な内容の改善計画を立ててください。) 2022年度は、修了予定の学生が在籍している。外部実習の事前・事後指導等を通して、実践体験を深め、就職に対する意欲を高める指導を行う。また、これまで同様、実習先等との交流をもち、就職関連の情報を得やすいようにしていく。			

令和3年度 自己点検評価結果

教育理念・目的		科学的根拠(サイエンス)に基づいた術(アート)を備えた慈愛(ハート)のある医療人の創生		
学部・研究科		人文学研究科	学部長・研究科長	窪田文子
指標	数値目標	前年度数値	達成のための具体的対策	
留年対策	0.0%	0.0%	1. 入学時からメンター制度を活用し、学生生活における相談や学習面のサポート、および社会面、対人面などのサポートを行う。 2. 毎月大学院生に提出を求めている活動報告書で、実習を通しての学習が効果的に進行していることを把握し、停滞が懸念される場合は、個別の助言、サポートを行う。 3. 各授業のシラバスに学位授与方針との関連を明示し、授業方針に沿って評価し、学習成果をモニターする。	
■目標(数値目標)の達成度、取り組みの状況(取り組みの有効性・適切性も含めて評価してください。)				
1年次生1名が体調不良のため後期から半期休学となった。これにより2年での修了は難しくなった。進級制度は設けていないため2年生にはなるが、修了年限が最低3年となり、事実上の留年となる。 この学生に対しては、入学当初から欠席が目立ち、メンター教員が面談を実施した。その後、面談にも来なくなり、7月に研究科長と専攻主任とで面談を実施し、大学院進学は本人の希望ではなく保護者の強い希望であったことが語られ、就学意欲の問題があったことが明らかになった。その後、研究科長と専攻主任が保護者とも面談を行い、後期から休学に至った。 1年次に体調を崩し、修了を遅らせた学生については、面談等でサポートし、問題なく1年間就学することができた。 学生の学習成果については、授業や毎月提出される学生活動報告書を通して、進行状況をモニターした。				
■課題・改善点(課題・改善点と判断した根拠を含めて評価してください。)				
1名の休学者については、保護者の希望による進学であり、本人の関心は薄かったことは7月に実施した本人との面談まで把握できなかった。本学生は入学試験で合格水準に達していなかったため、専攻の判定会議では不合格とした。しかし、最終的に合格となった経緯がある。適正な入学試験を実施するために、学内の理解をはかることが今後の課題である。 学外で開催されている様々な研修会へ参加することは、学生にとって学習に対するモチベーションを高める刺激にもなる。また、コロナ禍で様々な研修会がオンライン開催となり、これまでと比べて参加しやすくなっている。しかし、学生の活動報告書では、研修会への参加の報告は数少ない。学習意欲の促進のためにも学外から届く研修会案内を学生と共有し、積極的な参加を促す必要がある。				
■改善計画(時期(〇〇までに)を明確に、具体的な内容の改善計画を立ててください。)				
学生の意欲や学ぶ姿勢などについては、活動報告書の数値のみでは把握するのに限界がある。そこで、授業や実習等を通して観察される態度や行動を行動から把握し、専攻会議で報告事項として「学生の学修状況について」取り上げ、共有する場をすでに設けている。これを継続し、より一層強化していく。				

令和3年度 自己点検評価結果

教育理念・目的	科学的根拠(サイエンス)に基づいた術(アート)を備えた慈愛(ハート)のある医療人の創生		
学部・研究科	人文学研究科	学部長・研究科長	窪田文子

指標	数値目標	前年度数値	達成のための具体的対策
離籍対策	0.0%	0.0%	1. 入学時からメンター制度を活用し、学生生活における相談や学習面のサポート、および社会面、対人面などのサポートを行う。 2. 毎月大学院生に提出を求めている活動報告書で、実習を通しての学習が効果的に進行していることを把握し、停滞が懸念される場合は、個別の助言、サポートを行う。 3. 各授業のシラバスに学位授与方針との関連を明示し、授業方針に沿って評価し、学習成果をモニターする。

■目標(数値目標)の達成度、取組みの状況(取組みの有効性・適切性も含めて評価してください。)

今年度の離籍者は0名であった。昨年度の段階で、不調により3年間での履修の計画とした学生がいたが問題なくすごせた。授業での各教員の関わり、実習指導や修士論文指導における個別の関わりを通して、十分なケアを行うことができたものとする。

■課題・改善点(課題・改善点と判断した根拠を含めて評価してください。)

特になし

■改善計画(時期(〇〇までに)を明確に、具体的な内容の改善計画を立ててください。)

特になし

令和3年度 自己点検評価結果

教育理念・目的	科学的根拠(サイエンス)に基づいた術(アート)を備えた慈愛(ハート)のある医療人の創生		
学部・研究科	人文学研究科	学部長・研究科長	窪田文子
指標	数値目標	前年度数値	達成のための具体的対策
学生募集対策	50.0%	15.0%	1. 年に2回、大学院説明会を実施し、学部をはじめ、社会人経験者など入学希望者を開拓する。今年度も昨年度同様、オンラインでの説明も行う。 2. 学部のオープンキャンパスにおいても、進学希望者や資格取得、カウンセラー希望者に、個別面談を実施する。 3. 心理学部の学生に対して、資格取得のための説明会の中で大学院の情報発信し、学部在学中から進学及び資格取得に関する説明を丁寧に行う。
■ 目標(数値目標)の達成度、取り組みの状況(取り組みの有効性・適切性も含めて評価してください。)			
2021年度の入学生は2名であった。2年次在学学生は1名で、合わせて在籍者は3名となり、定員充足率は15%である。 2021年度に行った学生募集活動として、大学院説明会を7月と12月に行なった。7月はオンラインでの実施で他大学から1名が参加した。12月は対面で実施し、他大学卒業の社会人2名、他大学3年生1名、本学2年生1名の参加があった。大学院説明会にて大学院での学びや資格に関する情報を伝え、その後個別の面談を実施することで、参加者の大学院と資格に関する理解が深まったものと考えられ、有効な取り組みであったと考える。 心理学部のオープンキャンパスで希望者に個別面談を実施し、高校生とその保護者に対して、公認心理師と臨床心理士の仕事内容、大学院での学びについて説明を行った。公認心理師の資格を取得するためには大学で指定科目の単位を取得した後、大学院で指定科目の単位を取得するか、実務経験を積むことが必要となるため、大学院進学へのメリットを明確にし、動機づけを高めるよい機会になったと考える。 12月に、心理学部1、2年生対象に「心理系資格説明会」を実施した。公認心理師と臨床心理士の資格に関する説明、学部での履修等について、大学院入試の種類、試験科目等を説明した。1年生は在籍者35名のうち20名、資格取得に興味を持つ者が半数以上いることが確認できた。4年次資格必修科目「心理実習」には、3年生までのGPAに基準を設けているため、早くから説明を行なうことで、目標を明確に提示し、一定水準以上の学生の入学につなげることができると考える。			
■ 課題・改善点(課題・改善点と判断した根拠を含めて評価してください。)			
心理学部生は最高学年が3年生であるため、該当者はおらず、教養学部生の中には大学院希望者はほぼいない状況である。したがって、2022年度に実施する2023年度入試では、内部学生の進学は見込めないため、他大学出身者や社会人の志望者を開拓する必要がある。そのため、大学院説明会の広報を従来より早く始め、入学者の確保につなげることが必要となる。 2024年度入試をにらんで、該当者が見込まれる心理学部3年生に対して、4年次開講の資格必修科目である「心理実習」の説明会を実施する。この科目履修には履修要件があるため、前期中に実施し、単位を落とさないこと、GPAを一定レベルに保つことを明確に学生に伝える必要がある。			
■ 改善計画(時期(〇〇までに)を明確に、具体的な内容の改善計画を立ててください。)			
内部からの進学希望者が期待できないため、他大学出身者や社会人の志望者を獲得するため、6月中旬にチラシを関係機関に配布し、大学院説明会の周知を図る。 心理学部3年生に対して、前期中に「心理実習」の履修に関する説明会を実施し、希望者が履修要件を満たす成績をとれるよう指導する。			

令和3年度 自己点検評価結果

教育理念・目的	科学的根拠(サイエンス)に基づいた術(アート)を備えた慈愛(ハート)のある医療人の創生		
学部・研究科	人文学研究科	学部長・研究科長	窪田文子

2020年度自己点検・評価報告書に基づく改善課題への取り組み状況

■改善課題及び改善指示

大学基準協会から示されている改善課題「学習成果の把握及び評価が行われていないため、効果的に測定するとともに結果を教育内容・方法に生かすこと」を着実に実施し、チェックリストの指標に加え、月次の進捗報告を行ってください。

■取り組みの状況(取り組みの有効性・適切性も含めて評価してください。)

臨床心理学専攻は心理の高度専門職業人の養成が主目的である。そのため、実習を通しての体験的学びが中心となる。実習に関する学習成果を把握、評価するため、「実習を行う学生が身につけることを期待される事項」というチェックリストを作成し、これまで教員間で暗黙裡に共有されていた実践学習で求められ、さらには実践学習を通して醸成することがめざされる姿勢や態度を明文化した。それを用いて、実習が始まる前に1年次生と個別の面談を実施し、各項目の準備状況について話し合った。それを通して、教員側だけの評価にとどまらず、学生とも共有することで、学生自身も課題を明確にすることにつながると考える。また、そこで確認されたことは、実習指導の仕方に反映し、実習を通してまたその結果を評価するというサイクルで評価の結果を指導につなげ、指導を通して成果を評価するという循環的な指導を始めている。個別面談は実習を開始した半年後にも行い、学習の節目節目で学生の学習の進捗状況を把握しながら、指導につなげている。

また、研究活動の進捗状況については、指導教員を中心にモニターし、必要な指導を適切なタイミングで行っている。

また、修了時には、大学院における学びについてのアンケートを実施し、学生がどのような指導に満足しているか、さらにどのような指導・サポートを期待している加藤について、把握している。

学習成果の大きな指標の一つは、資格試験の合格であると考え。2021年3月に修了した学生に対しては、資格対策講座を試験前の夏に実施し、参加者は合格しているため、一定の効果はあったと考える。

■課題・改善点(課題・改善点と判断した根拠を含めて評価してください。)

「実習を行う学生が身につけることを期待される事項」をリストとして明文化できたことは学生の学習成果を把握する試みとして評価できると考える。今後は、このリストの項目を吟味し、整えていることが課題である。また、このリストから把握した学生の準備状況を実習指導に効果的に生かす方法についても、今後教員間で工夫している必要がある。

■改善計画(時期(〇〇までに)を明確に、具体的な内容の改善計画を立ててください。)

2022年度に入学した1年次生が実習を始める前までに「実習を行う学生が身につけることを期待される事項」のリストの見直しを行い、効果的な実習前の面談に備える。

また、リストの項目の中には、「欠席連絡の徹底」「指示への返信」等、実習に限らず、学生生活全体に関連することがある。そこで、専攻会議にて、全教員と共有し、実習担当者以外の教員にも授業等を通して指導してもらうようにする。

令和3年度 自己点検評価結果

教育理念・目的		科学的根拠(サイエンス)に基づいた術(アート)を備えた慈愛(ハート)のある医療人の創生		
部署		企画課	部署長	佐々木正和・関根邦充
指標	数値目標	前年度数値	達成のための具体的対策	
入学定員充足率 (募集・広報ターゲットの拡大)	100.0%(3月) 75.0%(12月)	84.0%(3月) 63.0%(12月)	「高校生を安心させる広報」 ①ダイレクトメールの実施(年10回:5～10月、1月) ②高校訪問(7月) ③OCの内容充実(OCans導入) ④LINE相談会(ZOOM相談会の代替)(7月～9月) ⑤既存入試の見直しと新入試(高大接続入試)の導入(入試の検証、実施方法の点検)	
■目標(数値目標)の達成度、取り組みの状況(取り組みの有効性・適切性も含めて評価してください。)				
入学定員充足率100%を目標として、下記の広報活動を行った結果、77%(入学者231人/300人)であった。 ①ダイレクトメールの実施 資料請求者に対し、年間13回、延べ61,238人に送付した。また、高校に対しては、年間4回延べ7,679校に送付した。 (学科の紹介、スカラシップ内容、オープンキャンパス内容、入試日程) ②高校訪問 宮城、山形、福島、茨城を重点地区とし、これに青森、岩手、秋田、栃木、新潟を加えた832校(延べ数)を訪問、又は電話により情報提供を行った。 ③OCの内容充実 オープンキャンパス参加登録者管理システムを導入し、WEB型のオープンキャンパス参加者の所属、学年等について把握することができた。 ④LINE相談会 SNSであるLINEを活用した相談会を7～9月にかけて実施し、延べ10人の参加者が得られた。 ⑤既存入試の見直しと新入試(高大接続入試)の導入(入試の検証、実施方法の点検) 総合型選抜入試において「高大接続型方式」を導入し、6人の志願者が得られた。				
■課題・改善点(課題・改善点と判断した根拠を含めて評価してください。)				
【学部別入学定員充足率:薬学科 68%、看護学科64%、作業療法学科75%、理学療法学科118%、臨床心理学科63%】 学生が集まる「良い大学」とは、学生、保護者の満足度が高い大学であると考えている。入学者を継続的に確保するためには、まず、在学生への教育、サポートを充実させることが最重要であると考えます。 令和3年度は、ダイレクトメールやオープンキャンパスなど、高校生へ直接的に働きかけられる広報手段に比重をおきつつ、高校訪問等による教員を介した間接的な広報を実施した。ダイレクトメールは、資料請求の申し出を起こした高校生に、年間を通じて継続的に通知することで認知度を向上させるために、ほぼ毎月1回にわたり実施したが、はがきサイズで学科の内容を十分に伝えることができなかったせいか入学者増加に繋がらなかった。次年度はオープンキャンパス、スカラシップ等、イベントの告知に限定して実施する。高校訪問は、進路アドバイザー、事務職員、及び作業療法学科、臨床心理学科の教員と協力して実施した。7月、及び9月～11月にかけて実施したが、新型コロナウイルス感染症の影響により、一部の高校では訪問を拒否された。高校訪問は教員を介した間接的な広報になるため、あまり効果は期待できないが、推薦入試の決定時期やスカラシップの告知のために、次年度も継続する予定である。オープンキャンパスでは、OCANsというシステムを導入した。WEBオープンキャンパスの参加者の所属高校の把握、参加者数の事前把握にとっても役立つため、継続して使用する。また、オープンキャンパスでの接触が最も重要な機会となるため、さらに充実した内容になるよう検討しなければならない。LINE相談会は年間10件の相談者であった。次年度は個別相談会を実施すること、進学相談会の開催が増加すること等、LINEによる相談の需要が減ると想定できるため、これらに代える。総合型選抜入試(高大接続型方式)の志願者は6人であり、見込みより少なかった。総合型選抜入試の方式の種類が多く、高校生に複雑化しているという印象を与えたこと、及び入学時の学力の3つの要素を測定する方法が不十分であったことから試験内容を再検討する必要がある。				
■改善計画(時期(〇〇までに)を明確に、具体的な内容の改善計画を立ててください。)				
次年度の募集活動は、理学療法学科が広報時に掲げていた「オンリーワン」をキーワードとし、他大学にはない、本学ならではの内容を取り上げ、広報していくことが効果的であると考えます。また、「課題・改善点」の欄にも挙げた、学生が集まる「良い大学」を伝えるために、在学生への教育、サポート体制を広報したい。 広報は、①資料請求者を増やす取組、②オープンキャンパス参加者を増やす取組、③受験者・入学者を増やす取組の3つの柱を軸として、各種施策を実施し、入学者の確保を図る。				

令和3年度 自己点検評価結果

教育理念・目的		科学的根拠(サイエンス)に基づいた術(アート)を備えた慈愛(ハート)のある医療人の創生		
部署		企画課	部署長	佐々木正和・関根邦充
指標	数値目標	前年度数値	達成のための具体的対策	
資料請求数 前年比率 (募集・広報 ターゲットの 拡大)	105.0%	126.9%	「高校生を安心させる広報」 ①SNSおよびYouTubeを活用した広報活動 ・SNS(Twitter,Instagram,LINE)の実施 ・SNS広告の活用(12月下旬～1月) ②教員コラムリレー(5月～1月) ③動画作成・配信(360° カメラの活用)(5月～9月) ④HPの内容強化(「今日の大学」通年実施、Q&Aの整理)	
■目標(数値目標)の達成度、取り組みの状況(取り組みの有効性・適切性も含めて評価してください。)				
資料請求者数を前年度比105%まで増やすことを目標として、下記の取組を行った結果、前年比132%であった。 ①SNSおよびYouTubeを活用した広報活動 SNS(Twitter,Instagram, LINE)を活用して大学の情報提供を行った。フォロワー数は、562人、232人、ともだち数は586人となった。 Twitterを活用して、スカラシップ入試の告知を2回実施した。 ②教員コラムリレー 各学科の協力を得て、9人の教員によるコラムリレーを実施した。(作業2人、心理2人、薬2人、理学1人、看護1人、国際看護1人) ③動画作成・配信(360° カメラの活用) 360° カメラを活用し、大学構内の雰囲気、各学部の建物内部の雰囲気をWEBサイト上へ公開した。また、教員紹介動画を作成しWEBオープンキャンパス等で公開した。 ④HPの内容強化 昨年度に引き続き、「今日の大学」を毎日公開するとともに、受験生の入試内容の理解促進のためにQ&Aを整理し、公開した。				
■課題・改善点(課題・改善点と判断した根拠を含めて評価してください。)				
資料請求者数:7,594人(132%)(昨:5,772人) 【内訳:3年 2,055人(昨:1,812人)、2年 3,482人(昨:1,943人)、1年 1,580人(昨:1,544人)、その他 477人(昨:473人)】 資料請求者数は全学年で増加し、受験対象者であった3年生においても243人増加した。 10人以上増加している県は、北海道(21人増)、岩手県(28人増)、山形県(11人増)、茨城県(48人増)、千葉県(42人増)、埼玉県(20人増)、東京都(33人増)であった。 関東圏においては、国際看護学部が設置されたことによる影響が大きいと考えられる。 また、県によっては、資料請求者が減少しており、3年生の資料請求者が10人以上減少した県は、宮城県(▲32人)、福島県(▲42人)であった。減少した理由は、18歳人口の減少に伴って、偏差値上位校に入学できる状況に変化してきたことが挙げられる。 これを打開するためには、自らの「偏差値」を向上させるか、「偏差値」を超えて進路選択してもらえる「良い大学」へ変化することが必要である。 「偏差値」を向上させるためには、志願者の中長期的に継続して増加させる必要があるため、まずは、「良い大学」であることを認識してもらえるよう、他大学・専門学校との差別化を図り、「オンリーワン」の大学であることを広報し、高校生の興味・関心を得る必要がある。				
■改善計画(時期(〇〇までに)を明確に、具体的な内容の改善計画を立ててください。)				
資料請求を行う際、大学名称を見て、興味・関心を持ってもらう必要がある。 興味・関心をもつきっかけとなるものは、テレビCM、新聞等の一般のメディアであるが、予算等を踏まえ、昨年度に引き続き、SNS、YouTube、業者によるWEBサイトを中心とした広報により、高校生に働きかけ続ける。 また、令和3年度における高校1年生においては福島県内の減少数が多いため、福島県における進学相談会、学校ガイダンス、WEB広告を重要視し、活動する。 なお、360° カメラについては、令和3年度中に内容が整備されたため、次年度の計画からは除外する。 ①SNSおよびYouTubeを活用した広報活動 ②教員コラムリレー ③HPの内容強化				

令和3年度 自己点検評価結果

教育理念・目的		科学的根拠(サイエンス)に基づいた術(アート)を備えた慈愛(ハート)のある医療人の創生		
部署		企画課	部署長	佐々木正和・関根邦充
指標	数値目標	前年度数値	達成のための具体的対策	
「教育の質の指標」増減率の向上 (補助金獲得施策)	0.0%	▲3.0%	令和4年度における「教育の質の指標」の増減率を向上させるための要件を満たせるよう取り組む。 ①IR業務(学修成果データ等) ②教員評価制度の実施(インセンティブ) ③卒業生アンケートデータの活用、授業等教育活動の見直し ④授業評価結果の活用(高評価教員への顕彰、低評価教員への改善計画、改善を諮るためのFD)	
■目標(数値目標)の達成度、取り組みの状況(取り組みの有効性・適切性も含めて評価してください。)				
私立大学経常費補助金「教育の質の客観的な指標」における補助率を▲3.0%から0.0%へすることを目標した結果、目標のとおり0.0%とすることができた。				
①IR業務(学修成果データ等) 各学部のDPIに即した科目を選出し、分析を行い、自己評価委員会・全学教育委員会へ報告した。 ②教員評価制度の実施 教員評価制度を改定し令和3年度より施行した。 ③卒業生アンケートデータの活用、授業等教育活動の見直し 全学教育委員会でアンケートデータを報告し、自己評価委員会で検討された。 ④授業評価結果の活用 授業評価結果は従来より教員評価に組み込まれているが、今般の教員評価制度の改定により高評価教員に対して手当を支給することとなった。				
■課題・改善点(課題・改善点と判断した根拠を含めて評価してください。)				
「教育の質の指標」の要件となっている各事業を実施し、目標値であった「0.0%」までを見込める状況となった。しかしながら、令和3年度においても、従前なかった「ガバナンス・コード」に関する設問が設定されるなど、予定の点数を加算できない状況になった。 解決策は、文部科学省の各施策に対応しながら、大学の实情に応じて各事業を実施していくことである。 なお、「教育の質の指標」が設定された当初、従前の「改革総合支援事業」で設定されていた設問が移行されてきたことから、現時点において「改革総合支援事業」で設定されている設問に、できる限り対応していくことが肝要である。				
■改善計画(時期(〇〇までに)を明確に、具体的な内容の改善計画を立ててください。)				
次年度の「教育の質の指標」における点数加算に向けて、各学部と事務局の共通認識を持たなければならない。 令和3年度における「教育の質の指標」、及び「改革総合支援事業」への対応策については、令和4年1月20日の第3回全学教育委員会で提案を行い、1月27日に各学部長、教務学生課員への説明会、3月4日、7日には事務局管理職と設問の再確認を実施した。 令和3年度に新設された「ガバナンス・コードの遵守」に係る設問は、令和4年3月28日開催の理事会でガバナンス・コードの点検・公表について承認を得た。 その他の設問についても要件を満たせる施策は可能な限り実施できるよう各部局と打ち合わせを行いながら、基準日となる10月31日(一部、4月1日)までに施策を進めていく。				

令和3年度 自己点検評価結果

教育理念・目的	科学的根拠(サイエンス)に基づいた術(アート)を備えた慈愛(ハート)のある医療人の創生		
部署	企画課	部署長	佐々木正和・関根邦充

指標	数値目標	前年度数値	達成のための具体的対策
届出書類提出 (新たな大学のあり方)	—	—	①薬学部定員変更に係る届出書類の提出

■目標(数値目標)の達成度、取組みの状況(取組みの有効性・適切性も含めて評価してください。)

薬学部の定員を90人から60人へ減少させるための「収容定員の変更に係る学則変更」について、基本計画書、図面、学則変更案、学則変更の趣旨等を記載した書類、学生確保の見通し等を記載した書類、教員名簿等を取りまとめた上で、令和3年4月20日付けで文部科学省へ届け出た。

■課題・改善点(課題・改善点と判断した根拠も含めて評価してください。)

特になし。

■改善計画(時期(〇〇までに)を明確に、具体的な内容の改善計画を立ててください。)

特になし。

令和3年度 自己点検評価結果

教育理念・目的		科学的根拠(サイエンス)に基づいた術(アート)を備えた慈愛(ハート)のある医療人の創生		
部署		企画課	部署長	佐々木正和・関根邦充
指標	数値目標	前年度数値	達成のための具体的対策	
自己点検評価	—	—	①自己評価体制の検証(2022年度 是正事項、改善課題報告書提出に向けた進捗状況の管理)	
■目標(数値目標)の達成度、取組みの状況(取組みの有効性・適切性も含めて評価してください。)				
2018年度に受審した機関別認証評価において結果を「保留(再評価)」とされ、2020年度に再評価を受審し、「適合」を受けたところであるが、再評価において、次のような総評を受けている。 「大学全体として内部質保証を統括し推進するための責任体制は、まだ十分なものとなっていない。近年の短期間での相次ぐ改革は、内部質保証の成果という側面よりもむしろ、経営的決断が先行することによって実現した側面が大きかったものと思われる。内部質保証は今回の評価の対象となっていないが、今後は新しい内部質保証体制を更に充実させ十全に機能を発揮できるように努め、教育の質の向上を図り、大学の新たな理念・目的の達成に向けて、一層の飛躍を遂げることを期待する。」 指摘されている「内部質保証体制を更に充実させ十全に機能を発揮できるように努め、教育の質の向上を図る」ため、前年同様の各部署の相互チェックに加え、点検項目(学生の受け入れ)を追加し、学修成果の把握(DPの獲得度合)を試みた。				
■課題・改善点(課題・改善点と判断した根拠を含めて評価してください。)				
4半期に一度の自己点検、及び自己評価委員会での相互チェックは、各部署の参考となる取組みなどを共有できる側面もあり、教育の質の向上に効果的であった。しかしながら、相互チェックの強化の必要性も感じられ、目標に対する結果(進捗)が計画どおりなのか、修正が必要ならばどのように取組むのか、といった厳格な観点も必要である。 学修成果の把握(DPの獲得度合)を試みたが、検証データが限定的なため、一定の評価を行ったものの、検証結果から改善への具体的な取組みまでには至らなかった。				
■改善計画(時期(〇〇までに)を明確に、具体的な内容の改善計画を立ててください。)				
2023年度の自己点検評価においては、2022年度より見直しを行った内部質保証体制を十分に機能させることを始め、自己点検項目を中期事業計画と対応させながら新たな観点を加え実施する。 また、機関別認証評価においては、前回評価の改善事項の報告も必要なため、自己評価委員会に加え、実施委員会を設置し、具体的な作業(報告書の作成等)を行う。				

令和3年度 自己点検評価結果

教育理念・目的		科学的根拠(サイエンス)に基づいた術(アート)を備えた慈愛(ハート)のある医療人の創生		
部署		教務学生課	部署長	七島良雄・小椋幸二・馬目高伸
指標	数値目標	前年度数値	達成のための具体的対策	
教育支援改革	campusplan C-learning 運用・データ管理率100%	campusplan (教務系) 100%	・EM運用学生データの整理 EMデータ検証と教育支援【「ヒストグラム」の活用と適正性検証の継続】、国家試験合格に向けたパターン分析と支援策 ・各種調査結果及び調査内容の検証、委員会と連携した学部内検証 ・全学共科目スケジュール確認と中長期に向けた科目配置の検討 ・授業開講形態(遠隔)等調査と検証 ・業務フローの見直し【C-learning徹底と業務WEB化、保護者通知WEB化等】	
■目標(数値目標)の達成度、取り組みの状況(取り組みの有効性・適切性も含めて評価してください。)				
campusplan・C-learning運用・データ管理率:100% ・EM運用学生データの整理 EM運用は、学生の学修モチベーションの維持や離籍対策、国家試験合格の目安などの活用を目的としているが、今年度は、各学部の「必修科目合格分布」、「GPA分布」、薬学部においては国試合格者と留年者の基礎科目成績を用いたレーダーチャートの作成を行い、教務委員会を通して各学科に提供した。また、学生主体の「教育の質保証」につながるEMの仕組みづくりをDX委員会等と検討した。 ・各種調査結果および調査内容の検証、委員会と連携した学部内検証 教務委員会、学生生活委員会で連携し、「学修行動調査・学生生活満足度調査」をC-learningを用いて実施し(回答率62.9%)、その結果を各学部学科で検証し、報告書としてまとめた。 ・全学共通教育科目スケジュール確認と中長期に向けた科目配置の検討 次年度以降の科目担当者、科目群、数理データサイエンス関連科目について、共通教育委員会を中心に計画の策定を行った。数理データサイエンス関連科目については、コンピュータリテラシーと各学科の専門科目(統計科目)で展開することとした。 ・授業開講形態(遠隔)等調査と検証 教務委員会を通して各学部学科ごとに授業形態の調査を行ったが、検証には至っていない。 ・業務フローの見直し【C-learning徹底と業務WEB化、保護者通知WEB化等】 C-learningとアンシンサイトを用いた保護者向け通知システムの運用を開始した。				
■課題・改善点(課題・改善点と判断した根拠を含めて評価してください。)				
・EM運用学生データの整理 学生の学修モチベーションの維持や離籍対策、国家試験合格の目安など、様々な活用が期待されるEMの運用につながる仕組みとして、DX委員会等と選定を行った。学修成果を学生自身に理解させること、教授法の改善に役立てることを目的とした学修の可視化のためのツールとしてportfolioの購入を検討しているが、試験的に、レーダーチャートを作成し、学生にどのような効果があるか、教員がどのように活用できるかという点を評価したうえで、本学にとって適切なものであるかを検討しなければならない。 ・各種調査結果および調査内容の検証、委員会と連携した学部内検証 年に一度実施している「学修行動調査・学生生活満足度調査」について、昨年度から質問項目は減らしたが、それでもまだまだ多く、学生の負担となっており、回答率も62.9%と高くはない。そこで、学生の負担が少ない質問項目数で、各学部等へのフィードバックがしやすい調査内容とするため、次年度は質問内容の大幅な見直しを行う予定。 ・全学共通教育科目スケジュール確認と中長期に向けた科目配置の検討 科目担当者の意図しない退職等が生じると、後任の教員を探すことが難しく、また、時間割作成や授業運営に問題をきたすことがある。そのため、速やかに代替教員を確保できる仕組みの検討が必要。				
■改善計画(時期(〇〇までに)を明確に、具体的な内容の改善計画を立ててください。)				
・EM運用学生データの整理 学修の可視化の効果を評価するために、薬学部の成績データ等を用い、薬学部教員と教務委員会を通して年度末までに作成する。 ・各種調査結果および調査内容の検証、委員会と連携した学部内検証 今年度の「学修行動調査・学生生活満足度調査」実施(9月)までに教務委員会と学生生活委員会で質問項目の再検討を行い、場合によっては「学修行動調査」と「学生生活満足度調査」に分割して実施することも検討する。 ・全学共通教育科目スケジュール確認と中長期に向けた科目配置の検討 科目担当者の意図しない退職等が生じた場合、全学共通教育委員会で、教養科目を担当できる非常勤教員を確保する仕組みを他大学との協力を得るなどの検討を行う。(10月)				

令和3年度 自己点検評価結果

教育理念・目的		科学的根拠(サイエンス)に基づいた術(アート)を備えた慈愛(ハート)のある医療人の創生		
部署		教務学生課	部署長	七島良雄・小椋幸二・馬目高伸
指標	数値目標	前年度数値	達成のための具体的対策	
離籍・留年者の削減	・離籍率2.5% ・留年率6.0% ・就職率100%	・離籍率3.9% ・留年率5.9% ・就職率94.4%	・教職協働による離籍対策として、学生カルテを軸にしたチューター、学部長、学生生活委員、事務局の連携によるチェック運用と検証 ・出席状況から離籍アラートを抽出する仕組みの構築、実践 ・キャンパスプランへの情報蓄積による学生状況の把握 ・オンラインに対応した就職サポートの拡充 ・医療系学部の留年制度について検討 ・学友会団体の活動実態把握と顧問の体制見直し	
■目標(数値目標)の達成度、取り組みの状況(取り組みの有効性・適切性も含めて評価してください。)				
離籍率:3.8% 留年率:6.0% 就職率:96.0% ・教職協働による離籍対策として、学生カルテを軸にしたチューター、学部長、学生生活委員、事務局の連携によるチェック運用と検証 離籍理由の分析方法を改め、複数の理由に対して「重み付け」を用いた分析を行い、より正確な離籍理由を学部と共有して対策を行った。 ・出席状況から離籍アラートを抽出する仕組みの構築、実践 C-Learningの出席管理情報から、連続して欠席している学生を抽出し、学部と共有してドロップアウト対策に当たった。 ・キャンパスプランへの情報蓄積による学生状況の把握 学生情報をできるだけキャンパスプランに入力し、情報集積を行うことで、離籍につながる状況の早期発見に役立てるようにした。 ・オンラインに対応した就職サポートの拡充 コロナ禍の状況以来スタートしたMicrosoft Teamsによるオンライン就職サポートを継続して実施した。学内で行う企業説明会も企業側の要望に応え、オンラインでの開催を実施した。 ・医療系学部の留年制度について検討 薬学部の長期過年度生に対する対応について検討したが、制度の見直しについては進められていない。 ・学友会団体の活動実態把握と顧問の体制見直し				
■課題・改善点(課題・改善点と判断した根拠を含めて評価してください。)				
・教職協働による離籍対策として、学生カルテを軸にしたチューター、学部長、学生生活委員、事務局の連携によるチェック運用と検証 学部によって学生カルテへの情報入力への抵抗感があり、学生の状況が正しく共有できていないケースが見受けられた。また、カルテへの入力がされていない教員のいる学部もあった。学部長を通じて、入力の徹底を求めていく。 ・出席状況から離籍アラートを抽出する仕組みの構築、実践 C-Learningのログイン期間によるアラート抽出はシステムとして不完全であることが判明し、出席状況を直接参照することで解決するに至った。 ・キャンパスプランへの情報蓄積による学生状況の把握 システムに健康診断記録を入力することが可能だが、検査項目の入力欄不足と、健康診断情報を共有する事の必要性について慎重に検討する必要がある。 ・オンラインに対応した就職サポートの拡充 薬学部、健康医療科学部では合同企業説明会のオンライン化が進んでいるが、看護学部はコロナ禍による中止となった。学生の機会損失とならないよう、中止せずオンライン化を進める必要がある。 ・医療系学部の留年制度について検討 薬学部では在籍期間満了を迎える学生が発生する問題を抱えている。 ・学友会団体の活動実態把握と顧問の体制見直し コロナ禍により活動制限を行わなければならない状況が最大の課題である。				
■改善計画(時期(〇〇までに)を明確に、具体的な内容の改善計画を立ててください。)				
・教職協働による離籍対策として、学生カルテを軸にしたチューター、学部長、学生生活委員、事務局の連携によるチェック運用と検証 学生カルテの記入状況を学生生活委員会で報告(5月)。学部長がチェックすることの徹底(7月) ・出席状況から離籍アラートを抽出する仕組みの構築、実践 欠席届の流れを変更することにより、情報の把握に漏れがないかチェックする(6月) ・キャンパスプランへの情報蓄積による学生状況の把握 健康診断記録をキャンパスプランに入力する是非について、保健管理センター運営委員会で検討(6月) ・オンラインに対応した就職サポートの拡充 看護学部担当教員とオンライン合説の実施について検討(6月) ・医療系学部の留年制度について検討 留年と離籍の因果関係についてデータ収集・分析を行う(7月) ・学友会団体の活動実態把握と顧問の体制見直し 学友会団体の昇格制度について条件緩和の検討を学生生活委員会にて検討(5月)				

令和3年度 自己点検評価結果

教育理念・目的		科学的根拠(サイエンス)に基づいた術(アート)を備えた慈愛(ハート)のある医療人の創生		
部署		教務学生課	部署長	七島良雄・小椋幸二・馬目高伸
指標	数値目標	前年度数値	達成のための具体的対策	
DX推進	遠隔実施稼働可能率100% 電子決済・ワークフロー稼働率100%	—	・DX推進計画の策定 ・遠隔授業、ハイブリット型授業展開 ・ペーパーレス化、電子決裁	
■目標(数値目標)の達成度、取り組みの状況(取り組みの有効性・適切性も含めて評価してください。)				
遠隔実施稼働可能率 100% 電子決裁・ワーク稼働率 16%				
①遠隔授業 ・遠隔授業を全授業に展開可能とすることを目標とし、Microsoft365の会議システムを利用した遠隔授業の普及を図り、全教員が利用指針に沿った形で遠隔授業を実施可能な状態とし、目標値の100%となった。 ・12月に5教室に遠隔用機材を導入した。昨年導入した遠隔授業機器の反省から、構成を見直し簡易的な作りとしているが、テスト運用では前回導入機材より大幅に改善している。今回の導入は、授業録画を主目的として導入したが、複数教室を1つの教室として利用することにも十分対応できることを確認した。昨年導入した機器の設置状況から、即稼働可能な教室は66%にとどまる。 ・3月にDx推進委員会を中心に説明会を実施した。 ②電子決裁は、教員も含めた利用を目標として業務の改善を図った。 ・当初予定していた、電子決裁システム(X-Point)の全学的利用は、ネットワークの構成の問題が解決できないことから中止した。このため、目標とする全教職員を対象とした利用可能率は16%となり、未達となっている。 ・目標の代替として、学内で利用しているグループウェア(Garoon)によるワークフローの利用範囲を広げた。 ③前述の項目達成の対策としているが、2022年度のDx推進計画を策定した。 上記2つの目標はDX推進計画の一部となっている。計画は技術の進歩に合わせ最善となる取り組みを行うため、概要のみ記載し、年次で見直すものとし、個々の具体的な取り組み方法は、Dx推進委員会について、順次決定する。				
■課題・改善点(課題・改善点と判断した根拠を含めて評価してください。)				
【課題】 ①遠隔授業の実施については、令和2年度補助金で導入した遠隔授業用の機器の活用が十分になされていない。また、Microsoft365(M365)サービスの移行(ドメイン変更)を行ったことによる継承の中断への対応およびM365の仕様変更への追従を行う必要がある。 ②電子決裁・ワークフローの利用については、稟議システムの利用が事務系に限定されている。 ③Dx推進計画の策定については、デジタル最適による教育効果の向上および業務の効率化のための整備方針が不在であり、アナログが併存するための非効率性が存在する状況の改善が必要となる。				
【改善点】 ①遠隔授業の実施 前年度導入機器の構成を見直し、授業中継・録画に機能を絞った構成としての利用の提案および説明を実施する。また、M365サービスの移行および仕様変更については、学部の協力を得て、学内マニュアルの作成と周知により対応した。 ②電子決裁・ワークフローの利用 電子決裁システムの利用にかわり、グループウェア(Garoon)によるワークフローの利用範囲を広げた。 ③Dx推進計画の策定 デジタル最適による教育効果の向上および業務の効率化のため、教育、研究、父母連携、事務、環境整備についてDx推進計画を策定した。				
■改善計画(時期(〇〇までに)を明確に、具体的な内容の改善計画を立ててください。)				
①遠隔授業の実施 令和2、3年度に導入した機器をM365の機能を生かし、遠隔授業のほかに授業録画へ利用する。さらに既設機器を最大限に活用した最小構成での授業配信・録画機材等の検討・導入を親子なうとともに、頻繁に発生するM365サービス仕様変更についての情報発信を継続して実施する。 ②電子決裁・ワークフローの利用 当初予定したX-Pointが利用できないことへの代用・補完ツールとしてGaroonの機能活用を継続して進める ③Dx推進計画の策定 デジタル技術の進歩をとらえる形で、Dx推進計画を策定し、翌年度以降も年次更新を行う。				

令和3年度 自己点検評価結果

教育理念・目的		科学的根拠(サイエンス)に基づいた術(アート)を備えた慈愛(ハート)のある医療人の創生		
部署		教務学生課	部署長	七島良雄・小椋幸二・馬目高伸
指標	数値目標	前年度数値	達成のための具体的対策	
各種書類提出	—	—	・心理学部 公認心理師確認の申請 ・看護学部 指定申請の提出	
■目標(数値目標)の達成度、取り組みの状況(取り組みの有効性・適切性も含めて評価してください。)				
目標とした心理学部および看護学部の申請は、適切な時期に全ての申請を完了し受理された。				
①心理学部 公認心理師確認の申請 令和3年9月15日に文部科学省高等教育局専門教育課長および厚生労働省社会・援助局障害保健福祉部精神・障害保健課長へ、「公認心理師法第7条第1号及び第2号に規定する公認心理師となるために必要な科目の確認について」(平成29年9月15日 29文科初第879号・障発0915第8号)に基づき変更届を提出し受理された。				
②看護学部 指定申請の提出 ・令和3年5月25日に、福島県および文部科学大臣へ「実習施設の変更」について保健師学校・看護師学校 変更承認申請書を提出した。 ・令和3年9月21日に、福島県および文部科学大臣へ「医療創生大学看護学部看護学科の学則変更(教育課程)の変更」について保健師学校・看護師学校 変更承認申請書を提出した。 なお、提出前には令和3年8月10日の学校法人医療創生大学2021年度第3回理事会第1号議案にて、指定規則改正にかかる変更申請および学則変更について承認を受けた。 ・令和3年9月22日に、福島県および文部科学大臣へ「実習施設の変更」について保健師学校・看護師学校 変更承認申請書を提出した。 ・令和4年2月9日に、福島県および文部科学大臣へ「実習施設の変更」について保健師学校・看護師学校 変更承認申請書を提出した。				
■課題・改善点(課題・改善点と判断した根拠を含めて評価してください。)				
令和3年9月21日に申請した「医療創生大学看護学部看護学科の学則変更(教育課程)の変更」においては修正の依頼を受け対応した。				
①保健師課程のシラバス掲載内容の不足の指摘を受け、補足説明を追記し再提出した。				
②実習計画一覧表を修正し、再提出した。				
③入学者選抜の概要を修正し、再提出した。				
【改善点】				
①シラバスへの記載事項を指定規則の文言に合わせ、詳細に記述することを毎年徹底していくこととする。				
②指摘を受け学年別の実習計画に作り変えたが、詳細にわかりやすく作成することを意識し作成することとする。 当該学部教員作成する項目も多く、全体スケジュールを策定し、リスト化してうえで、進捗管理を行う必要がある。				
実習指導員数(病院施設の人数)を把握することに時間を要したため、提出期限を早めに設定する。				
③令和3年度は、コロナ感染者への対応として入試回数を増加していたことを失念したため、確認作業を徹底する。				
■改善計画(時期(〇〇までに)を明確に、具体的な内容の改善計画を立ててください。)				
・今後、指定規則の改定や実習施設の変更手続き等を行う場合は、スケジュール、作成物リスト、担当者、確認者を一覧表に作成し、進捗管理を行い、期限までに提出することとする。				
・指定規則については、FDを活用し、教員と事務局とが情報共有し連携する必要がある。				

令和3年度 自己点検評価結果

教育理念・目的		科学的根拠(サイエンス)に基づいた術(アート)を備えた慈愛(ハート)のある医療人の創生		
部署		総務課	部署長	半澤智祐
指標	数値目標	前年度数値	達成のための具体的対策	
職員人件費比率	16.0%	16.0%	2018年2月より実施している人件費削減策を継続実施する。 担当業務を明確にし、チームで業務を遂行し時間外業務を抑制する。	
■目標(数値目標)の達成度、取組みの状況(取組みの有効性・適切性も含めて評価してください。)				
・人件費削減策を継続実施した。 ・事務局全体で電子化及び業務見直し等の業務効率化を図り、時間外合計3,215.5H(昨年3,734.2H)で前年比約14%の削減となった。				
【その他の減少理由】 ・職員2名が期中に退職した。 ・賞与が3カ月から2.7カ月に削減された。 ・業務改善管理シートの作成。				
結果、数値目標の職員人件費比率16.0%に対し、6.9%(昨年度7.8%)となり目標を大幅に達成した。(いわきキャンパス)				
■課題・改善点(課題・改善点と判断した根拠を含めて評価してください。)				
業務負担の平準化を目標とした1年であったが、従事する業務量と業務の質にばらつきが生じている。業務の標準化を進め、業務を遂行していく必要がある。各部署で作成した年間スケジュール及び業務管理シートを活用し、事務局全体で見直しをおこなっていく。				
■改善計画(時期(〇〇までに)を明確に、具体的な内容の改善計画を立ててください。)				
人件費削減策は継続実施する。				
各部署長は、 ①課員の業務内容及び業務量を把握し配分を見直しする。 ②課内及び課員の業務進捗を把握し、時間外業務発生を事前に察知してチームで業務を遂行するよう調整する。 ③終業時刻で帰宅する雰囲気づくりをする。				
各課員は、 ①業務内容及び業務量を常に把握し、就業時間内で業務を遂行できるよう計画的におこなう。 ②期限内に業務が遂行できない場合等は、早めに部署長と相談し対策を立てる。 ③緊急の業務がない場合は終業時刻で帰宅する。				

令和3年度 自己点検評価結果

教育理念・目的	科学的根拠(サイエンス)に基づいた術(アート)を備えた慈愛(ハート)のある医療人の創生		
部署	総務課	部署長	半澤智祐

指標	数値目標	前年度数値	達成のための具体的対策
教員人件費比率	39.0%	39.0%	2018年2月より実施している人件費削減策を継続実施する。

■目標(数値目標)の達成度、取組みの状況(取組みの有効性・適切性も含めて評価してください。)

・人件費削減策を継続実施した。
・若手教員の積極採用。

結果、数値目標の教員人件費比率39.0%に対し、43.7%(昨年度47%)となり未達成であった。(いわきキャンパス)

【その他の減少理由】
・賞与が3カ月から2.7カ月に削減された。

■課題・改善点(課題・改善点と判断した根拠を含めて評価してください。)

第2次中期計画で策定した10年間の教員人事計画を基に、教育の質を担保できるよう専門領域や年齢の構成を常に意識し教員組織の安定を図る。

■改善計画(時期(〇〇までに)を明確に、具体的な内容の改善計画を立ててください。)

人件費削減策は継続実施する。
退職や採用については、長期視点に立って、組織の安定を図る。

令和3年度 自己点検評価結果

教育理念・目的		科学的根拠(サイエンス)に基づいた術(アート)を備えた慈愛(ハート)のある医療人の創生		
部署		総務課	部署長	半澤智祐
指標	数値目標	前年度数値	達成のための具体的対策	
経費の効率化	管理経費 +2%	管理経費 +5%	①LED化[蛍光管→LEDへの交換] ②経費削減策の検討・実施(無人コンビニの運用見直し)	
	教育経費 +10%以内	教育経費 +16%以内		
	(収定40名増)	(収定120増)		
■目標(数値目標)の達成度、取り組みの状況(取り組みの有効性・適切性も含めて評価してください。)				
・光熱水費の削減を目標として、6号館東棟の1階の講義室及び共有部分(トイレ、廊下)、外灯のLED化工事を実施した。 ・コンビニエンスストアの運営費を学生及び教職員の福利厚生として大学が売り上げの補填をおこなっているが、この経費を削減するため、9月に無人コンビニのリニューアルをおこない月2回「オアシスの日」を導入した。菓子、飲料、パン、カップ麺などの売り上げが好調で 10月以降平均売り上げが月80万円となり売り上げが20%アップし、補填額を削減できた。。アンケート結果より6割の学生が「オアシスの日」を設けたことに好意的な感想をもっており、「オアシスの日」が定着してきた。				
【その他の経費削減内容】 ・契約電力の見直しによる光熱水費の削減を実施した。 ・ペーパーレス化及びICT化の推進をおこない消耗費と人件費の削減を実施した。				
結果、昨年比、管理経費▲23%、教育経費▲12%となり達成した。				
■課題・改善点(課題・改善点と判断した根拠を含めて評価してください。)				
①光熱水費削減のためLED未整備個所のLED化 薬学部棟(一部LED化済)、地域交流館、本館(一部LED化済)、外灯(一部LED化済)				
②運営費補填の削減のため経費削減策の検討・実施(無人コンビニの運用見直し) 日々、商品が品薄となりがちなため陳列棚に空きスペースが目立ち売り上げにも影響が出ている。				
③学生数に対し施設が広いため、メンテナンス及び維持費にかかる割合が高い。				
■改善計画(時期(〇〇までに)を明確に、具体的な内容の改善計画を立ててください。)				
①LED化 薬学部棟内の照明LED化工事(令和4年度中期計画)を9月末までに実施し光熱水費削減を図る。				
②経費削減策の検討・実施(無人コンビニの運用見直し) 長期休暇期間を除く月において、月2回の「オアシスの日」に魅力ある商品を提供する。 日々、商品が品薄となりがちなため、人気商品を陳列するよう業者と連携する。 学生アンケートを実施し意見を参考にしながら運営し、学生・教職員の満足度を向上させ補填運営費の削減を図る。				
③使用教室と不使用教室の整理 不使用教室を洗い出し、清掃及び光熱水費等の経費削減実施 学部構成の安定により、授業科目の固定化が進むため、稼働エリアを限定し効率化を図る。				

令和3年度 自己点検評価結果

教育理念・目的		科学的根拠(サイエンス)に基づいた術(アート)を備えた慈愛(ハート)のある医療人の創生		
部署		総務課	部署長	半澤智祐
指標	数値目標	前年度数値	達成のための具体的対策	
業務の効率化	事務の電子化(第2次)	事務の電子化(第1次)	物品・消耗品等の調達及び図書調達について、現行の紙による調達申請から電子による調達申請方式、出張命令書及び報告書の電子化、Garoonのワークフロー機能を利用した方式を2月末までに制作した。電子方式を令和3年4月より利用開始する。 ①電子調達申請のスムーズな運営 ②Xpointの活用 ③業務に対しても問い合わせ削減(教授者便覧の見直し、Q&Aの作成)	
■目標(数値目標)の達成度、取り組みの状況(取り組みの有効性・適切性も含めて評価してください。)				
・電子調達申請のスムーズな運営 図書及び物品等の電子調達申請(Garoonのワークフロー)でおこない、全般的に問題なく運用され有効性が確認できた。 ・Xpointの活用(電子起案システム) システムの設定により、現状維持とした。 ・業務に対する問い合わせ削減(教授者便覧の見直し、Q&Aの作成) 令和4年度教授者便覧の「研究費について」を大幅に見直ししGaroonのワークフロー操作手順も盛り込み改定案を作成した。 調達・経理・図書関係のQ&AをGaroonのFAQに掲出した。 結果、数値目標はXpointの活用を除き実施した。				
■課題・改善点(課題・改善点と判断した根拠を含めて評価してください。)				
①現時点において、教員がメールや紙で提出(申請)している書類等があるため電子化の可否とその有効性を検討し、電子化が有効なものは実施時期を計画し順次実施していく。 ②調達起案に時間と労力を要しているため、起案内容の定型化等で効率化していく。 ③図書館業務のリブサポによる業務を拡大していく。 ④電子書籍を整備していく。 ⑤現在稼働中の調達ワークフローの使い勝手を向上させていく。				
■改善計画(時期(〇〇までに)を明確に、具体的な内容の改善計画を立ててください。)				
①総務関係業務の電子化を図る。 ・期中に実施するもの:健康診断申請(5月) ・来年度より実施するもの:洗い出しをおこない、電子化が有効なものは2月末までに準備する。 ・立替処理申請、教員研究計画書・報告書の作成及び提出、ゲストスピーカーの支払を年度開始より実施する。 ・書籍の立替購入手続きを後期より電子化する。 ②Xpointによる調達起案の購入理由を定型化し業務の効率化を図る。(5～6月) ③図書館業務のルーチンワークをリブサポに役割分担する。(5月) ④電子書籍の積極的整備を図る(通年) ⑤現在稼働中の調達ワークフローを見直し改良する。				

令和3年度 自己点検チェックリスト

教育理念・目的		科学的根拠(サイエンス)に基づいた術(アート)を備えた慈愛(ハート)のある医療人の創生		
部署		総務課	部署長	半澤智祐
指標	数値目標	前年度数値	達成のための具体的対策	
学習環境の整備	コロナ感染防止設備の更新 施設修繕 学生用プリンタ設置	学習室整備 学生寮増室 学生駐車場	①コロナ感染防止の継続実施 ②AV大講義室映像音響設備更新 ③施設修繕 ④学生用プリンタの学部への設置	
■目標(数値目標)の達成度、取り組みの状況(取り組みの有効性・適切性も含めて評価してください。)				
・コロナ感染防止の継続実施 手指消毒アルコールを常時提供、清掃業者による教室のアルコール消毒の実施、職員による学生食堂での手指消毒パトロールの実施、学生食堂及び図書館内に「黙食」を促す掲示により注意喚起をおこなった。 ・AV大講義室映像音響設備更新 プロジェクターの更新により、投影解像度が向上し教育環境が向上した。 ・施設修繕 本館タイル外壁劣化、6号館東棟屋根破損、6号館(6N-403教室)床不具合、体育館2階廊下(トレーニングジム前)の天井からの雨漏れ、薬学部棟3階ベランダ補修、大学会館キュービクル塗装を10月に完了した。 心理相談センター2階大学院生室の不具合のあった換気扇(ロスナイ)の交換工事を実施した。 ・学生用プリンタの学部への設置 図書館内既設学生用プリンタが安定稼働するようになったため、学部への設置は実施しないこととした。 ・その他、図書館に学生用パソコンを増設、外灯のLED化で学生の夜間安全確保を実施した。 結果、学生用プリンタの学部への設置以外は全て実施できた。				
■課題・改善点(課題・改善点と判断した根拠を含めて評価してください。)				
教務学生課と連携し遊休空室の利活用をおこない学習環境の向上を図っていく。 ①6号館東館1階に1教室整備、11号館3階に1教室整備する。 ②3号館内の見直しと学習室整備する。 ③構内に設置しているベンチの利用頻度が低いとため、配置場所を検討する。				
■改善計画(時期(〇〇までに)を明確に、具体的な内容の改善計画を立ててください。)				
第二次中期事業計画の教育研究環境・施設等整備計画にある6号館東館の教室・学習環境の改善を教務学生課と連携しおこなう。 ①11号館3階の302室(旧CAD実習室)を一般講義室に後期授業から利用できるように整備する。その際に、6号館東館1階の学習室(6E-101)の講義机・椅子も更新する。(前期) ②3号館4～5階の教員研究室を南側に移動、北側の空室を学生の自習室に整備する(前期・後期)。 ③キッチンカーによる昼食提供や学生の利便性をはかるため、構内に設置しているベンチを効果的場所へ再配置する。(5～6月)				

提出日	2022年4月30日	学部・研究科	薬学部
-----	------------	--------	-----

2021年度 大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準4 教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目①	評価の視点
授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。	課程修了にあたって、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果を明示した学位授与方針の適切な設定及び公表

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
・薬学部の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）は、全体として「薬学教育モデル・コアカリキュラム」に明示されている「薬剤師にとって必要な10の資質」をすべて網羅しており、5項目から成っている。 ・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）は、新年度開始時のオリエンテーションにおいて口頭ですべての学生に周知しており、入学時に配布する「履修の手引」にも掲載している。さらに、その科目がディプロマ・ポリシー5項目のうちのどれを育成するものであるかを担当教員がシラバスに明示することで学生に周知することを図っている。加えて、ホームページに掲載されており、広く社会に公表している。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
現在のところ問題点は見られないが、今後「薬剤師の養成及び資質向上等に関する検討会の提言（厚労省）」や「薬学教育モデル・コアカリキュラム」の改定に沿って、改変する必要がある。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
薬学教育評価機構による第三者評価の指針により、毎年度のディプロマ・ポリシーの見直しが求められている。薬学部自己点検評価委員会で毎年度検討している。昨年度の検討では、問題は見られないとの結論に至った。中央教育審議会「3つのポリシー策定及び運用に関するガイドライン」「教学マネジメント指針」を参考に見直しを行う予定である。

提出日	2022年4月30日	学部・研究科	薬学部
-----	------------	--------	-----

2021年度 大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準4 教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目②	評価の視点
授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	○下記内容を備えた教育課程の編成・実施方針の設定及び公表 ・教育課程の体系、教育内容 ・教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等 ○教育課程の編成・実施方針と学位授与方針との適切な関連性

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）

・薬学部の教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）は、教育課程の体系、教育内容、授業科目区分、授業形態などが明記されており、4項目から成っている。またディプロマ・ポリシーとの関連性も明記されている。

・編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）は、新年度開始時のオリエンテーションにおいて口頭ですべての学生に周知しており、入学時に配布する「履修の手引」にも掲載している。さらに、その科目がディプロマ・ポリシー5項目のうちのどれを育成するものであるかを担当教員がシラバスに明示することで学生に周知することを図っている。加えて、ホームページに掲載されており、広く社会に公表している。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）

現在のところ問題点は見られないが、今後「薬剤師の養成及び資質向上等に関する検討会の提言（厚労省）」や「薬学教育モデル・コアカリキュラム」の改定に沿って、改変する必要がある。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）

薬学教育評価機構による第三者評価の指針により、毎年度のディプロマ・ポリシーの見直しが求められている。そのため薬学部自己点検評価委員会では毎年度検討している。昨年度の検討では、問題は見られないとの結論に至った。中央教育審議会「3つのポリシー策定及び運用に関するガイドライン」「教学マネジメント指針」を参考に見直しを行う予定である。

提出日	2022年4月30日	学部・研究科	薬学部
-----	------------	--------	-----

2021年度 大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準4 教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目③	評価の視点
教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開講し、教育課程を体系的に編成しているか。	・教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性、順次性、体系的性 ・単位制度の趣旨に沿った単位の設定 ・個々の授業科目の内容及び方法、位置づけ（必修、選択等） ・初年次教育、高大接続への配慮、教養教育と専門教育の適切な配置 ・コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮等（【修士】【博士】） ・教育課程の編成における全学内部質保証推進組織等の関わり

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
・教育課程の整合性、順次性、体系的性は、カリキュラム・マップおよびカリキュラム・ツリーにより確認できる。また「薬学教育モデル・コアカリキュラム」を網羅して、体系的にカリキュラムが組まれている。 ・単位制度の趣旨に沿った単位が設定されており、授業外時間も含め1単位45時間として、シラバスに授業外時間数も掲載されている。 ・シラバスに、個々の授業科目の内容及び方法、位置づけ（必修、選択等）が掲載されている。 ・イグナイト教育・クラムスクールによる初年次教育、高大接続への配慮が行われている。教養教育科目を選択できるように、時間割を作成している。 ・教育課程の編成における内部質保証推進組織等の関わりとして、本薬学部内に設置した「薬学教育検証委員会」により、薬学教育評価機構の観点に沿って内部質保証に務めている。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
高学年において、教養教育科目を選択する時間が取れていないという問題点がある。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
「薬学教育モデル・コアカリキュラム」の改定に合わせて、カリキュラム編成を予定しており、高学年において教養教育科目を選択する時間が取れない問題点についても検討していく。中央教育審議会「教学マネジメント指針」を参考に、教育課程の整合性、順次性、体系的性を見直していく予定である。

提出日	2022年4月30日	学部・研究科	薬学部
-----	------------	--------	-----

2021年度 大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準4 教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目④	評価の視点
学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	・1年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定 ・シラバスの内容（到達目標、学習成果指標、授業準備の指示、成績評価方法・基準の明示）及び実施（授業内容とシラバスとの整合性） ・学生の主体的参加を促す授業形態、授業方法、適切な履修指導 ・研究指導計画（研究指導の内容及び方法、年間スケジュール）の明示と研究指導の実施（【修士】【博士】） ・教育の実施にあたっての全学内部質保証推進組織等の関わり

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
・1学年ごとの履修登録単位数は、キャップ制度により上限を設けている。 ・シラバスへは、到達目標、学習成果指標、授業準備の指示、成績評価方法・基準が明示されている。シラバスには「薬学教育モデル・コアカリキュラム」のSB0が記載されており、概ねコアカリの授業内容が行われているが、現在その整合性の度合いを調査中である。 ・ほとんどの科目でミニツツペーパー、計算演習、LITE、SGDなどのアクティブラーニングを取り入れ、学生の主体的参加を促す授業形態、授業方法、適切な履修の指導を行っている。ほぼ全ての薬学教員はイグナイト教育に参加し、学生と共にアクティブラーニングの手技を学び、専門科目に反映させている。これらは「薬学教育モデル・コアカリキュラム」の授業方法に準拠して行われている。教育の実施にあたって、本薬学部内に「薬学教育検証委員会」を設置し、薬学教育評価機構の観点に沿って内部質保証に務めている。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
「薬学教育モデル・コアカリキュラム」のSB0と授業内容の整合性が必ずしも取れていない部分も散見される。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
「薬学教育モデル・コアカリキュラム」のSB0と授業内容の整合性について、教科書「スタンダード薬学シリーズⅡ」（「薬学教育モデル・コアカリキュラム」のSB0を解説している日本薬学会編集の標準的教科書）を用いて詳細に調査中であり、各科目へ適正なSB0の配置を行う予定である。

提出日	2022年4月30日	学部・研究科	薬学部
-----	------------	--------	-----

2021年度 大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準4 教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目⑤	評価の視点
成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	・成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置 ・卒業・修了要件の明示 ・学位論文審査がある場合、学位論文審査基準の明示・公表 ・学位審査及び修了認定の客観性及び厳格性を確保する措置 ・学位授与に係る責任体制及び手続の明示、適切な学位授与 ・全学内部質保証推進組織等の関わり

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
・成績評価の客観性として、ルーブリックによる評価の導入を進めている。厳格性を担保するための措置として、「履修の手引き」に記載の基準を用い、教授会での審議を経て進級判定を行っている。また定期試験結果の分布、成績分布の解析などによる成績評価の適切性を確認している。 ・卒業・修了要件は、学則ならびに履修の手引きで周知している。 ・卒業研究論文の審査基準の明示・公表として、客観性及び厳格性を確保する措置として、教員3人からの評価を行っている。またルーブリック評価を設定し、学生に周知している。 ・学位授与に係る責任体制及び手続の明示について学則ならびに履修の手引きで周知しており、履修の手引きに記載の基準を用い、教授会での審議により卒業判定を行っている。 ・成績評価、単位認定及び学位授与にあたって、本薬学部内に「薬学教育検証委員会」を設置し、薬学教育評価機構の観点に沿って内部質保証に務めている。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠も含めて記載してください。）
科目ごとに、定期試験結果の分布や最終成績分布の偏りが見られ、科目の難易度の設定が検討されていない。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
授業の初回に前年度授業評価アンケートにおける学生からの改善要望に対してこれに答える形で改善点を提示している。また、適切な成績評価および授業改善のための薬学部FD研修会などを実施している。

提出日	2022年4月30日	学部・研究科	薬学部
-----	------------	--------	-----

2021年度 大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準4 教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目⑥	評価の視点
学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	・分野の特性に応じた学習成果を測定する指標の適切な設定（専門的職業との関連が強いものは、当該職業を担うのに必要な能力の修得状況を適切に把握できるもの。） ・学位授与方針に明示した学生の学習成果を把握、評価するための方法の開発（アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学生調査、卒業生・就職先への意見聴取等） ・学習成果の把握、評価への全学内部質保証推進組織の関わり

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
・4年次において主に知識を評価する客観試験CBTならびに実技を通して技能・態度を評価する客観的臨床能力試験OSCE の「薬学共用試験」が行われ、5年次の実務実習を行う能力を評価する。また6年次においては「薬学総合演習」の科目試験「薬学総合試験」において6年間に身につけた学習能力を評価している。これらを分野の特性に応じた学習成果を測定する指標としている。 ・学位授与方針に明示した学生の学習成果を把握、評価するための方法として、6年次における薬学総合演習の科目試験を用いて薬剤師に必要な知識・技能・態度を評価している。学生調査として、卒業生からのカリキュラムに関するアンケートを行っている。就職先へのアンケートは行っていないが、毎年度の就職率を評価している。 ・学習成果の把握、評価への全学内部質保証推進組織の関わりとして、本薬学部内に「薬学教育検証委員会」を設置し、薬学教育評価機構の観点に沿って内部質保証に務めている。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠も含めて記載してください。）
薬学教育評価機構の第三者評価においても、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を総合的に評価するようとの改善が指示されている。また、本学部独自の就職先へのアンケートは現時点では行われていない。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を総合的に評価する方法について、本薬学部では薬学教育検証委員会ならびに薬学部自己評価委員会により検討を行っている。また就職先へのアンケート実施も検討している。中央教育審議会「教学マネジメント指針」を参考に、学生の学習成果を把握、評価するための方法を改善していく。

提出日	2022年4月30日	学部・研究科	薬学部
-----	------------	--------	-----

2021年度 大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準4 教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目⑦	評価の視点
教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	- 適切な根拠（資料、情報）に基づく定期的な点検・評価 - 学習成果の測定結果の適切な活用 - 点検・評価結果に基づく改善・向上

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
- 定期試験、模擬試験、国家試験の成績分布を専門分野ごとに解析・評価することについて、本薬学部でIRを担当する教育支援室などが行っている。薬学部カリキュラム・アセスメント・チェックリストを策定し、本薬学部内の「薬学教育検証委員会」により6年制薬学教育におけるPDCA稼働状況を点検することになっている。 - 薬学部FD研修会において、学習成果の測定結果を活用した授業改善について検討を行っている。 - 点検・評価結果に基づく教育課程およびその内容、方法の適切性の改善・向上に向けた取り組みについては、来年度以降の検討課題と認識している。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
令和3年度においてははまだ点検・評価結果に基づく改善・向上についての評価は行われていない。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
令和4年度より、薬学教育評価機構の第三者評価で指摘された改善事項について検討していくので、同時に教育課程およびその内容、方法の適切性について「薬学教育検証委員会」で評価し、関連部署に改善に向けた取り組みを指示することにより教育のPDCAサイクル稼働を実現したい。今後更に、中央教育審議会「教学マネジメント指針」を参考に、教育の質保証制度について見直していく。

提出日	2022年4月22日	学部・研究科	看護学部
-----	------------	--------	------

2021年度 大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準4 教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目①	評価の視点
授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。	課程修了にあたって、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果を明示した学位授与方針の適切な設定及び公表

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
大学の教育理念・目的と教育方針に基づいて、看護学部のディプロマポリシーを明確に定め、ホームページ等にて公表している。学生が修得することが求められる知識として、一般教養、看護の科学的根拠、地域の健康課題や災害活動に関する知識等を含めており、技能として、根拠に基づく看護実践、多職種連携・協働、災害時を含めた地域活動等、態度として、ヒューマニズムと倫理性、および自律的、継続的態度等を含めている。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
知識、技能、態度の内容が必ずしも明確となっているとは言えない部分や表現もあるため、見直しが必要であると考え。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
大学のディプロマポリシーに基づく看護学部のディプロマポリシーであることや知識、技能、態度の内容が明確にわかるよう見直しをしていく。

提出日	2022年4月22日	学部・研究科	看護学部
-----	------------	--------	------

2021年度 大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準4 教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目②	評価の視点
授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	○下記内容を備えた教育課程の編成・実施方針の設定及び公表 ・教育課程の体系、教育内容 ・教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等 ○教育課程の編成・実施方針と学位授与方針との適切な関連性

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
大学の教育理念・目的と教育方針に基づいて、看護学部のカリキュラムポリシーを明確に定め、ホームページ等にて公表している。具体的には、一般教養科目から看護の専門基礎分野科目、専門科目へと体系化し、順次教育内容を編成している。専門科目は、「看護実践基盤学科目」「生涯発達看護学科目」「健康生活看護学科目」「地域養生看護学科目」「看護の統合と実践科目」と基礎的な科目から統合的な科目へとなるように編成している。また、授業形態も講義、演習、実習と修得した知識をもって技能、態度につなげることができるよう編成してる。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
ディプロマポリシーの見直しに伴い、カリキュラムポリシーにも修正の必要性が発生するため、ディプロマポリシーの見直しに合わせて改善していく。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
ディプロマポリシーの見直しに伴い、カリキュラムポリシーにも修正の必要性が発生するため、ディプロマポリシーの見直しに合わせて改善していく。

提出日	2022年4月22日	学部・研究科	看護学部
-----	------------	--------	------

2021年度 大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準4 教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目③	評価の視点
教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開講し、教育課程を体系的に編成しているか。	・教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性、順次性、体系的性 ・単位制度の趣旨に沿った単位の設定 ・個々の授業科目の内容及び方法、位置づけ（必修、選択等） ・初年次教育、高大接続への配慮、教養教育と専門教育の適切な配置 ・コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮等（【修士】【博士】） ・教育課程の編成における全学内部質保証推進組織等の関わり

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
大学の教育理念・目的と教育方針に基づいて、看護学部のカリキュラムポリシーを明確に定め、ホームページ等にて公表している。具体的には、一般教養科目から看護の専門基礎分野科目、専門科目へと体系化し、順次教育内容を編成している。専門科目は、「看護実践基盤学科目」「生涯発達看護学科目」「健康生活看護学科目」「地域養生看護学科目」「看護の統合と実践科目」と基礎的な科目から統合的な科目へとなるように編成している。また、授業形態も講義、演習、実習と修得した知識をもって技能、態度につなげることができるよう編成してる。これらは、保健師助産師看護師学校養成所指定規則、および大学設置基準に基づく単位数、授業科目、内容となっている。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
ディプロマポリシーの見直しに伴い、カリキュラムポリシーにも修正の必要性が発生するため、保健師助産師看護師学校養成所指定規則、および大学設置基準に基づきながら、ディプロマポリシーの見直しに合わせて改善していく。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
ディプロマポリシーの見直しに伴い、カリキュラムポリシーにも修正の必要性が発生するため、保健師助産師看護師学校養成所指定規則、および大学設置基準に基づきながら、ディプロマポリシーの見直しに合わせて改善していく。

提出日	2022年4月22日	学部・研究科	看護学部
-----	------------	--------	------

2021年度 大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準4 教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目④	評価の視点
学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	・1年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定 ・シラバスの内容（到達目標、学習成果指標、授業準備の指示、成績評価方法・基準の明示）及び実施（授業内容とシラバスとの整合性） ・学生の主体的参加を促す授業形態、授業方法、適切な履修指導 ・研究指導計画（研究指導の内容及び方法、年間スケジュール）の明示と研究指導の実施（【修士】【博士】） ・教育の実施にあたっての全学内部質保証推進組織等の関わり

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
CAP制度（年間45単位上限）を設けている。シラバスには必要事項を記載し、授業内容との齟齬がないよう科目授業開始時には学生にもシラバスを提示している。また、ルーブリック評価を活用したり、授業外学習課題を設定したりして、学生の動機づけを図ってる。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
シラバス内の記載必要事項に明記されていない箇所が処々見受けられるため、適切なシラバスとなるように改善してく。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
シラバス作成時、学期途中など、適宜科目責任者にシラバス内容の確認を促す。また、教務委員を主体としてシラバス点検を実施する。

提出日	2022年4月22日	学部・研究科	看護学部
-----	------------	--------	------

2021年度 大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準4 教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目⑤	評価の視点
成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	・成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置 ・卒業・修了要件の明示 ・学位論文審査がある場合、学位論文審査基準の明示・公表 ・学位審査及び修了認定の客観性及び厳格性を確保する措置 ・学位授与に係る責任体制及び手続の明示、適切な学位授与 ・全学内部質保証推進組織等の関わり

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
各科目の成績評価は客観性、厳格性を担保できるよう、例としてルーブリック評価を取り入れたり、複数教員による評価を実施したりしてる。また、最終的な単位認定は、全教員による会議を開催し合意を得たうえで行っている。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠も含めて記載してください。）
特になし

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
特になし

提出日	2022年4月22日	学部・研究科	看護学部
-----	------------	--------	------

2021年度 大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準4 教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目⑥	評価の視点
学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	・分野の特性に応じた学習成果を測定する指標の適切な設定（専門的職業との関連が強いものは、当該職業を担うのに必要な能力の修得状況を適切に把握できるもの。） ・学位授与方針に明示した学生の学習成果を把握、評価するための方法の開発（アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学生調査、卒業生・就職先への意見聴取等） ・学習成果の把握、評価への全学内部質保証推進組織の関わり

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
各科目の成績評価は客観性、厳格性を担保できるよう、例としてルーブリック評価を取り入れたり、複数教員による評価を実施したりしてる。また、最終的な単位認定は、全教員による会議を開催し合意を得たうえで行っている。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
特になし

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
特になし

提出日	2022年4月22日	学部・研究科	看護学部
-----	------------	--------	------

2021年度 大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準4 教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目⑦	評価の視点
教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	- 適切な根拠（資料、情報）に基づく定期的な点検・評価 - 学習成果の測定結果の適切な活用 - 点検・評価結果に基づく改善・向上

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
2022年度からの新カリキュラム導入に合わせ、修得科目、修得単位の見直し、変更をした。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
完成年度を迎えたため、これまでの実績情報に基づいて点検、評価を実施し改善を図る。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
カリキュラム委員会を設置し、カリキュラムの点検・評価、改善を図る。

提出日	2022年4月27日	学部・研究科	健康医療科学部
-----	------------	--------	---------

2021年度 大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準4 教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目①	評価の視点
授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。	課程修了にあたって、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果を明示した学位授与方針の適切な設定及び公表

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
健康医療科学部の学位授与方針、学科別の学位授与方針を定め、学士（作業療法学）、学士（理学療法学）の学位を授与する設置認可申請書を文部科学省に申請し、認可を得て、3年が経過した状況である。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠も含めて記載してください。）
特になし

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
特になし

提出日	2022年4月27日	学部・研究科	健康医療科学部
-----	------------	--------	---------

2021年度 大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準4 教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目②	評価の視点
授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	○下記内容を備えた教育課程の編成・実施方針の設定及び公表 ・教育課程の体系、教育内容 ・教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等 ○教育課程の編成・実施方針と学位授与方針との適切な関連性

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
健康医療科学部の教育課程の編成方針、学科別の教育課程の編成方針を定め、設置認可申請書を文部科学省に申請し、認可を得て、3年が経過した状況である

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
特になし

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
特になし

提出日	2022年4月27日	学部・研究科	健康医療科学部
-----	------------	--------	---------

2021年度 大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準4 教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目③	評価の視点
教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	・教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性、順次性、体系的性 ・単位制度の趣旨に沿った単位の設定 ・個々の授業科目の内容及び方法、位置づけ（必修、選択等） ・初年次教育、高大接続への配慮、教養教育と専門教育の適切な配置 ・コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮等（【修士】【博士】） ・教育課程の編成における全学内部質保証推進組織等の関わり

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）

健康医療科学部の教育課程の編成方針、学科別の教育課程の編成方針に基づいて、全学共通教育科目、専門教育科目（専門基礎科目、専門科目）の科目区分を設け、単位制度の趣旨に沿った単位の設定及び教育課程の整合性に配慮している。また、カリキュラムマップを作成し、それら授業科目の配置について、順次性、体系的を確認した上で、設置認可申請書を文部科学省に申請し、認可を得て、3年が経過した状況である。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）

特になし

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）

特になし

提出日	2022年4月27日	学部・研究科	健康医療科学部
-----	------------	--------	---------

2021年度 大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準4 教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目④	評価の視点
学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	・1年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定 ・シラバスの内容（到達目標、学習成果指標、授業準備の指示、成績評価方法・基準の明示）及び実施（授業内容とシラバスとの整合性） ・学生の主体的参加を促す授業形態、授業方法、適切な履修指導 ・研究指導計画（研究指導の内容及び方法、年間スケジュール）の明示と研究指導の実施（【修士】【博士】） ・教育の実施にあたっての全学内部質保証推進組織等の関わり

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）

健康医療科学部の授業科目は、到達目標や成績の評価方法なども記載したシラバスを公開している。学生の主体的参加を促すために、講義、演習、実習を配置している。また、講義と演習では、学習支援システム（Cラーニング）を活用して、多くの学生からの意見をリアルタイムに収集して、解説などを実施している。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠も含めて記載してください。）

授業、演習教室において、全学生が同時にWi-Fi接続できる状態でないことがあり、通信関係の課題がある。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）

通信関係は、事務局と相談しているところであり、改善が期待できる。

提出日	2022年4月27日	学部・研究科	健康医療科学部
-----	------------	--------	---------

2021年度 大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準4 教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目⑤	評価の視点
成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	・成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置 ・卒業・修了要件の明示 ・学位論文審査がある場合、学位論文審査基準の明示・公表 ・学位審査及び修了認定の客観性及び厳格性を確保する措置 ・学位授与に係る責任体制及び手続の明示、適切な学位授与 ・全学内部質保証推進組織等の関わり

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
成績評価は、シラバスに示した内容で的確に実施している。また、単位の認定については、健康医療科学部教授会で審議するなど、学則やアセスメント・ポリシーに準じた適切な方法で実施している。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
特になし

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
特になし

提出日	2022年4月27日	学部・研究科	健康医療科学部
-----	------------	--------	---------

2021年度 大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準4 教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目⑥	評価の視点
学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	・分野の特性に応じた学習成果を測定する指標の適切な設定（専門的職業との関連が強いものは、当該職業を担うのに必要な能力の修得状況を適切に把握できるもの。） ・学位授与方針に明示した学生の学習成果を把握、評価するための方法の開発（アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学生調査、卒業生・就職先への意見聴取等） ・学習成果の把握、評価への全学内部質保証推進組織の関わり

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
学生の学習成果を適切に把握するため、科目区分ごとの成績把握、GPAなどの把握に努め、健康医療科学部長からDean's Special Award、Dean's Award、Dean's Listを表彰している。また、講義、演習科目などを総合的に学ぶ実習科目前に客観的臨床能力試験（OSCE）を実施して、学習成果を確認するなどの取り組みを実施している。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
特になし

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
特になし

提出日	2022年4月27日	学部・研究科	健康医療科学部
-----	------------	--------	---------

2021年度 大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準4 教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目⑦	評価の視点
教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	- 適切な根拠（資料、情報）に基づく定期的な点検・評価 - 学習成果の測定結果の適切な活用 - 点検・評価結果に基づく改善・向上

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
設置認可申請書を文部科学省に申請し、認可を得て、3年が経過した状況であり、計画通りに実施している。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
特になし

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
特になし

提出日	2022年4月30日	学部・研究科	心理学部
-----	------------	--------	------

2021年度 大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準4 教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目①	評価の視点
授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。	課程修了にあたって、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果を明示した学位授与方針の適切な設定及び公表

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
学則に定められた全学的な教育目標である「科学的根拠に基づいた術を備えた慈愛のある医療人の創生」を受け、心理学部の「ディプロマポリシー（学位授与の方針）」を定め、大学HPで公表している。この方針は、学生が修得することが求められる知識、技能、態度の観点から、学位にふさわしい学習成果を明示している。また、この方針は、入学時に配布する「履修の手引」にも掲載し（p1）、学生に対して周知を図っている。また、1年前期に開講する必修科目「心理学への招待」の初回授業においても学生に対して説明している。 以上のことから、心理学部においては、全学的な基本方針に合致した学位授与方針を定め、公表していると判断できる。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
現時点での課題・改善点はとくになし。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
改善計画は特になし。

提出日	2022年4月30日	学部・研究科	心理学部
-----	------------	--------	------

2021年度 大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準4 教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目②	評価の視点
授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	○下記内容を備えた教育課程の編成・実施方針の設定及び公表 ・教育課程の体系、教育内容 ・教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等 ○教育課程の編成・実施方針と学位授与方針との適切な関連性

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
(1)「専門教育科目」において基礎学力に支えられた専門性を身につけるための教育システムとして、7つの心理学の分野に基礎から応用までの科目群を設置すること、(2)「専門教育科目」の中にキャリア教育分野の科目群に加えて、2年次及び3年次の演習、4年次の卒業研究をそれぞれ設置すること、(3)2年次及び3年次の演習をはじめ、アクティブラーニングによる課題解決型の授業を多く展開すること、そして、(4)上記科目群を順次、適切に履修することにより、①主体的に学び続ける態度を醸成し、②心の健康に関する心理学の基礎的な知識・技能、および③人間関係を理解し対応するための心理学の基礎的な知識・技能を修得し、④実証科学的な観点に立ち、適切に情報を処理し、現代社会の諸問題を解決するための基礎的な思考力・判断力・表現力を修得することを可能にするよう教育課程を編成し、公表している。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
現時点での改善点や課題はなし。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
改善計画の予定は特になし。

提出日	2022年4月30日	学部・研究科	心理学部
-----	------------	--------	------

2021年度 大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準4 教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目③	評価の視点
教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開講し、教育課程を体系的に編成しているか。	・教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性、順次性、体系的性 ・単位制度の趣旨に沿った単位の設定 ・個々の授業科目の内容及び方法、位置づけ（必修、選択等） ・初年次教育、高大接続への配慮、教養教育と専門教育の適切な配置 ・コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮等（【修士】【博士】） ・教育課程の編成における全学内部質保証推進組織等の関わり

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）

カリキュラムポリシーに基づき、必修科目として「初年次教育科目」「リテラシー教育科目」「外国語教育科目」「健康・スポーツ教育科目」を配置している。また、「一般教育科目」では3つの分野にわたって幅広く履修できるよう各科目群を体系的に編成している。各授業科目の具体的内容については、大学HPでシラバスを公表している。「専門教育科目」においては、心理学の7つの分野について、基礎的な内容を扱う科目を必修としたうえで、さらに深く学ぶことを可能にする選択科目を配置している。

これらの教育課程の体系を示すものとして、カリキュラムツリーを公表している。また、「一般心理モデル」と「臨床心理モデル」の2つのパターンの「履修モデル」を設定し、公表している。その他、すべての科目について番号を付し、学習の段階や順序性を示している。また、4年間を通じて、少人数制クラスでの授業を実施し、高校から大学、教養教育から専門教育への移行がスムーズに行えるよう配慮している。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）

課題・改善点は特になし。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）

改善計画の予定は特になし。

提出日	2022年4月30日	学部・研究科	心理学部
-----	------------	--------	------

2021年度 大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準4 教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目④	評価の視点
学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	・1年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定 ・シラバスの内容（到達目標、学習成果指標、授業準備の指示、成績評価方法・基準の明示）及び実施（授業内容とシラバスとの整合性） ・学生の主体的参加を促す授業形態、授業方法、適切な履修指導 ・研究指導計画（研究指導の内容及び方法、年間スケジュール）の明示と研究指導の実施（【修士】【博士】） ・教育の実施にあたっての全学内部質保証推進組織等の関わり

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
単位の実質化を図るための措置として、年間履修登録単位数の上限（45単位）を設定している。また、3年次及び4年次への進級判定基準を設定し、公表している。適切な履修指導を行うため、各学期の授業開始前のガイダンスに加え、チューター制度を採用し、個別指導を行っている。また、3年次の「特殊演習」の選択に際しては、4年次の「卒業研究」において学生自身の興味に従って主体的に研究を進めることが可能になるよう、希望するゼミの教員との面談を経て選択できるようなシステム作りを目指したが、十分に機能したとは言えず、より良い方法を検討中である。シラバスについては、大学HPで公表している。各シラバスは、「授業概要」「到達目標」「学習のアドバイス」「ディプロマポリシーとの関連性」「標準的な到達レベルの目安」「理想的な到達レベルの目安」「成績評価の観点」「課題、評価のフィードバック」「授業計画表」「授業の進め方」「授業外学習の指示」「教科書」「参考書」「参考URL」「ルーブリック」の項目から構成され、教員はシラバスに従って授業を実施、評価を行っている。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠も含めて記載してください。）
学生の主体的な学びを可能にするような、ゼミ選択制度を構築することが課題であった。しかしながら、一部、学生の学ぶ意向に沿ったゼミ選択を行えないケースがあった。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
ゼミ選択制度では、後期の期間中を教員の面談期間とした。ゼミ選択活動自体を、問題解決課題とすることにより、社会で役立つ知識の修得を促す予定であったが、十分に機能しなかった。ゼミ配属までのスケジュールをより明確にし、学生が公正な状況下で、公平に選択できるよう、学部内カリキュラム委員会にて検討予定である。

提出日	2022年4月30日	学部・研究科	心理学部
-----	------------	--------	------

2021年度 大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準4 教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目⑤	評価の視点
成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	・成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置 ・卒業・修了要件の明示 ・学位論文審査がある場合、学位論文審査基準の明示・公表 ・学位審査及び修了認定の客観性及び厳格性を確保する措置 ・学位授与に係る責任体制及び手続の明示、適切な学位授与 ・全学内部質保証推進組織等の関わり

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）

各科目の成績評価の方法は、シラバスに「評価方法」として記載し、期末試験やレポートなど、複数の評価方法を用いる場合には、その評価割合（%）を明記している。講義科目については、各学期末に試験期間を設け、定期試験を実施、それに引き続き一定期間後に追試験、再試験を実施している。演習科目や実習科目については、授業時間内に評価を行っている。授業担当教員は学生の成績を100点満点とした点数で教務学生課に報告している。点数とそれに対応する評価（S～F）は「履修の手引」（p 17）に記載し、学生に周知している。S～F にそれぞれ 4～0 の成績（GP）を与え、GPA を算出の上、学生には成績票で通知している。卒業要件については、「履修の手引」（p 22）に記載し、学生に周知している。最終的な卒業の判定に関しては、毎年2月に開催する「卒業判定会議」において、学則に基づき審議を行っている。

以上のことから、成績評価、単位認定は適切に行われていると判断できる。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）

課題・改善点は特になし。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）

改善計画は特になし。

提出日	2022年4月30日	学部・研究科	心理学部
-----	------------	--------	------

2021年度 大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準4 教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目⑥	評価の視点
学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	・分野の特性に応じた学習成果を測定する指標の適切な設定（専門的職業との関連が強いものは、当該職業を担うのに必要な能力の修得状況を適切に把握できるもの。） ・学位授与方針に明示した学生の学習成果を把握、評価するための方法の開発（アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学生調査、卒業生・就職先への意見聴取等） ・学習成果の把握、評価への全学内部質保証推進組織の関わり

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
シラバスに「ディプロマポリシーとの関連」「評価方法」を明示し、学習成果を期末試験などにより客観的に測定している。演習および実習科目においてはルーブリックを用いて、より客観性の高い評価を実施している。各学期の学習成果は、GPA制度により取得単位の実質化を図るとともに、チューター制度を採用し、学生の学習状況の把握を行っている。進級判定の基準については、学則で定めるとともに、「履修の手引」（p23）で学生に周知を図っている。さらに、ディプロマポリシーに定める資質・能力の修得を直接的に評価することのできる授業科目を各学年で選定し、その科目の評価の分布から、学習成果を可視化して把握している。また、初年次教育科目「フレッシュャーズセミナー1・2」において、「専門教育についての意識」などに関するアンケート調査を複数回実施し、受講による意識・態度の変容について把握を試みている。以上のことから、学位授与方針に示した学生の学習成果について、概ね適切に把握および評価していると判断できる。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
課題・改善点は特になし。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
改善計画は特になし。

提出日	2022年4月30日	学部・研究科	心理学部
-----	------------	--------	------

2021年度 大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準4 教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目⑦	評価の視点
教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	- 適切な根拠（資料、情報）に基づく定期的な点検・評価 - 学習成果の測定結果の適切な活用 - 点検・評価結果に基づく改善・向上

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
これまで、教育内容・方法の定期的点検・評価の取り組みとして、授業評価アンケートを学期ごとに実施してきた。今年度はアンケート内容を修正し、学生の評価をより高い妥当性・信頼性で測定できるよう改良を行い、調査を実施した。この調査結果に基づいて、学生の授業の理解度や関心度をはじめとして、授業内容や方法などに関する学生からの意見を集約するとともに、その結果を授業担当者にフィードバックしている。授業担当者は学生からのコメントを受けて、次年度以降の授業内容や方法を見直す貴重なデータとして活用することが期待されている。 さらに学期ごとに、教員による授業参観を実施している。他教員の授業内容や方法などの良い点を参考にすることで、教育内容の改善・向上が期待される。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
上記の通り、定期的な点検・評価、ならびにその結果の活用を行っており、特に課題・改善点はない。 ただし、点検・評価結果に基づいて改善・向上が行われたか否かについては、授業評価アンケートの縦断的分析などが必要である。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
学習成果の測定結果に基づいた定期的な改善・向上の取り組みとして、今年度は、教養学部と合同で学部FD研修会を実施し、授業評価アンケートの結果を各自が振り返り、反省点・改善点を挙げ、学部スタッフ全員での点検・評価とその共有化を図った。

提出日	2022年4月18日	学部・研究科	教養学部
-----	------------	--------	------

2021年度 大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準4 教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目①	評価の視点
授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。	課程修了にあたって、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果を明示した学位授与方針の適切な設定及び公表

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）

教養学部では、4年以上在学し、必要な単位数を取得した者に、「学士（教養）」の学位を授与する。学部の「ディプロマポリシー（学位授与の方針）」は、下記のとおり、知識・技能・態度等、当該学位にふさわしい学習成果を明示する仕方と設定され、大学ホームページにおける教養学部の「教育研究上の目的及び3つのポリシー」を示すサイトと、『履修の手引』『教養学部のカリキュラム』の章において公表されており、学位授与方針は適切かつ有効に設定・公表されている。 1. 専攻分野の基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決しうる。 2. 専攻分野の基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用しうる。 3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとりうる。 4. 広い視野と論理的・批判的思考力により、困難な課題や予測不能な事態にも適切に対処しうる。 5. 社会生活の場で、地域を支える社会人・職業人としてふさわしい関心・意欲・態度を示しうる。
--

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）

特になし

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）

特になし

提出日	2022年4月18日	学部・研究科	教養学部
-----	------------	--------	------

2021年度 大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準4 教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目②	評価の視点
授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	○下記内容を備えた教育課程の編成・実施方針の設定及び公表 ・教育課程の体系、教育内容 ・教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等 ○教育課程の編成・実施方針と学位授与方針との適切な関連性

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
教養学部で授与する「学士（教養）」の学位について、教育課程の編成・実施方針を「カリキュラムポリシー」として定め、大学ホームページの「教育研究上の目的及び3つのポリシー」及び『履修の手引』の「教養学部のカリキュラム」において公表している。 そこでは、8項目にわたって方針が示され、初年次教育から始まり卒業研究に終わる教育課程の体系と教育内容の概略、3つのメジャー（主専攻）を中心として教育課程を構成する授業科目区分、講義・演習（実習・実験）やアクティブラーニングといった授業形態が、ディプロマポリシーとの適切な関連性を見て取りうる仕方で示されており、当該の点検・評価項目に関して有効かつ適切な取り組みが行われているといえる。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
特になし

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
特になし

提出日	2022年4月18日	学部・研究科	教養学部
-----	------------	--------	------

2021年度 大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準4 教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目③	評価の視点
教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	・教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性、順次性、体系的性 ・単位制度の趣旨に沿った単位の設定 ・個々の授業科目の内容及び方法、位置づけ（必修、選択等） ・初年次教育、高大接続への配慮、教養教育と専門教育の適切な配置 ・コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮等（【修士】【博士】） ・教育課程の編成における全学内部質保証推進組織等の関わり

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
以下のように、有効かつ適切な取り組みが行われている。(1)カリキュラムポリシー（CP）に基づき、当該学位課程にふさわしい授業科目（専門教育科目）として、「基本科目」「メジャー科目」「キャリアデザイン科目（CD）」「専門ゼミ・卒業研究」「サブメジャー科目」の5つの科目群を開設し、CPとの整合性をもつ教育課程を、「カリキュラムツリー」や「履修モデル」「ナンバリング」が示すとおり、順次性をも考慮して体系的に編成している。(2)講義科目を2単位、演習科目を1単位、卒業研究を8単位とし、CPにしたがい、シラバスで個々の授業科目の内容・方法を定め、「基本科目」「CD（一部）」「専門ゼミ・卒業研究」を必修としている。(3)初年次教育科目として「フレッシュャーズセミナー1・2」を開設して、リテラシー教育、外国語教育とともに高大接続に配慮し、卒業要件の3分の1弱の単位数を教養教育に充てている。(4)教育課程の編成における全学内部質保証推進組織の関わりは、学長を委員長とする「全学教育委員会」がこれを担っている。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
特になし

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
特になし

提出日	2022年4月18日	学部・研究科	教養学部
-----	------------	--------	------

2021年度 大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準4 教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目④	評価の視点
学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	・1年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定 ・シラバスの内容（到達目標、学習成果指標、授業準備の指示、成績評価方法・基準の明示）及び実施（授業内容とシラバスとの整合性） ・学生の主体的参加を促す授業形態、授業方法、適切な履修指導 ・研究指導計画（研究指導の内容及び方法、年間スケジュール）の明示と研究指導の実施（【修士】【博士】） ・教育の実施にあたっての全学内部質保証推進組織等の関わり

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
年間履修登録単位数の上限（45単位）を設定している。 シラバスの内容には、「到達目標」「評価方法」「標準的な到達レベル（合格ライン）の目安」「理想的な到達レベルの目安」「授業外学習の指示」などの項目、演習・実習・実験科目においては「ルーブリック」が含まれ、教員はシラバスに準拠して授業を実施し、成績評価を行っている。 学生の主体的参加を促す授業形態、授業方法として、演習科目にかぎらず様々なレベルでアクティブラーニングを採り入れ、適切な履修指導のため、各学期初めのガイダンスとチューターによる個別指導を行っている。「専門ゼミ」の選択に際しては、学部で説明会を実施してゼミ紹介冊子を配付し、希望するゼミの教員3名以上との面談を課すことで、主体的な選択を促している。 教育の実施にあたっては、学部のカリキュラム委員会を通じて、全学内部質保証推進組織としての教務委員会が関わっている。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
特になし

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
特になし

提出日	2022年4月18日	学部・研究科	教養学部
-----	------------	--------	------

2021年度 大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準4 教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目⑤	評価の視点
成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	・成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置 ・卒業・修了要件の明示 ・学位論文審査がある場合、学位論文審査基準の明示・公表 ・学位審査及び修了認定の客観性及び厳格性を確保する措置 ・学位授与に係る責任体制及び手続の明示、適切な学位授与 ・全学内部質保証推進組織等の関わり

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置としては、各授業科目のシラバスに、「標準的な到達レベル（合格レベル）の目安」「理想的な到達レベルの目安」および、「成績評価観点」と「評価方法」とからなる表（マトリックス）が示されていることを挙げうる。 卒業要件は、『履修の手引』で「卒業要件単位数」の表とともに明示されている 学位論文（卒業論文）審査の基準については、上記の「目安」「表」に加えて「ループリック」が明示されている「卒業研究」のシラバス（教員別）が、大学ホームページ上に公開されている。 学位審査及び修了認定の客観性及び厳格性を確保する措置としては、学部で義務化されている複数ゼミ合同ないし公開の卒業研究発表会および口頭試問（任意）の実施を挙げうる。 教授会の「卒業判定会議」が、適切な学位授与に係る責任体制及び手続として明示されている。 全学内部質保証推進組織たる教務委員会が、学部のカリキュラム委員会を通じて関わっている。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
特になし

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
特になし

提出日	2022年4月18日	学部・研究科	教養学部
-----	------------	--------	------

2021年度 大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準4 教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目⑥	評価の視点
学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	・分野の特性に応じた学習成果を測定する指標の適切な設定（専門的職業との関連が強いものは、当該職業を担うのに必要な能力の修得状況を適切に把握できるもの。） ・学位授与方針に明示した学生の学習成果を把握、評価するための方法の開発（アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学生調査、卒業生・就職先への意見聴取等） ・学習成果の把握、評価への全学内部質保証推進組織の関わり

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
分野の特性に応じた学習成果を測定する指標は、科目レベルでは、小テスト、期末試験、レポート等と授業改善アンケートとにおいて、教育課程レベルではGPAにおいて、適切に設定されている。 学位授与方針に明示した学生の学習成果を把握、評価するための方法の開発として、演習科目でルーブリックを活用した測定を行っていること、学修行動調査を実施していることが挙げられる。なお、GPAを進級判定、卒業判定に採り入れるか否かについて検討されたが、募集停止となっている教養学部においては妥当な措置ではないとの検討結果を得た。 学習成果の把握、評価への全学内部質保証推進組織の関わりについては、学部における上記のすべての設定・開発・検討が、全学の教務委員会およびFD・SD委員会の主導（学部のカリキュラム委員及びFD委員会への要請・依頼等）によって行われていることを挙げる。 以上それぞれの取り組みは、改善の余地を含みはするが、有効かつ適切なものと認められる。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
特になし

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
特になし

提出日	2022年4月18日	学部・研究科	教養学部
-----	------------	--------	------

2021年度 大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準4 教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目⑦	評価の視点
教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	- 適切な根拠（資料、情報）に基づく定期的な点検・評価 - 学習成果の測定結果の適切な活用 - 点検・評価結果に基づく改善・向上

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
教育課程及びその内容、方法の適切性について、具体的な資料や情報を根拠として、月に1度、カリキュラム委員会で検討を行い、また年に1回以上、学部FD研修会を開催して、点検・評価を行っている。その結果は、学科単位、メジャー単位による組織的な改善・向上に繋がられている。 学習成果については、全学的に学期ごとの授業改善アンケートを実施しているが、学生の到達目標達成度や理解度などについてそこで得られた測定結果は、授業担当者にフィードバックされ、授業の内容や方法の改善・向上のため適切に活用することが期待されている。 点検・評価結果に基づく改善・向上の取り組みとしては、授業アンケートの結果を教員全員に共有させることで切磋琢磨を促していること、かつ、今年度は、8月に「授業アンケート結果活用法を考える」を、2月に「授業アンケート結果を踏まえた自己分析・自己評価と必要に応じた〔他の教員への〕助言」をテーマとする学部FD研修会を行ったことが挙げられる。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
特になし

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
特になし

提出日	2022年4月30日	学部・研究科	国際看護学部
-----	------------	--------	--------

2021年度 大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準4 教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目①	評価の視点
授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。	課程修了にあたって、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果を明示した学位授与方針の適切な設定及び公表

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
国際看護学部のディプロマ・ポリシーを高校訪問やオープンキャンパス、各種学部大学案内の際に必ず伝えている。「柏キャンパスホームページ」、「柏キャンパス大学案内」、「国際看護学部履修の手引」などにも掲載し、受験生や入学生のみならず、広く社会に向けて公表している。入学後においても、全ての科目のシラバスにも反映させ、学修時に学生への意識づけを図っている。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠も含めて記載してください。）
現在のところ課題や改善点は見られない。今後、令和4年度の改正カリキュラムへの移行（看護系大学に課せられた地域看護学教育とICT化への促進）、および医療創生大学自体の3ポリシーの再検討に伴い、ディプロマ・ポリシーの再検証を行っていく予定である。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
「看護師等養成所の運営に関する指導ガイドライン」が一部改正され、令和4年度から改正カリキュラムが適用されることとなるため、それらに伴ったディプロマ・ポリシーの再検証と合わせて、カリキュラム・ポリシーとの整合性を検討している。

提出日	2022年4月30日	学部・研究科	国際看護学部
-----	------------	--------	--------

2021年度 大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準4 教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目②	評価の視点
授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	○下記内容を備えた教育課程の編成・実施方針の設定及び公表 ・教育課程の体系、教育内容 ・教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等 ○教育課程の編成・実施方針と学位授与方針との適切な関連性

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
国際看護学部のディプロマポリシー、ならびにカリキュラム・ポリシーを設定し、ホームページや履修の手引上に公表している。また、カリキュラム・ポリシーに基づき、授業科目を体系化しカリキュラムマップ、カリキュラムツリーとして履修の手引に掲載している。さらに、シラバス上に授業形態やディプロマ・ポリシーに関連したルーブリック評価内容を掲載している。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
現時点において課題・改善点は見られない。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
令和4年度から改正カリキュラムへの移行となるため、カリキュラム・ポリシーの確認およびディプロマ・ポリシーの位置づけについて検討および評価を開始している。

提出日	2022年4月30日	学部・研究科	国際看護学部
-----	------------	--------	--------

2021年度 大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準4 教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目③	評価の視点
教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	・教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性、順次性、体系的性 ・単位制度の趣旨に沿った単位の設定 ・個々の授業科目の内容及び方法、位置づけ（必修、選択等） ・初年次教育、高大接続への配慮、教養教育と専門教育の適切な配置 ・コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮等（【修士】【博士】） ・教育課程の編成における全学内部質保証推進組織等の関わり

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
カリキュラムマップ上に、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーが同時に確認できるように視覚化し、年次ごとの各授業科目の位置づけを常に確認できるようにしている。各授業科目は、初年次教育のフレッシュャーズセミナーをはじめ、全学共通教育科目を低学年に配置し、順次看護専門科目群を履修するよう体系化している。個々の授業科目の内容及び方法や位置づけは、シラバス内に明記している。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
現時点において課題・改善点は見られない。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
令和4年度から改正カリキュラムへの移行となるため、カリキュラム・ポリシーの整理およびディプロマ・ポリシーとの位置づけについて、学部にて検討およびを開始する。

提出日	2022年4月30日	学部・研究科	国際看護学部
-----	------------	--------	--------

2021年度 大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準4 教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目④	評価の視点
学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	・1年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定 ・シラバスの内容（到達目標、学習成果指標、授業準備の指示、成績評価方法・基準の明示）及び実施（授業内容とシラバスとの整合性） ・学生の主体的参加を促す授業形態、授業方法、適切な履修指導 ・研究指導計画（研究指導の内容及び方法、年間スケジュール）の明示と研究指導の実施（【修士】【博士】） ・教育の実施にあたっての全学内部質保証推進組織等の関わり

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
学生が主体的に学習課題に取り組めるようCAP制度を設けている（上限年間45単位）。シラバスには、授業概要の他、到達目標、授業内容・形式、時間外学習の目安時間、ルーブリック評価等を明記しており、学生が学習すべき内容や到達指標について、具体化を図っている。授業形態として、座学のみならず演習を取り入れ、グループワーク等により主体的に学修できるよう工夫している。また、コロナ禍であるため、状況に応じて遠隔授業を取り入れているが、大きな問題なく実施することができている。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
現時点において課題・改善点は見られない。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
現時点において改善計画はなし。

提出日	2022年4月30日	学部・研究科	国際看護学部
-----	------------	--------	--------

2021年度 大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準4 教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目⑤	評価の視点
成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	・成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置 ・卒業・修了要件の明示 ・学位論文審査がある場合、学位論文審査基準の明示・公表 ・学位審査及び修了認定の客観性及び厳格性を確保する措置 ・学位授与に係る責任体制及び手続の明示、適切な学位授与 ・全学内部質保証推進組織等の関わり

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
成績評価は、ルーブリック評価を取り入れており、客観性、厳密性の担保に努めている。また、履修の手引には、卒業・進級要件を明記しており、年度末に教授会において卒業判定会議、進級判定会議を実施している。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
現時点において課題・改善点は見られない。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
現時点において改善計画はなし。

提出日	2022年4月30日	学部・研究科	国際看護学部
-----	------------	--------	--------

2021年度 大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準4 教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目⑥	評価の視点
学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	・分野の特性に応じた学習成果を測定する指標の適切な設定（専門的職業との関連が強いものは、当該職業を担うのに必要な能力の修得状況を適切に把握できるもの。） ・学位授与方針に明示した学生の学習成果を把握、評価するための方法の開発（アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学生調査、卒業生・就職先への意見聴取等） ・学習成果の把握、評価への全学内部質保証推進組織の関わり

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
学習成果の指標として、ルーブリック評価を取り入れて評価基準を明確化、客観化している。ルーブリック評価の内容は、ディプロマ・ポリシーに基づいて設定されており、連携させている。各授業科目の初回には、授業概要の他、評価内容・方法についてもオリエンテーションし、学生への周知を図っている。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
現時点において課題・改善点は見られない。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
現時点において改善計画はなし。

提出日	2022年4月30日	学部・研究科	国際看護学部
-----	------------	--------	--------

2021年度 大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準4 教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目⑦	評価の視点
教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	- 適切な根拠（資料、情報）に基づく定期的な点検・評価 - 学習成果の測定結果の適切な活用 - 点検・評価結果に基づく改善・向上

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
学部の開設年度ではあるが、継続的かつ定期的な教育課程の点検・評価が必要である。今年度実施された学生からの授業アンケートや学修行動調査の分析結果をもとに、学部での課題検討を行う予定である。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
授業アンケートおよび学修行動調査の分析結果を学部内教員および事務職員で共有し、今後の取り組みについて検討する。学部FD・SD委員会と連携し、研修会の開催を検討する。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
上記のとおり、授業アンケートおよび学修行動調査の分析結果を学部内教員および事務職員も共有し、今後の取り組みについて検討する。学部FD・SD委員会と連携し、研修会の開催を検討する。

提出日	2022年4月30日	学部・研究科	生命理工学研究科
-----	------------	--------	----------

2021年度 大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準4 教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目①	評価の視点
授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。	課程修了にあたって、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果を明示した学位授与方針の適切な設定及び公表

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
修士・博士課程ともに、研究発表会（公聴会）を実施し、学生の学修成果を確認している。具体的には、各課程の修了要件として求められる知識、技能、態度等を複数の審査員を持って評価し、評価結果を研究科委員会に諮り、承認を受けない限り学位を授与しない。 また、後期博士課程（3年）では、2年次の終了時点で中間発表会（口頭）を実施し、学修成果の習得状況を評価している。評価委員は、研究領域に近い教員を首席評価者として非専門の教員を少なくとも1名を含む4名の教員で構成されている。これによって、領域外の研究者にもわかりやすく伝えているか、プレゼンテーションの技能についても客観的に評価できる。評価結果は、各学生にフィードバックしている。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠も含めて記載してください。）
中間発表会の実施によって、学生は研究の進捗状況をより客観的に把握することができるようになった。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
特になし。

提出日	2022年4月30日	学部・研究科	生命理工学研究科
-----	------------	--------	----------

2021年度 大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準4 教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目②	評価の視点
授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	○下記内容を備えた教育課程の編成・実施方針の設定及び公表 ・教育課程の体系、教育内容 ・教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等 ○教育課程の編成・実施方針と学位授与方針との適切な関連性

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
アドミッションポリシー、カリキュラムポリシーを定め、大学ホームページで公表するとともに、ガイダンス等で学生に説明している。また、学位授与方針についてはディプロマポリシーを大学ホームページで公開し、適切かつ公平な審査のもとに学位審査会を実施している。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠も含めて記載してください。）
適切に実施されている。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
特になし。

提出日	2022年4月30日	学部・研究科	生命理工学研究科
-----	------------	--------	----------

2021年度 大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準4 教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目③	評価の視点
教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	・教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性、順次性、体系的性 ・単位制度の趣旨に沿った単位の設定 ・個々の授業科目の内容及び方法、位置づけ（必修、選択等） ・初年次教育、高大接続への配慮、教養教育と専門教育の適切な配置 ・コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮等（【修士】【博士】） ・教育課程の編成における全学内部質保証推進組織等の関わり

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、およびディプロマポリシーに沿って科目を設定し、科目の適切な配置を行なっている。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
適切に実施されている。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
特になし。

提出日	2022年4月30日	学部・研究科	生命理工学研究科
-----	------------	--------	----------

2021年度 大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準4 教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目④	評価の視点
学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	・1年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定 ・シラバスの内容（到達目標、学習成果指標、授業準備の指示、成績評価方法・基準の明示）及び実施（授業内容とシラバスとの整合性） ・学生の主体的参加を促す授業形態、授業方法、適切な履修指導 ・研究指導計画（研究指導の内容及び方法、年間スケジュール）の明示と研究指導の実施（【修士】【博士】） ・教育の実施にあたっての全学内部質保証推進組織等の関わり

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）

在籍者の大部分が社会人大学院生であるが、新型コロナウイルス感染症等の影響により対面学習が困難な状況が続いている。そのため、効果的に教育を行うために必要に応じて遠隔授業を実施している。また、大学院生は年次ごとに研究計画書を提出し、その内容に沿った研究指導を実施している。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）

適切に実施されている。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）

特になし。

提出日	2022年4月30日	学部・研究科	生命理工学研究科
-----	------------	--------	----------

2021年度 大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準4 教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目⑤	評価の視点
成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	・成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置 ・卒業・修了要件の明示 ・学位論文審査がある場合、学位論文審査基準の明示・公表 ・学位審査及び修了認定の客観性及び厳格性を確保する措置 ・学位授与に係る責任体制及び手続の明示、適切な学位授与 ・全学内部質保証推進組織等の関わり

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
卒業・修了要件、学位論文審査基準をホームページや履修の手引き、ガイダンス等で明示・公表している。学位授与にかかる責任体制では研究科内で審査委員会を設置し、厳格に審査を行なっている。博士課程では外部審査委員を導入し、審査の客観性を担保している。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠も含めて記載してください。）
適切に実施されている。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
特になし。

提出日	2022年4月30日	学部・研究科	生命理工学研究科
-----	------------	--------	----------

2021年度 大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準4 教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目⑥	評価の視点
学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	・分野の特性に応じた学習成果を測定する指標の適切な設定（専門的職業との関連が強いものは、当該職業を担うのに必要な能力の修得状況を適切に把握できるもの。） ・学位授与方針に明示した学生の学習成果を把握、評価するための方法の開発（アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学生調査、卒業生・就職先への意見聴取等） ・学習成果の把握、評価への全学内部質保証推進組織の関わり

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
学位授与方針に明示した学生の学習成果については、指導教員を適切に配置し、評価している。特に物理工学コースにおいては作業・理学療法との関連が高いので専門性の高い指導教員による指導を徹底している。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
特になし。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
特になし。

提出日	2022年4月30日	学部・研究科	生命理工学研究科
-----	------------	--------	----------

2021年度 大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準4 教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目⑦	評価の視点
教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	- 適切な根拠（資料、情報）に基づく定期的な点検・評価 - 学習成果の測定結果の適切な活用 - 点検・評価結果に基づく改善・向上

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
専攻主任会議および研究科委員会を毎月開催し、課題の抽出とその改善策を協議している。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
適切に実施されている。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
特になし。

提出日	2021年4月28日	学部・研究科	人文学研究科
-----	------------	--------	--------

2021年度 大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準4 教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目①	評価の視点
授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。	課程修了にあたって、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果を明示した学位授与方針の適切な設定及び公表

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
人文学研究科並びに臨床心理学専攻の「ディプロマポリシー（学位授与の方針）」を定め、大学ホームページの「教育方針」を示すサイトにおいて公表している。また、大学院生に配布している「履修の手引き」の中でも、人文学研究科、ならびに臨床心理学専攻の「ディプロマポリシー（学位授与の方針）」を明示しており、この点については適切に実施されていると考える。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
特になし

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
特になし

提出日	2021年4月28日	学部・研究科	人文学研究科
-----	------------	--------	--------

2021年度 大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準4 教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目②	評価の視点
授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	○下記内容を備えた教育課程の編成・実施方針の設定及び公表 ・教育課程の体系、教育内容 ・教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等 ○教育課程の編成・実施方針と学位授与方針との適切な関連性

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
人文学研究科臨床心理学においては、カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）を定め、大学ホームページの「教育方針」を示すサイトにおいて公表している。また、大学院生に配布している「履修の手引き」の中でも、人文学研究科、ならびに臨床心理学専攻の「カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）」を明示し、大学院生に周知している。また、この方針は、学位授与方針（DP）で示した能力を身につけることにつながり、DPとの整合性はとれている。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
特になし

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
特になし

提出日	2021年4月28日	学部・研究科	人文学研究科
-----	------------	--------	--------

2021年度 大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準4 教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目③	評価の視点
教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開講し、教育課程を体系的に編成しているか。	・教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性、順次性、体系的性 ・単位制度の趣旨に沿った単位の設定 ・個々の授業科目の内容及び方法、位置づけ（必修、選択等） ・初年次教育、高大接続への配慮、教養教育と専門教育の適切な配置 ・コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮等（【修士】【博士】） ・教育課程の編成における全学内部質保証推進組織等の関わり

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）

臨床心理における専門職業人の育成を目指す臨床心理学専攻では、1年次に心理臨床実践に関連する心理学分野の講義科目を配置し、実践に役立つ知識を身につけられるようにしている。講義科目では、大学院生相互、また教員とのディスカッション形式を用い、アクティブな学習活動を行う工夫がされている。講義科目と並行して演習・実習科目では、それらの知識を実践に応用する能力を育むため、体験を通じた学修を進めている。1年次後半からは、学内実習機関である心理相談センターで実際の相談者を担当し、教員からスーパーヴィジョンを受けながら実習を行い、より実践的な学びが深められるようになっている。2年次では、心理相談センターでの実習と修士論文作成のための研究活動が中心となり、それらは、「臨床心理実習」「心理実践実習」「臨床心理学特殊研究」の科目を通して行われる。研究能力と実践能力の両方を身につけられるような科目構成になっている。以上から、CPに基づき、体系的に教育課程が編成されていると判断する。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）

特になし

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）

特になし

提出日	2021年4月28日	学部・研究科	人文学研究科
-----	------------	--------	--------

2021年度 大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準4 教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目④	評価の視点
学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	・1年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定 ・シラバスの内容（到達目標、学習成果指標、授業準備の指示、成績評価方法・基準の明示）及び実施（授業内容とシラバスとの整合性） ・学生の主体的参加を促す授業形態、授業方法、適切な履修指導 ・研究指導計画（研究指導の内容及び方法、年間スケジュール）の明示と研究指導の実施（【修士】【博士】） ・教育の実施にあたっての全学内部質保証推進組織等の関わり

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
シラバスに、到達目標を明示し、学習へのアドバイスでは、目標に到達するための学び方についての助言を提供している。それぞれの科目がディプロマポリシーとどのように関連しているかについて示し、各科目の位置づけを明確にしている。また、成績評価の方法と基準についても明示し、それらはホームページで公開し、大学院生に周知している。臨床心理学専攻の履修生は少人数であるため、講義科目においては、学生の発言機会は十分に得られ、より深く、多面的に思考する働きかけが行われている。また、演習・実習科目においては、個々の学生の学修の進行を把握しやすく、きめ細かい指導がしやすいことは強みである。また、メンター制を取り、大学院生一人一人に教員がメンターとしてつき、面談を通して学修の進捗状況を把握し、アドバイスをを行い、充実した学修活動をサポートしている。入学から終了までの指導計画を作成し、履修の手引きに掲載して大学院生に周知している。学習効果の向上を目指して、オンライン学習支援システムを活用して授業資料や課題を提示し提出を求めるなど、リアルタイムで課題についてコメントを返すことで、学習の定着を確実にする指導を継続している。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
特になし

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
特になし

提出日	2021年4月28日	学部・研究科	人文学研究科
-----	------------	--------	--------

2021年度 大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準4 教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目⑤	評価の視点
成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	・成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置 ・卒業・修了要件の明示 ・学位論文審査がある場合、学位論文審査基準の明示・公表 ・学位審査及び修了認定の客観性及び厳格性を確保する措置 ・学位授与に係る責任体制及び手続の明示、適切な学位授与 ・全学内部質保証推進組織等の関わり

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）

大学院人文学研究科臨床心理学専攻の修了要件、学位審査基準については、入学時に渡す「履修の手引き」に明確に記載し、基準として大学院生に提示している。

成績評価については、あらかじめシラバスに「到達目標」「ディプロマポリシーとの関連」「到達レベルの目安（標準的と理想的の2種）」「評価観点」や「ルーブリック」なども提示しており、客観的な観点で評価・単位認定ができるように方法を整えている。

また、学位取得のための研究指導についても「履修の手引き」に示されている。具体的には、1年次に研究課題を提出し、指導教員を決定して取り組みを始め、2年次になると主たる指導教員の他に副指導教員2名が加わり3名体制で研究指導を行う。「構想発表会」「中間発表会」では指導担当以外の教員からも指導を受けながら進行する。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）

新しくできた公認心理師資格のために、在学中の実習時間が増えたこと、試験の時期が早まってきているため、在学中に資格試験のための受験準備をしなければならないことなどから、修士論文の研究に十分に時間をかける余裕がなくなっていることが懸念される。学位審査基準に従って質保証を担保するためには、従来の研究指導計画を見直し、よりスムーズで充実した指導体制の構築が課題である。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）

1年次の研究課題を早期に確定させて研究を始めるためには、入試時に提出を求めている研究計画書の位置づけを見直す必要がある。そのため、入試で提出を求める出願書類から見直しを行い、修了まで一貫性のある指導システムを検討していく計画である。

提出日	2021年4月28日	学部・研究科	人文学研究科
-----	------------	--------	--------

2021年度 大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準4 教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目⑥	評価の視点
学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	・分野の特性に応じた学習成果を測定する指標の適切な設定（専門的職業との関連が強いものは、当該職業を担うのに必要な能力の修得状況を適切に把握できるもの。） ・学位授与方針に明示した学生の学習成果を把握、評価するための方法の開発（アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学生調査、卒業生・就職先への意見聴取等） ・学習成果の把握、評価への全学内部質保証推進組織の関わり

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
各授業科目については、シラバスの中でディプロマポリシーとの関連を明示しており、それに沿って評価がなされている。実習科目では、心理の専門家として実践活動を行う能力を身につけることを念頭に置き、到達目標のなかで、心理実務家として必要な能力を明示し、授業のレポートや個別スーパービジョンの際のレポートを基にその習得状況を把握し、評価している。これまで、知識やスキルについては、レポートや実習で成果を確認しているが、臨床の場で働く心理職として必要な態度については測定する指標が明確に示されてはいなかったが、新たに「実習を行なう学生が身につけていることを期待される事項」として、対人支援を行うために求められる態度・行動を具体的にまとめたチェックリストを作成し、学生に提示し、内部実習施設でケース担当を開始する段階、ケース担当を始めて半年経過した段階において、そこに示されていることができているか、個別の面談を通して、確認する時間を設けている。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠も含めて記載してください。）
「実習を行なう学生が身につけていることを期待される事項」の項目については、その内容を継続して検討し、実習の準備性を振り返る指標として整備する必要がある。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
「実習を行なう学生が身につけていることを期待される事項」については、その項目の適切性や内容について、定期的に検討し、整備を続けていく。学生の学習成果の把握のためには、実習先や就職先と連絡をとり、状況を把握し、心理の実務家として身につけるべき能力を在学中に確実に身につけられることを目指す。

提出日	2021年4月28日	学部・研究科	人文学研究科
-----	------------	--------	--------

2021年度 大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準4 教育課程・学習成果

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

点検・評価項目⑦	評価の視点
教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	- 適切な根拠（資料、情報）に基づく定期的な点検・評価 - 学習成果の測定結果の適切な活用 - 点検・評価結果に基づく改善・向上

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
新しくできた国家資格の公認心理師受験資格取得に対応するため、2020年度にカリキュラム改訂を行った。その際、心理実践の基礎となる科目を新設した。また、修了後に実施される臨床心理士と公認心理師の受験結果を把握すべく、修了時に修了生に対して受験結果の報告を依頼している。また、修了時に本専攻における学修についてのアンケートを実施し、本専攻における学修の満足度やさらに希望する点について把握している。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
大学院の授業については授業改善アンケートが実施されておらず、その点で、適切な根拠に基づく教育課程の定期的な点検・評価は実施されているとはいえない。修了生から臨床心理士、公認心理師の受験結果の報告を求めているが、それに基づいてカリキュラムの内容や教育方法の見直しを行っておらず、その点で、学習成果の測定結果を適切に活用しているとはいえない。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
教育課程の内容、方法について定期的に点検し、その結果をもとに改善に向けた取り組みについて検討する。

提出日	2022年4月30日	学部・研究科	薬学部
-----	------------	--------	-----

2021年度 大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準5 学生の受け入れ

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学生の受け入れ方針を定め、公表するとともに、その方針に沿って学生の受け入れを公正に行わなければならない。

点検・評価項目①	評価の視点
学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。	○学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針の適切な設定及び公表 ○下記内容を踏まえた学生の受け入れ方針の設定 ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像 ・入学希望者に求める水準等の判定方法

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
・学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）は、本学の教育理念・目的と教育方針に基づいて設定されており、薬剤師を目指す学生の受け入れについて4項目から成る。 ・学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）は、学生募集要項ならびにホームページに掲載されており、広く社会に公表している。 ・求める学生像として、思いやりと協調性を持って他人と接することができる人、自分の考えや疑問をはっきりと他人に伝えることができる人であり、また入学希望者に求める水準として、薬学を学ぶ上で必要な基礎学力を身につけている人に設定している。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
入学希望者に求める学力水準があいまいな点があるので、文言を改善する必要がある。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
薬学部自己点検評価委員会で、入学希望者に求める学力水準の文言の改善について検討を行う予定である。

提出日	2022年4月30日	学部・研究科	薬学部
-----	------------	--------	-----

2021年度 大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準5 学生の受け入れ

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学生の受け入れ方針を定め、公表するとともに、その方針に沿って学生の受け入れを公正に行わなければならない。

点検・評価項目②	評価の視点
学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	○学生の受け入れ方針に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度の適切な設定 ○授業その他の費用や経済的支援に関する情報提供 ○入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制の適切な整備 ○公正な入学者選抜の実施 ○入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜の実施

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）

・学生の受け入れ方針に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度として、全ての入試において「学力」試験を課し、多面的・総合的な選抜を行っている。
・授業その他の費用や経済的支援に関する情報提供は、学生募集要項ならびにホームページに掲載されており、広く社会に公表している。
・入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制として、全学入試委員会が設置されており、薬学部入試広報委員会において適宜連携を取る体制となっている。
・公正な入学者選抜の実施として、入学志願者の評価と受入は、本学の「入学者選考規程」に基づき、学長を議長とする入試判定会議により決定され、決定事項は教授会に報告されて承認を得ることとなっている。
・入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜の実施として、複数の入試日、試験場の設定、入試種別（推薦、共通試験利用など）を設定している。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）

全ての入試において学力試験を課しているが、思いやり・協調性等の性質に関する評価ができていない。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）

オープンキャンパスやホームページなどで受験生に広くアドミッション・ポリシーを伝える。

提出日	2022年4月30日	学部・研究科	薬学部
-----	------------	--------	-----

2021年度 大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準5 学生の受け入れ

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学生の受け入れ方針を定め、公表するとともに、その方針に沿って学生の受け入れを公正に行わなければならない。

点検・評価項目③	評価の視点
適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	○入学定員及び収容定員の適切な設定と在籍学生数の管理 ・入学定員に対する入学者数比率 ・編入学定員に対する編入学生数比率【学士】 ・収容定員に対する在籍学生数比率 ・収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
・入学定員に対する入学者数比率は、67.8%（61/90）であった。 ・編入学定員に対する編入学生数比率【学士】については、学則において編入学定員を定めていない。 ・収容定員に対する在籍学生数比率は、70.4%（380/540、令和3年5月1日現在）であった。 ・収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応については、令和4年度の入学定員を60名に削減することとした。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
入学定員に対する入学者数比率が低い。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
令和4年度の入学定員を60名に削減することとした。また、高大連携事業（一日総合大学）、高校出前講座などでより積極的に広報する。

提出日	2022年4月30日	学部・研究科	薬学部
-----	------------	--------	-----

2021年度 大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準5 学生の受け入れ

【大学基準】 大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学生の受け入れ方針を定め、公表するとともに、その方針に沿って学生の受け入れを公正に行わなければならない。
--

点検・評価項目④	評価の視点
学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	○適切な根拠（資料、情報）に基づく定期的な点検・評価 ○点検・評価結果に基づく改善・向上

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。） ・適切な根拠（資料、情報）に基づく定期的な点検・評価として、全学入試委員会において、高校教員へのヒアリング、志願希望者の経過や資料請求者の分析を基本として、入試志願状況を考慮するなど点検・評価を行っている。 ・点検・評価結果に基づく改善・向上として、文部科学省高大接続システム改革会議「最終報告」に基づき、入試判定基準や入試種別、募集定員の配分に関する入試改革などを検討している。
--

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。） 薬学部入試広報委員会での点検・評価が手薄である。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。） 薬学部入試広報委員会においてデータ解析をして点検・評価を行い、全学入試委員会に情報を提供する予定である。
--

提出日	2022年4月22日	学部・研究科	看護学部
-----	------------	--------	------

2021年度 大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準5 学生の受け入れ

【大学基準】 大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学生の受け入れ方針を定め、公表するとともに、その方針に沿って学生の受け入れを公正に行わなければならない。

点検・評価項目①	評価の視点
学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。	○学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針の適切な設定及び公表 ○下記内容を踏まえた学生の受け入れ方針の設定 ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像 ・入学希望者に求める水準等の判定方法

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。） 大学の教育理念・目的と教育方針に基づいて、看護学部のアドミッションポリシーを明確に定め、ホームページ等にて公表している。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。） 学習歴、学力水準に関する求める学生像、および入学希望者に求める水準等の判定方法が不明確であるため、改善が必要である。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。） カリキュラム委員会を設置し、アドミッションポリシーの見直し、改善を図る。
--

提出日	2022年4月22日	学部・研究科	看護学部
-----	------------	--------	------

2021年度 大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準5 学生の受け入れ

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学生の受け入れ方針を定め、公表するとともに、その方針に沿って学生の受け入れを公正に行わなければならない。

点検・評価項目②	評価の視点
学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	○学生の受け入れ方針に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度の適切な設定 ○授業その他の費用や経済的支援に関する情報提供 ○入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制の適切な整備 ○公正な入学者選抜の実施 ○入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜の実施

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
大学、および学部内に入試委員会を設置し、アドミッションポリシーに基づく学生募集、入学者選抜制度を導入している。学生募集や学費等の情報を募集要項やホームページ等で公表してる。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
特になし

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
特になし

提出日	2022年4月22日	学部・研究科	看護学部
-----	------------	--------	------

2021年度 大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準5 学生の受け入れ

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学生の受け入れ方針を定め、公表するとともに、その方針に沿って学生の受け入れを公正に行わなければならない。

点検・評価項目③	評価の視点
適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	○入学定員及び収容定員の適切な設定と在籍学生数の管理 ・入学定員に対する入学者数比率 ・編入学定員に対する編入学生数比率【学士】 ・収容定員に対する在籍学生数比率 ・収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
入学定員、収容定員を80名と設定し、学生募集や在籍学生数を管理し、適正範囲の学生数としている。現在は適正範囲内の学生数であるため適応はしていないが、2年次の学年定員数が未充足の場合、編入学生の募集をすることとしている。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
特になし

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
特になし

提出日	2022年4月22日	学部・研究科	看護学部
-----	------------	--------	------

2021年度 大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準5 学生の受け入れ

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学生の受け入れ方針を定め、公表するとともに、その方針に沿って学生の受け入れを公正に行わなければならない。

点検・評価項目④	評価の視点
学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	○適切な根拠（資料、情報）に基づく定期的な点検・評価 ○点検・評価結果に基づく改善・向上

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
進研アドなど外部業者を活用し、入学前課題の取り組み成果による点検をしてる。また、入試判定会議を設け、定員を満たすよう入学試験結果を基に公正に審議している。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
特になし

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
特になし

提出日	2022年4月27日	学部・研究科	健康医療科学部
-----	------------	--------	---------

2021年度 大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準5 学生の受け入れ

【大学基準】 大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学生の受け入れ方針を定め、公表するとともに、その方針に沿って学生の受け入れを公正に行わなければならない。
--

点検・評価項目①	評価の視点
学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。	○学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針の適切な設定及び公表 ○下記内容を踏まえた学生の受け入れ方針の設定 ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像 ・入学希望者に求める水準等の判定方法

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。） 健康医療科学部のアドミッション・ポリシー、作業療法学科のアドミッション・ポリシー、理学療法学科のアドミッション・ポリシーを定めた設置認可申請書を文部科学省に申請し、認可を得て、適切に実行している。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠も含めて記載してください。） 特になし

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。） 特になし
--

提出日	2022年4月27日	学部・研究科	健康医療科学部
-----	------------	--------	---------

2021年度 大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準5 学生の受け入れ

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学生の受け入れ方針を定め、公表するとともに、その方針に沿って学生の受け入れを公正に行わなければならない。

点検・評価項目②	評価の視点
学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	○学生の受け入れ方針に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度の適切な設定 ○授業その他の費用や経済的支援に関する情報提供 ○入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制の適切な整備 ○公正な入学者選抜の実施 ○入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜の実施

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
入学試験の種類等については、アドミッション・ポリシーに準じて設定している。また、入試広報委員及び学部長が参加する入試判定会議で公正に審議し、健康医療科学部教授会で審議しており、適切かつ公正に実施している。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
特になし

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
特になし

提出日	2022年4月27日	学部・研究科	健康医療科学部
-----	------------	--------	---------

2021年度 大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準5 学生の受け入れ

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学生の受け入れ方針を定め、公表するとともに、その方針に沿って学生の受け入れを公正に行わなければならない。

点検・評価項目③	評価の視点
適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	○入学定員及び収容定員の適切な設定と在籍学生数の管理 ・入学定員に対する入学者数比率 ・編入学定員に対する編入学生数比率【学士】 ・収容定員に対する在籍学生数比率 ・収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
作業療法学科定員40名、理学療法学科定員60名を設定して、学生の受け入れを実施している。また、収容定員に対する在籍学生数比率などを事務局職員が網羅的にまとめ、ひと月1回の更新が行われている。さらに、在籍学生数の過剰または未充足について、医療創生大学内に設置された自己評価委員会及び全学教育委員会からの改善指示を受けており、対応を報告しているところである。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
在籍学生数の過剰または未充足を解消できていない。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
2021年度（令和3年度）自己評価報告に記載した通り、作業療法学科の定員充足に取り組む。

提出日	2022年4月27日	学部・研究科	健康医療科学部
-----	------------	--------	---------

2021年度 大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準5 学生の受け入れ

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学生の受け入れ方針を定め、公表するとともに、その方針に沿って学生の受け入れを公正に行わなければならない。

点検・評価項目④	評価の視点
学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	○適切な根拠（資料、情報）に基づく定期的な点検・評価 ○点検・評価結果に基づく改善・向上

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
学生受け入れの適切性は、入学試験の段階から教授会の審議にわたり定期的に評価されている。また、入学後における教育場面では、離籍率、留年率などを指標として、数値目標を定めて、定期的に自己評価委員会に報告するとともに、学部長会で点検・評価を実施している。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
特になし

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
特になし

提出日	2022年4月30日	学部・研究科	心理学部
-----	------------	--------	------

2021年度 大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準5 学生の受け入れ

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学生の受け入れ方針を定め、公表するとともに、その方針に沿って学生の受け入れを公正に行わなければならない。

点検・評価項目①	評価の視点
学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。	○学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針の適切な設定及び公表 ○下記内容を踏まえた学生の受け入れ方針の設定 ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像 ・入学希望者に求める水準等の判定方法

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
学部のHP、「心理学部」の「教育研究上の目的及び3つのポリシー」のページに「アドミッションポリシー」として、学生の受け入れ方針を公表している。また、募集要領（大学HP「入試情報」や紙媒体）において入試科目ごとに出願資格を定め、公表している。この中に、求める学生像が記載している。 この項目に関しては、大学に求められる要件を満たしている。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
課題・改善点等はない。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
特になし

提出日	2022年4月30日	学部・研究科	心理学部
-----	------------	--------	------

2021年度 大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準5 学生の受け入れ

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学生の受け入れ方針を定め、公表するとともに、その方針に沿って学生の受け入れを公正に行わなければならない。

点検・評価項目②	評価の視点
学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	○学生の受け入れ方針に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度の適切な設定 ○授業その他の費用や経済的支援に関する情報提供 ○入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制の適切な整備 ○公正な入学者選抜の実施 ○入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜の実施

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
心理学部のアドミッションポリシーは次のとおりである。 1. 人の心や行動について学んだことを活かして社会で活躍し、社会の発展に貢献したい人 2. 心理学を学ぶ上で必要とされる基礎学力（国語・英語）を身につけている人 3. 基本的なコミュニケーション力を身につけている人 4. 人間や社会に対する強い関心を持っている人 5. 思考・意欲の両面で積極的な人 アドミッションポリシーは「入学試験要項」によって受験生に明示されている。また、大学HPでも公開されている。アドミッションポリシーに従い、総合選抜型入試、学校推薦型選抜入試、一般入試、大学入学共通テスト利用試験、社会人特別入試という多様な入学試験を行っており、学生にも周知されている。本学部には、4名の委員で構成される入試・広報委員会が設置されており、全学の入試委員会と連携を取りながら運営されている。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠も含めて記載してください。）
この項目に関しては、大学に求められる要件を満たしているが、今後の社会情勢の変化により、入試形態の変更などは検討が必要となる可能性はある。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
特になし

提出日	2022年4月30日	学部・研究科	心理学部
-----	------------	--------	------

2021年度 大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準5 学生の受け入れ

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学生の受け入れ方針を定め、公表するとともに、その方針に沿って学生の受け入れを公正に行わなければならない。

点検・評価項目③	評価の視点
適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	○入学定員及び収容定員の適切な設定と在籍学生数の管理 ・入学定員に対する入学者数比率 ・編入学定員に対する編入学生数比率【学士】 ・収容定員に対する在籍学生数比率 ・収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
・入学定員60名のところ、2021年度の入学者数は35名（充足率0.58）、2022年度の入学者数は38名（充足率0.63）である。 ・編入学定員若干名のところ、2021年度の編入生は0名、2022年度編入生は2年生に1名であった。また、他学部からの転部・転科学生は、2021年度は2年生に3名、2022年度は2年生に2名、3年生に1名であった。 ・心理学部は設立されてまだ3年目であり、学生は3年生までしかいない。2022年4月1日現在の学生数は、1年生38名、2年生40、3年生31名、計109名である。3学年あわせての学生充足率は約61%である。 ・2021年度中の心理学部の離籍者は2年生の2名で、離籍率は3%であった。全学の離籍率に比べると少ない。 以上のように、学生充足率は低いのが現状である。そのため、学生充足率を高めることが現在の問題として挙げられる。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
学生充足率は低いのが現状である。大学名称の変更および学部改変により、人文学部よりも知名度が低くなったことが挙げられる。中学生・高校生に本学部の存在を理解してもらうことに力を入れている。 ①2022年度に中学生・高校生の保護者を対象とした講演会を企画する。また、本講演会に関連して高校生向けの出前講座や教育関係者向けの出張講座を企画し、地域の教育委員会等との連携を図る。これらの企画により、地域の住民に役立つ情報提供を行い、心理学部の存在をアピールすることにつなげる。 ②オープンキャンパスの来場者からは、総じて高評価を得ていることから、まずはオープンキャンパス等への参加を促すような広報活動に力を入れる。 ③SNS等で積極的に情報発信し、心理学という学問に関して正しい理解を高校生に持ってもらう。 ④さらに、社会人入試を充実させることで、地域に多様な教育を与えうる存在となるようにする。 これらの企画を通して、大学全体と協力して心理学部のアピールを行う。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
定期的に行っている学部の入試広報委員会にて、課題の洗い出しと対応策の検討を実施している。

提出日	2022年4月30日	学部・研究科	心理学部
-----	------------	--------	------

2021年度 大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準5 学生の受け入れ

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学生の受け入れ方針を定め、公表するとともに、その方針に沿って学生の受け入れを公正に行わなければならない。

点検・評価項目④	評価の視点
学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	○適切な根拠（資料、情報）に基づく定期的な点検・評価 ○点検・評価結果に基づく改善・向上

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
全体的な適切性については、4年に1度の大学基準点検評価のタイミングで、在学生人数等のデータをもとに点検・評価を行っている。また、1か月に1度実施されている学部の入試広報委員会にて、とくに点検評価項目③で提示した内容に基づき、入試活動・広報活動に関して議論を行い、改善に向けて取り組んでいる。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
学生受け入れの適切性に関する点検は実施しているものの、③で記したように学生充足率は100%に達しておらず、課題が残っている状態である。学部の入試広報委員会の委員だけではなく、大学事務や他の教員と積極的に意見を交換する機会を設けて改善を試みているが、その他に適切な手法がないか、検討が必要である。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
定期的に行っている学部の入試広報委員会にて、課題の洗い出しと対応策の検討を実施している。

提出日	2022年4月30日	学部・研究科	国際看護学部
-----	------------	--------	--------

2021年度 大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準5 学生の受け入れ

【大学基準】 大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学生の受け入れ方針を定め、公表するとともに、その方針に沿って学生の受け入れを公正に行わなければならない。
--

点検・評価項目①	評価の視点
学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。	○学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針の適切な設定及び公表 ○下記内容を踏まえた学生の受け入れ方針の設定 ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像 ・入学希望者に求める水準等の判定方法

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。） 本学の「科学的根拠(サイエンス)に基づいた術(アート)を備えた慈愛(ハート)のある医療人の創生」という理念のもと、国際看護学部は、アドミッションポリシーとして「国際的な視野を持って活躍できる看護師となることを希望している人」「心身ともに健全で思いやりと協調性をもって他者と接することができる人」「ものごとに積極的に誠実に取り組む姿勢が身についている人」「看護学を学ぶにあたって必要な基礎的能力を身につけている人」を定め、大学ウェブサイトにて常時公開している。学生の受け入れ方針について、入学希望者に求める学力水準については大学案内や募集要項等で明示している。入学希望者に求める水準等の判定方法は、入学前の学習歴、学力、能力などを大学独自の入学試験並びに調査書などで総合的な評価を行い、判定会議にて受け入れの可否を判定している。これらの方針は、大学ウェブサイト、大学案内、募集要項で公表するほか、本学の事務局職員による高校訪問、大学説明会などを通し、高等学校の進路担当者へ説明している。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠も含めて記載してください。） 学生の受け入れ方針を定め、複数の媒体を通じて公表をしており、現時点で課題等は特にない。
--

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）

提出日	2022年4月30日	学部・研究科	国際看護学部
-----	------------	--------	--------

2021年度 大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準5 学生の受け入れ

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学生の受け入れ方針を定め、公表するとともに、その方針に沿って学生の受け入れを公正に行わなければならない。

点検・評価項目②	評価の視点
学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	○学生の受け入れ方針に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度の適切な設定 ○授業その他の費用や経済的支援に関する情報提供 ○入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制の適切な整備 ○公正な入学者選抜の実施 ○入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜の実施

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）

本学部の受け入れ方針をふまえ、以下の入学試験を実施した。総合型選抜入試（面接プレゼン型・小論文型）（Ⅰ期・Ⅱ期・Ⅲ期）、学校推薦型選抜入試（一般公募、指定校推薦）、社会人特別入試、一般入試（前期・中期・後期）、大学入学共通テスト利用入試（前期・後期）と、幅広い機会を受験生に与えるように配慮している。また、授業その他の費用や経済的支援については、大学法人、日本学生支援機構をはじめ種々の奨学金についての情報を大学ホームページで公開している。入試業務の遂行について、2022年度入試は学部が開講して初めての入試であり、入試委員会が主体となって入試準備から実施に至る過程を適切に整備した。入試ごとに「入学試験実施要項」を作成し、教職員を対象とした説明会を実施することで、公平、公正、かつ円滑な試験を実施できるよう配慮し、入学者選抜を適切に実施できた。今年度は、合理的な配慮を必要とする受験生はいなかったが、事前に入学相談会等を通して、配慮が必要な受験生が相談できる機会を設けている。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）

2022年度入試では、総合型選抜入試Ⅰ期の合格発表前に総合型選抜Ⅱ期の出願期間が終了したことにより、重複の出願をし不利益を被った受験生がいた可能性がある。次年度の入学者選抜に同様の不都合が起らないようスケジュール調整が必要である。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）

2023年度入試では、入試方式の順番を調整し、総合型選抜Ⅱ期の出願時期が総合型選抜Ⅰ期の合格発表より後になる日程に設定した。

提出日	2022年4月30日	学部・研究科	国際看護学部
-----	------------	--------	--------

2021年度 大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準5 学生の受け入れ

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学生の受け入れ方針を定め、公表するとともに、その方針に沿って学生の受け入れを公正に行わなければならない。

点検・評価項目③	評価の視点
適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	○入学定員及び収容定員の適切な設定と在籍学生数の管理 ・入学定員に対する入学者数比率 ・編入学定員に対する編入学生数比率【学士】 ・収容定員に対する在籍学生数比率 ・収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
2021年度は、入学定員80名に対し、88名の学生が入学した（入学者数比率110%）。現在の在籍学生数は87名であり、在籍学生数比率は109%であることから、入学定員及び収容定員について適正に管理できている。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
18歳人口の減少や千葉県および近県に看護学部をもつ大学が複数あることを背景に、受験者の確保が困難な状況にあって、いかに優秀な入学生を確保できるかが大きな課題である。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）

提出日	2022年4月30日	学部・研究科	国際看護学部
-----	------------	--------	--------

2021年度 大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準5 学生の受け入れ

【大学基準】 大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学生の受け入れ方針を定め、公表するとともに、その方針に沿って学生の受け入れを公正に行わなければならない。
--

点検・評価項目④	評価の視点
学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	○適切な根拠（資料、情報）に基づく定期的な点検・評価 ○点検・評価結果に基づく改善・向上

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。） 2021年度の学生の受け入れについて、国際看護学部入試担当事務が入試状況（入試区分、受験科目ごとの得点、得点率）を総括した。開学部後1年が経過したところで、入学後の学習成績との比較検討を行い、受け入れの適切性について点検・評価を行う予定である。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。） 1学年のみの在籍であり、改善を必要とする点は現時点で明らかでない。
--

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）

提出日	2022年4月30日	学部・研究科	生命理工学研究科
-----	------------	--------	----------

2021年度 大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準5 学生の受け入れ

【大学基準】 大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学生の受け入れ方針を定め、公表するとともに、その方針に沿って学生の受け入れを公正に行わなければならない。
--

点検・評価項目①	評価の視点
学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。	○学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針の適切な設定及び公表 ○下記内容を踏まえた学生の受け入れ方針の設定 ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像 ・入学希望者に求める水準等の判定方法

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。） アドミッションポリシー、カリキュラムポリシーを定め、大学ホームページで公表するとともに、入試要項を配布し、入学試験および入学資格審査試験を適切に実施している。
--

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠も含めて記載してください。） 適切に実施されている。
--

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。） 特になし。

提出日	2022年4月30日	学部・研究科	生命理工学研究科
-----	------------	--------	----------

2021年度 大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準5 学生の受け入れ

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学生の受け入れ方針を定め、公表するとともに、その方針に沿って学生の受け入れを公正に行わなければならない。

点検・評価項目②	評価の視点
学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	○学生の受け入れ方針に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度の適切な設定 ○授業その他の費用や経済的支援に関する情報提供 ○入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制の適切な整備 ○公正な入学者選抜の実施 ○入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜の実施

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
大学ホームページで入試要項および入学資格審査試験要項を整備・公開するとともに、授業料その他の費用や経済的支援に関する情報提供を行なっている。また、入学者の選抜にあたっては面接時のルーブリックを導入し、応募者の希望する研究領域の専門性を有する教員が審査にあたることで公平かつ適切な選抜を行なっている。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
適切に実施されている。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
特になし。

提出日	2022年4月30日	学部・研究科	生命理工学研究科
-----	------------	--------	----------

2021年度 大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準5 学生の受け入れ

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学生の受け入れ方針を定め、公表するとともに、その方針に沿って学生の受け入れを公正に行わなければならない。

点検・評価項目③	評価の視点
適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	○入学定員及び収容定員の適切な設定と在籍学生数の管理 ・入学定員に対する入学者数比率 ・編入学定員に対する編入学生数比率【学士】 ・収容定員に対する在籍学生数比率 ・収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
入学定員に対する入学者比率および収容定員に対する在籍学生数比率ともに未充足である。その要因としては指導教員に関する情報不足が否めず、応募者に対する情報提供が不十分であると考えられる。そのため、入試広報を広く周知するために、大学院HPの教員紹介欄の改定を進めている。具体的には、研究テーマ、研究業績、外部資金獲得実績などの情報を詳細に記載し、入学希望者が選択しやすいよう工夫している。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
本研究科への入学希望者は基本的に社会人であり、新型コロナウイルス感染症の蔓延の影響もあり修業年限での学位取得が困難との印象を与えていると考えられる。そこで、長期履修制度の早期の実現に向けた検討を進めている。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
長期履修制度の早期の実現に向けた検討を進めている。

提出日	2022年4月30日	学部・研究科	生命理工学研究科
-----	------------	--------	----------

2021年度 大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準5 学生の受け入れ

【大学基準】 大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学生の受け入れ方針を定め、公表するとともに、その方針に沿って学生の受け入れを公正に行わなければならない。

点検・評価項目④	評価の視点
学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	○適切な根拠（資料、情報）に基づく定期的な点検・評価 ○点検・評価結果に基づく改善・向上

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。） 大学院においては教員の質の保証が必要であり、学生を適切に受け入れ学位を授与できるかどうかは教員の質にかかっている。そこで、本研究科では研究推進を主眼とするFDを実施し、教員の研究能力の向上に努めている。
--

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。） 上述のように、本研究科への入学希望者は基本的に社会人であり、長期履修制度の早期の導入が必須と考える。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。） 同上。

提出日	2022年4月30日	学部・研究科	人文学研究科
-----	------------	--------	--------

2021年度 大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準5 学生の受け入れ

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学生の受け入れ方針を定め、公表するとともに、その方針に沿って学生の受け入れを公正に行わなければならない。

点検・評価項目①	評価の視点
学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。	○学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針の適切な設定及び公表 ○下記内容を踏まえた学生の受け入れ方針の設定 ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像 ・入学希望者に求める水準等の判定方法

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
学生の受け入れ方針については、本学の「科学的根拠(サイエンス)に基づいた術(アート)を備えた慈愛(ハート)のある医療人の創生」という教育理念・目的に基づき定めた学位授与の方針（ディプロマポリシー）、教育課程の編成・実施方針（カリキュラムポリシー）を受けて、入学者受け入れ方針（アドミッションポリシー）として、大学ホームページにて公表している。入学者に求める水準などの判定は、学習歴、学力、能力などについて、調査書、研究計画書、筆記試験、面接試験などから総合的に評価し、判定している。入学希望者に求める水準などの判定方法については、入学試験要項に明示し、ホームページ上で公表している。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠を含めて記載してください。）
特になし

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
特になし

提出日	2022年4月30日	学部・研究科	人文学研究科
-----	------------	--------	--------

2021年度 大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準5 学生の受け入れ

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学生の受け入れ方針を定め、公表するとともに、その方針に沿って学生の受け入れを公正に行わなければならない。

点検・評価項目②	評価の視点
学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	○学生の受け入れ方針に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度の適切な設定 ○授業その他の費用や経済的支援に関する情報提供 ○入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制の適切な整備 ○公正な入学者選抜の実施 ○入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜の実施

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
学生募集方法及び入学者選抜の制度はアドミッションポリシーに基づき設定され、費用も含め、大学院入学試験要項に明示され、ホームページ上で公表している。学生募集については、大学院説明会のポスターを作成して教育機関に郵送し、年に2回説明会を実施している。大学院入試は、学内からの推薦入試と、一般1期試験、一般2期試験を実施し、一般試験においては社会人入試も実施している。入学者選抜の運営体制については、入学試験の日程等については、事務局が立案し、研究科で検討し決定している。入学試験の実施に関しては、事務局と研究科教員とで協働して対応している。入試判定については、専攻の教員による専攻入試判定会議の後、総長（学長）、副学長、研究科長、専攻主任、入試広報委員長、事務局長、企画課長を構成員とする入試判定会議の承認を経て、研究科委員会での審議をのち決定され、選抜の公正性が保たれる体制となっている。入学者選抜時における合理的な配慮についても、大学ホームページ及び、大学院入学試験要項にて示されている。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠も含めて記載してください。）
特になし

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
特になし

提出日	2022年4月30日	学部・研究科	人文学研究科
-----	------------	--------	--------

2021年度 大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準5 学生の受け入れ

【大学基準】
大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学生の受け入れ方針を定め、公表するとともに、その方針に沿って学生の受け入れを公正に行わなければならない。

点検・評価項目③	評価の視点
適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	○入学定員及び収容定員の適切な設定と在籍学生数の管理 ・入学定員に対する入学者数比率 ・編入学定員に対する編入学生数比率【学士】 ・収容定員に対する在籍学生数比率 ・収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。）
2021年度の入学状況は、定員10名に対し入学者は2名で、比率は20%である。収容定員は20名に対し在籍学生数が3名で、比率は15%となり、入学定員、収容定員とも未充足である。大学院定員充足のための取り組みとしては、年に2回、大学院入試広報担当を中心に大学院説明会を実施している。説明会のポスターを作成、関係各所に郵送、掲示を依頼している。また2020年度からは、第1回説明会をオンラインで実施し、遠方の希望者にも対応できる体制とした。入学した学生の離籍防止対策としては、メンター制を用いて、入学時より各学生に1名のメンター教員をつけ、学習の進捗状況を把握し、アドバイスなど学修活動のサポート体制を整えている。また、専攻会議にて学生の全般的な様子について報告を行い、大学院担当教員が学生の状況を把握し、離籍防止に勤めている。

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠も含めて記載してください。）
収容定員の未充足への対応として、一つは心理学部生で大学院進学を希望しているものへの対応が挙げられる。2020年に教養学部を改組して設置された心理学部には、教養学部に比べて大学院進学希望者が多く在籍する。大学院進学を希望する学生に対して、大学院で求められる学修のレベルや心理実践家として求められる姿勢に関する正確な情報とともに提供しつつ、進学への意欲と資格取得への希望を醸成することが課題である。 一方で、公認心理師養成にあたり学生の実習時間が増えている。5名の臨床系教員の実習指導の時間も増えている状況で、臨床教育の質を担保する点からも、現在の教育体制を再検討し、適切な学生数の設定も検討している。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。）
心理学部の学生に対して、毎学期行われるガイダンス時と、これとは別に資格説明会を設け、資格取得に関わる学部での履修に関すること、大学院入試に関すること、公認心理師と臨床心理士の資格説明を行うなど、進学を検討する学生に大学院に関する情報提供を定期的に行う。 また、大学院進学を希望する学部生を対象とした勉強会に大学院生をサポート者として配置することで、学部生が学修をすすめるだけではなく、大学院生から大学院に関する情報を得る機会を設け、大学院での学修のイメージを持ち、大学院進学へのモチベーションを高める。 一方で、適切な入学定員についての検討を継続する。

提出日	2022年4月30日	学部・研究科	人文学研究科
-----	------------	--------	--------

2021年度 大学基準に基づく自己点検・評価シート

■大学基準を踏まえ、各学部・研究科ごとに点検・評価項目及び評価の視点に沿って、自己点検・評価を行ってください。

基準5 学生の受け入れ

【大学基準】 大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学生の受け入れ方針を定め、公表するとともに、その方針に沿って学生の受け入れを公正に行わなければならない。

点検・評価項目④	評価の視点
学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	○適切な根拠（資料、情報）に基づく定期的な点検・評価 ○点検・評価結果に基づく改善・向上

取り組みの現状（取り組みの有効性・適切性も含めて記載してください。） 臨床心理学専攻の教育内容として、対人支援に関する実務実習が主軸となる。したがって、対人支援の適性や外部実習及び内部実習の準備性の評価が必要となってくる。そこで「実習を行なう学生が身につけていることを期待される事項」として、対人支援を行うために求められる態度や姿勢をまとめたチェックリストを作成、学生に提示し、実習を始める段階、実習を半年行った段階で、個別に振り返る機会を設けている。それを通して、実習生一人一人の対人支援の専門家としての成長の状況をモニターしている。
--

課題・改善点（課題・改善点と判断した根拠も含めて記載してください。） 「実習を行なう学生が身につけていることを期待される事項」の項目については、その内容の適切性を継続して検討する必要がある。

改善計画（実施している場合は進捗状況を記載してください。） 「実習を行なう学生が身につけていることを期待される事項」の項目の適切性や不足している内容がなにかについて専攻会議で検討し、さらには、入学者の選別方法とも関連づけて入学してからでなく、入学時から対人支援の適性を判断できるよう工夫する。
--

全学教育委員会委員長 様

自己評価委員会 委員長 松本 司

2021年度自己点検・評価報告書及び改善課題について

2021年度の自己点検・評価報告書につきまして、「自己点検・評価に関する規程」第6条に基づき、別添のとおりご報告いたします。また、各部局の自己点検・評価結果を確認した結果、以下のとおり改善課題として認識いたしました。

医療創生大学内部質保証体制に基づき、全学教育委員会委員長及び自己評価委員会委員長の連名による改善の取組みを各部局へ依頼したく、ご検討のほどお願いいたします。

■薬学部【改善課題及び改善指示】 教育支援の成果として、目標には達しなかったものの、全国平均を大きく上回る国家試験合格率は評価できます。 改善課題として、前年度同様、留年率に改善が見られないので、引き続き、具体的な学生支援を行うとともに、入学定員充足に向けた募集活動を積極的に展開してください。
■看護学部【改善課題及び改善指示】 就職率100%を達成した就職支援は評価できます。 国家試験合格率については、改善傾向は見えるものの、前年度同様、全国平均を下回っている状況です。入学者激減の大きな要因ととらえ、具体的な教育支援、並びに入学者の確保、回復に向けた募集活動に注力してください。
■健康医療科学部【改善課題及び改善指示】 完成年度を迎え、卒業生を輩出する年度となるため、2022年度の目標としている国家試験合格率100%、就職率100%の達成に向け、教育・学生支援体制を再点検し、支援を行ってください。 OTは前年度同様、定員充足に改善傾向は見えるものの、充足できていない状況のため、引き続き学生募集活動に工夫、改善を行ってください。
■心理学部【改善課題及び改善指示】 学習環境の整備、資格取得に向けた教育支援の積極的な活動は評価できます。 学生募集については、前年度より改善の傾向は見えるものの、未だ定員充足には及ばない状況です。定員充足に向け、課題・改善点として認識している点（知名度の向上、高校生との接触機会の増加）を着実に実行してください。
■教養学部【改善課題及び改善指示】 数名の留年学生はいるものの、就職支援、教育（進級・卒業）支援は概ね目標を達成しているものと評価します。
■国際看護学部【改善課題及び改善指示】 開設初年度を終え、進級、留年、離籍の各指標の目標はおおむね達成されている状況です。 引き続き、各指標の目標達成に向け、支援体制の構築、支援内容の充実に注力してください。
■生命理工学研究科【改善課題及び改善指示】 前年度の改善課題として示した、大学基準協会の改善課題「学習成果の把握及び評価が行われていないため、効果的に測定するとともに結果を教育内容・方法に生かすこと」について、適切に対応してきたものと評価します。7月の改善報告書の提出に向け、根拠資料を含め、不備があれば補うよう万全の準備・取組みを行ってください。 また、定員充足に向け、積極的な募集活動に取り組んでください。
■人文学研究科【改善課題及び改善指示】 前年度の改善課題として示した、大学基準協会の改善課題「学習成果の把握及び評価が行われていないため、効果的に測定するとともに結果を教育内容・方法に生かすこと」について、適切に対応してきたものと評価します。7月の改善報告書の提出に向け、根拠資料を含め、不備があれば補うよう万全の準備・取組みを行ってください。 また、定員充足に向け、積極的な募集活動に取り組んでください。